

平成22年度 業務実績報告書

平成23年6月  
愛知県公立大学法人

## 大学の概要

### (1) 現況

#### ①法人名

愛知県公立大学法人

#### ②所在地

愛知県長久手町大字熊張字茨ヶ廻間1522番3

#### ③ 役員の状況

理事長 笹津 恭士

副理事長 2名

理事 3名

監事 2名

#### ④ 大学の概要

##### ○学部等の構成

##### ・愛知県立大学

(学部)

外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部、看護学部、情報科学部

(研究科)

国際文化研究科、人間発達学研究科、看護学研究科、情報科学研究科

(全学教育研究組織)

教育研究センター、学生支援センター、地域連携センター、学術情報センター

##### ・愛知県立芸術大学

(学部)

美術学部、音楽学部

(研究科)

美術研究科、音楽研究科

(全学教育研究組織)

芸術教育・学生支援センター、芸術創造センター、芸術情報センター、芸術資料館

##### ○学生数及び教職員数（平成22年5月1日現在）

##### ・愛知県立大学（新・旧）

学部学生 3,288名

大学院学生 197名

教職員 318名（教員222名、職員96名）

##### ・愛知県立芸術大学

学部学生 831名

大学院学生 203名

教職員 135名（教員88名、職員47名）

##### ・法人本部

職員 29名

## (2) 大学の基本的な目標等

### ①新しい愛知県立大学（愛知県立大学・愛知県立看護大学）

愛知県立大学と愛知県立看護大学は、これまで時代や社会のニーズに応えながら、その役割を果たし、実績を積み重ねてきたが、今日の競争的環境の中で、大学の使命や機能をより一層果たしていくために、平成21年度に統合再編し、教育研究基盤を強化した新しい中規模複合大学として、知の拠点を形成し、地域社会及び国際社会に貢献する人材の育成を目指して、教育・研究・地域連携を推進することとし、新しい愛知県立大学の理念を次のとおりとする。

#### ○ 新しい愛知県立大学の理念

- 1 「知識基盤社会」といわれる21世紀において、知の探求に果敢に挑戦する研究者と知の獲得に情熱を燃やす学生が、相互に啓発し学びあう「知の拠点」を目指す。
- 2 「地方分権の時代」において、高まる高等教育の需要に応える公立の大学として、良質の研究とこれに裏付けられた良質の教育を進めるとともに、その成果をもって地域社会・国際社会に貢献する。
- 3 自然と人間の共生、科学技術と人間の共生、人間社会における多様な人々や文化の共生を含む「成熟した共生社会」の実現を見据え、これに資する研究と教育、地域連携を進める。

#### ○ 学部・学科再編のコンセプト

- 1 グローバルな多文化共生を目指す
  - ・グローバルな「多文化共生」の実現に資する人文社会科学
  - ・言語、文化、社会に関わる教育・研究と、異文化理解、自文化理解、地域文化理解能力の涵養
  - ・高度な外国語能力あるいは優れた日本語能力と、異文化・自文化理解能力を備え、国際社会に羽ばたき、地域の国際化を担う人材の養成
  - ・地域の国際化・多文化共生を進める政策提言
- 2 社会における人間の共生を支える
  - ・人間の尊厳と発達を支えるヒューマン・サイエンス
  - ・社会における人間の共同性の回復、多世代間の共生、性差を越えた共生、健常者と障害者の共生、子育て支援・次世代育成、高齢者福祉、医療のための協働の実現を進める教育・研究
  - ・社会における「人間の共生」を支える公共的人材の養成
  - ・人間の発達、教育、福祉、医療に関する政策提言
- 3 科学技術と人間の共生を図る
  - ・情報科学・技術及び健康科学の高度化に対応する教育・研究の推進と、「科学技術と人間の共生」に関する課題の探求
  - ・「ものづくり技術の知的拠点」を支える情報技術開発と人材養成
  - ・「地域における人間の共生」、「グローバルな多文化共生」の課題を解決する技術の開発と人材養成
  - ・人間の健康を支える技術開発と人材養成
  - ・産学行政連携による地域経済振興

### ②愛知県立芸術大学

芸術は、太古から人間の暮らしに潤いを与え続け、常に人間の歴史とともにあった。人間は、芸術によって、自己を革新し、硬直する人間の思考を柔軟なものにしてきた。そして、優れた芸術は人間に知的な飛躍をもたらすものである。

愛知県立芸術大学は、独自の豊かな文化・芸術の伝統が育まれてきた愛知県に創設された「芸術の場」であり、当地域の芸術文化を育み、県内外に発信していくことが求められている。そのために本学は、開学以来培ってきた歴史を継承し、さらに発展させていく必要がある。

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、地元愛知はもとより国際的にも開かれた芸術文化の発信地となることを目指し、大学の理念を次のとおりとする。

#### ○ 愛知県立芸術大学の理念

- 1 学部から大学院までを視野に入れた一貫した教育研究体制の充実を図り、芸術家、研究者、教育者など芸術文化にたずさわる優れた人材の育成を目指す。
- 2 国際的な視野を持った高度な芸術教育を実践することにより世界に通用する優れた人材を育成し、国際的な芸術文化の創造・発信拠点となることを目指す。
- 3 教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、愛知県の芸術文化の発展に貢献することを目指す。

## 1. 全体概要（特記事項）

愛知県公立大学法人は、平成19年4月に愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県立看護大学の3つの大学を管理運営する主体として設立した。平成21年度には、県立大学と看護大学を統合すると同時に、旧県立大学の学部・大学院を再編成し、新たな県立大学としてスタートを切ったところであり、これにより、本法人が運営する大学は2大学となった。法人化4年目となる平成22年度は、第1期中期計画期間の後半に差し掛かる年度であり、運営にあたっては、引き続き、既成の枠にとらわれない自主・自立的な大学運営を展開し、質の高い教育・研究の推進と地域連携の強化を目指して取り組んでいるところである。

なお、平成22年度の大項目ごとの特記事項は、以下のとおりである。

### 1 大学の教育研究等の質の向上

#### 1-1 教育

##### (1) 実施体制、教育の内容等

###### ①新課程設置準備及び新組織設置

- ・人間発達学研究科博士後期課程の設置許可（県立大学）
- ・「芸術情報センター」の設置（芸術大学）

###### ②入学選抜方法の改善

- ・音楽学部声楽専攻における推薦特別入試の実施（芸術大学）

###### ③受験生等への広報の拡充

- ・大学紹介DVDの作成、名古屋市立大学との合同説明会開催（県立大学）
- ・オープンキャンパスにおけるワンポイントレッスン等の実施（芸術大学）
- ・広報誌「愛知県立大学の特色」作成（県立大学）

###### ④教職課程の充実

- ・教材作成室の整備、ホームページの開設（県立大学）

###### ⑤卒業生に対する継続教育

- ・名誉教授による講座「県大アゲイン」の実施（県立大学）

##### (2) 学生への支援

###### ①学生生活環境の向上

- ・学生アンケートに基づく施設の整備等（2大学）

###### ②学習指導の充実

- ・TA対象の研修会の実施（県立大学）

###### ③就職支援

- ・キャリア支援室での職員常駐化（県立大学）
- ・授業科目「インターンシップ」の開講（県立大学）
- ・急増した就職相談への対応、職業適性検査の実施（芸術大学）

#### 1-2 研究

実施体制、研究の水準等

###### ①学部を超えた研究プロジェクトの支援（県立大学）

###### ②科学研究費補助金申請に向けての支援（県立大学）

###### ③県立2大学における研究プロジェクトの採択（2大学）

#### 1-3 地域連携

##### (1) 各種機関との連携

###### ①行政等との連携

- ・COP10 パートナシップ事業の実施（県立大学）
- ・長久手町との包括連携協定締結（芸術大学）
- ・サテライト講座及び市町村における演奏会等の実施（芸術大学）

###### ②県内の他大学との連携

- ・戦略的大学連携支援事業の実施（県立大学）  
「共同図書環(館)のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」  
「成長型ICT教材を用いた医歯薬看護心身系大学連携による生活習慣予防教育体制の構築」
- ・「ナゴヤまちかどアンサンブル」としてミニコンサート実施（芸術大学）

###### ③幼小中高大連携の推進

- ・スクールボランティアの派遣（名古屋市・瀬戸市・長久手町）（県立大学）
- ・愛知県教育委員会主催「知の探究講座」への協力（県立大学）
- ・高大連携授業の実施（愛知県立岩倉総合高校）（芸術大学）

###### ④NPO・企業との連携

- ・子育て支援、障害者支援NPOと連携しフォーラム開催（県立大学）
- ・美術学部における受託研究大幅増（芸術大学）
- ・「アイシンさわやかコンサート」等と連携した演奏会の開催（芸術大学）

###### ⑤トリエンナーレとの連携

- ・あいちトリエンナーレパートナーシップ事業の実施（芸術大学）
- ・瀬戸内国際芸術祭への参加（芸術大学）

##### (2) 国際交流の推進

###### ①学術交流指定校の拡充

- ・ガジャマダ大学（インドネシア）等との協定締結（県立大学）
- ・ケルン音楽大学（ドイツ）、シラパコーン大学（タイ）等との協定締結（芸術大学）

###### ②助成金を活用した交流

- ・大幸財団の助成によるチェンマイ大学（タイ）研究者との共同研究（芸術大学）

###### ③在住外国人児童・住民支援等

- ・日本語支援活動の実施（県立大学）
- ・履修証明プログラム「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」の実施（県立大学）

###### ④海外芸術系大学との共同展覧会・演奏会の実施

- ・「愛知県・江蘇省友好提携記念」「県芸大・南京芸術学院交流提携記念」合同音楽会開催（芸術大学）
- ・上海万博日本館行事「愛知県ウィーク」での特別演奏会実施（芸術大学）
- ・アーティスト・イン・レジデンス事業の実施（芸術大学）

## 2 業務運営の改善及び効率化

### 運営体制の改善

#### ①経営戦略、事務等の効率化及び合理化

- ・事業予算評価委員への民間企業経営者の登用
- ・事業予算評価委員会の開催

#### ②人材育成・職員の登用

- ・人事育成方針に基づく研修の実施
- ・名古屋市立大学との相互参加による研修を実施
- ・実務経験を有する者の固有職員としての登用

#### ③成績評価制度の構築

- ・教員評価制度導入のための基本方針策定に向け検討

## 3 財務内容の改善

#### ①外部研究資金その他の自己収入の増加

- ・受託研究費の獲得や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得

[単位：件／千円]

区分	年度	県立大学		芸術大学	
		件数	金額	件数	金額
奨学寄附金	21	6	4,300	1	1,000
	22	3	1,700	5	5,100
受託研究費	21	3	10,509	3	3,253
	22	5	4,526	9	21,008
共同研究費	21	7	6,082	0	0
	22	7	7,091	0	0
科学研究費補助金	21	64	106,502	3	2,490
	22	82	137,331	7	14,430
受託事業費	21	2	15,142	1	700
	22	2	1,538	6	11,379
その他補助金	21	3	49,679	0	0
	22	3	53,978	0	0
計	21	85	192,214	8	7,443
	22	102	206,164	27	51,917

- ・学生納付金について高水準の納付率を維持 22年度：99.89% 21年度：99.91%

#### ②管理的経費の削減

- ・事業予算評価委員会での意見などを踏まえた検討
- ・2大学共通業務の一括契約及び長期継続契約の継続実施

## 4 自己点検・評価及び情報の提供

### ①評価の充実

- ・22年度計画に係る年度中間時点における進捗管理
- ・大学評価・学位授与機構による認証評価実施の準備（県立大学）
- ・大学評価・学位授与機構による認証評価の実施（芸術大学）

## 5 その他業務運営

### ①施設設備の整備

- ・外部専門家を交えた施設・設備整備検討会の実施（県立大学）
- ・食堂ラウンジ棟の増設工事着手（県立大学）
- ・施設整備ビジョンの策定（芸術大学）

### ②安全管理

- ・長久手キャンパス南門付近整備（県立大学）
- ・街路灯・防犯カメラ等整備（2大学）

### ③社会的責任

- ・環境負荷の低減：学内照明の一部LED電球への取替（2大学）

## 2. 年度計画の全体総括と課題

教育研究活動をはじめ2大学の管理運営全体について、概ね年度計画を達成した。  
特に、次の事項については成果を得ることができた。

### 【教育研究活動】

- 新課程設置準備及び新組織設置
  - ・人間発達学研究科博士後期課程の設置許可（県立大学）
  - ・「芸術情報センター」の設置（芸術大学）
- 教職課程の充実
  - ・教材作成室の整備、ホームページの開設（県立大学）
- 学習指導の充実
  - ・T A対象の研修会の実施（県立大学）
- 就職支援
  - ・授業科目「インターンシップ」の開講（県立大学）
- 学部を超えた研究プロジェクトの支援（県立大学）
- 県立2大学における研究プロジェクト採択（2大学）
- 学術交流指定校の拡充
  - ・ガジャマダ大学（インドネシア）等との協定締結（県立大学）
  - ・ケルン音楽大学（ドイツ）、シラパコーン大学（タイ）等との協定締結（芸術大学）
- 助成金を活用した交流
  - ・大幸財団の助成によるチェンマイ大学（タイ）研究者との共同研究（芸術大学）
- 海外芸術系大学との共同展覧会・演奏会の実施
  - ・アーティスト・イン・レジデンス事業の実施（芸術大学）

### 【地域貢献】

- 行政等との連携
  - ・COP10 パートナースhip事業の実施（県立大学）
  - ・長久手町との包括連携協定締結（芸術大学）
  - ・サテライト講座及び市町村における演奏会等の実施（芸術大学）
- 県内の他大学との連携
  - ・戦略的大学連携支援事業の実施（県立大学）
    - 「共同図書環(館)のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」
    - 「成長型ICT教材を用いた医歯薬看護心身系大学連携による生活習慣予防教育体制の構築」
  - ・「ナゴヤまちかどアンサンブル」としてミニコンサート実施（芸術大学）
- 幼小中高大連携の推進
  - ・スクールボランティアの派遣（名古屋市・瀬戸市・長久手町）（県立大学）
  - ・愛知県教育委員会主催「知の探究講座」への協力（県立大学）
  - ・高大連携授業の実施（愛知県立岩倉総合高校）（芸術大学）
- NPO・企業との連携
  - ・子育て支援、障害者支援NPOと連携しフォーラム開催（県立大学）
  - ・美術学部における受託研究大幅増（芸術大学）
  - ・「アイシンさわやかコンサート」等と連携し演奏会の開催（芸術大学）

- トリエンナーレとの連携
  - ・あいちトリエンナーレパートナーシップ事業の実施（芸術大学）
  - ・瀬戸内国際芸術祭への参加（芸術大学）
- 卒業生に対する継続教育
  - ・名誉教授による講座「県大アゲイン」の実施（県立大学）
- 在住外国人児童・住民支援等
  - ・日本語支援活動の実施（県立大学）
  - ・履修証明プログラム「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」の実施（県立大学）
- 海外芸術系大学との共同展覧会・演奏会の実施
  - ・「愛知県・江蘇省友好提携記念」「県芸大・南京芸術学院交流提携記念」合同音楽会開催（芸術大学）
  - ・上海万博日本館行事「愛知県ウィーク」での特別演奏会実施（芸術大学）

### 【大学運営】

- 入学選抜方法の改善
  - ・音楽学部声楽専攻における推薦特別入試の実施（芸術大学）
- 受験生等への広報の拡充
  - ・大学紹介DVDの作成、名古屋市立大学との合同説明会開催（県立大学）
  - ・オープンキャンパスにおけるワンポイントレッスン等の実施（芸術大学）
  - ・広報誌「愛知県立大学の特色」作成（県立大学）
- 就職支援
  - ・キャリア支援室での職員常駐化（県立大学）
  - ・急増した就職相談への対応、職業適正検査の実施（芸術大学）
- 経営戦略、事務等の効率化及び合理化
  - ・事業予算評価委員会の開催
- 評価の充実
  - ・大学評価・学位授与機構による認証評価の実施（芸術大学）
- 施設設備の整備
  - ・学生アンケートに基づく施設の整備等（2大学）
  - ・食堂ラウンジ棟の増設工事着手（県立大学）
  - ・施設整備ビジョンの策定（芸術大学）

ただし、計画の一部については、引き続き取り組むべき課題を残した。課題については、次のとおりである。

- 科学研究費補助金の全員申請（県立大学）
- 科学研究費補助金申請件数17件（全教員の20%）以上（芸術大学）
- 研究成果、取組状況の評価等の教員研究配分への反映・・・表彰制度の整備・実施（芸術大学）
- 公平な処遇を実現する人事制度構築

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

中期目標	<p>今日の社会環境の大きな変化に対応するため、自ら将来の課題を探究し、幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決することのできる能力、そしてさらに他者の文化を理解・尊重し、他者とコミュニケーションをとることのできる能力を涵養するとともに、高度で専門的な知識・技術・技能を身に付けさせ、地域や国際社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>また、教育の成果や効果を積極的に検証し、卒業生・修了生の質の保証に努める。</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p><b>ア 学部教育</b></p> <p>教養教育においては、専門分野の枠を超えて、広い視野、歴史的な視点、多元的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に的確に対応できる能力と豊かな人間性を涵養する。</p> <p>専門教育においては、各大学の学部学科の教育目標に沿ってそれぞれの専門分野における知識・技術・技能とその実践能力を修得させるとともに、さらなる発展・向上を期することができるよう、学部横断的な教育によって高い創造力や国際的視野を涵養する。</p> <p><b>イ 大学院教育</b></p> <p>各研究科の特性に応じた、特色のある教育研究課程を通して、高度で専門的な知識・技術・技能を備えた高度専門職業人、研究者や芸術家等、知識基盤社会を支え、地域社会や国際社会で指導的な役割を果たす優れた人材を育成する。</p> <p>また、より高度で専門的な大学院教育を実施するため、愛知県立大学においては、学部学科再編に併せ、研究科の再編及び新設を行う。さらに、愛知県立芸術大学及び愛知県立看護大学においては、平成19年度に修士課程を再編するとともに、平成21年度の博士課程の新設に向けて検討する。</p> <p>さらに、社会人のより高度なリカレント学習需要にも対応できるようにする。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に対するコメントなど
(1) 教育の成果に関する目標 ア 学部教育			
<p>(ア) 教養教育</p> <p><b>【共通】</b></p> <p>1 ① 広い視野、歴史的な視点、多元的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に的確に対応できる判断能力に加えて、豊かな人間性を身に付けることを目指す。このため、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>		

<p>しく理解する力の涵養等、新しい時代に求められる教養教育のカリキュラムを作成・実施する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・第一線で活躍している様々な芸術家を講師とする「芸術と諸科学」や、「日本演劇論」・「西洋演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・「芸術と諸科学」や「西洋演劇論」、「日本演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施し、芸術家として豊かな人間性を身に付けられるようにした。</p> <table border="1" data-bbox="1216 321 1902 600"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">履修</th> <th colspan="2">教員</th> </tr> <tr> <th>専任</th> <th>招聘</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術と諸科学</td> <td>2</td> <td>46名</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>西洋演劇論</td> <td>2</td> <td>89名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本演劇論</td> <td>2</td> <td>50名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本の近現代演劇</td> <td>2</td> <td>65名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目	単位	履修	教員		専任	招聘	芸術と諸科学	2	46名	1	6	西洋演劇論	2	89名	1	0	日本演劇論	2	50名	1	0	日本の近現代演劇	2	65名	1	0	
授業科目	単位	履修				教員																								
			専任	招聘																										
芸術と諸科学	2	46名	1	6																										
西洋演劇論	2	89名	1	0																										
日本演劇論	2	50名	1	0																										
日本の近現代演劇	2	65名	1	0																										
<p><b>【新県立大学】</b> 2 ② 新しい愛知県立大学(以下「新県立大学」という。)の教養教育は、全学共通のプログラムで実施する。 また、キャンパス間の学生交流を図るため、1年次の教養教育は学部に関わらず、長久手キャンパスで実施する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>																													
<p><b>【共通】</b> 3 ③ 新県立大学と愛知県立芸術大学(以下「芸術大学」という。)の2大学間の教養教育については、教員の相互派遣により選択科目の拡充を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b> &lt;選択科目の拡充：実施済み&gt; ・21年度に引き続き、県大と芸大との間で、教養教育の既設科目内で教員相互派遣を実施する。</p>	<p><b>【2大学共通】「年度計画を十分に実施している」</b> &lt;選択科目の拡充：実施済み&gt; ・2大学間で連携強化の検討を行い、県大における芸大教員による特別講義A「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナー」及び芸大における県大教員による「コンピュータ基礎」について、相互派遣により行い、教養科目の充実を図った。また、芸大の「音楽学研究総合ゼミ」に県大教員を派遣し、専門教育においても充実を図った。 [参考資料2]</p>																												
<p>(イ) 専門教育 <b>【新県立大学】</b> [平成21年度～] 4 ① 新県立大学の知的資産を有効に活用し、全学的な教養教育の充実に加えて、専門教育においても、複数の学部を対象とする共通科目、学部共通科目を開設する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>																													

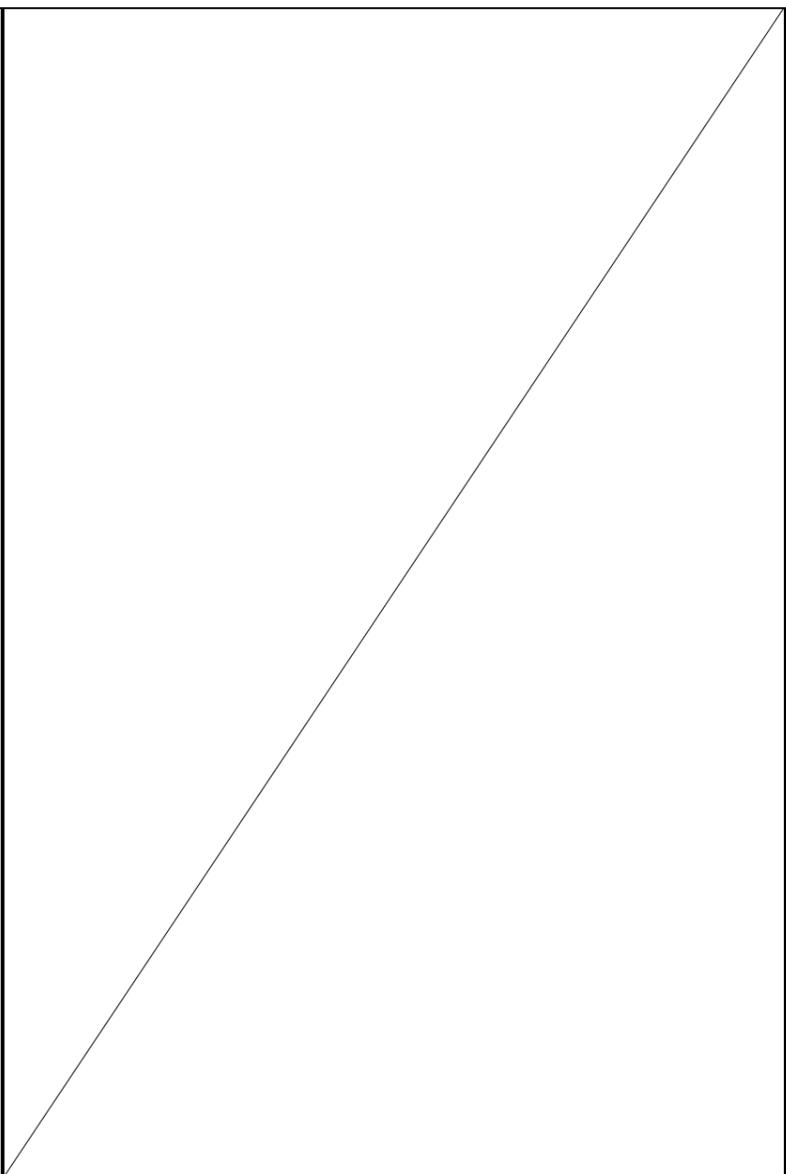
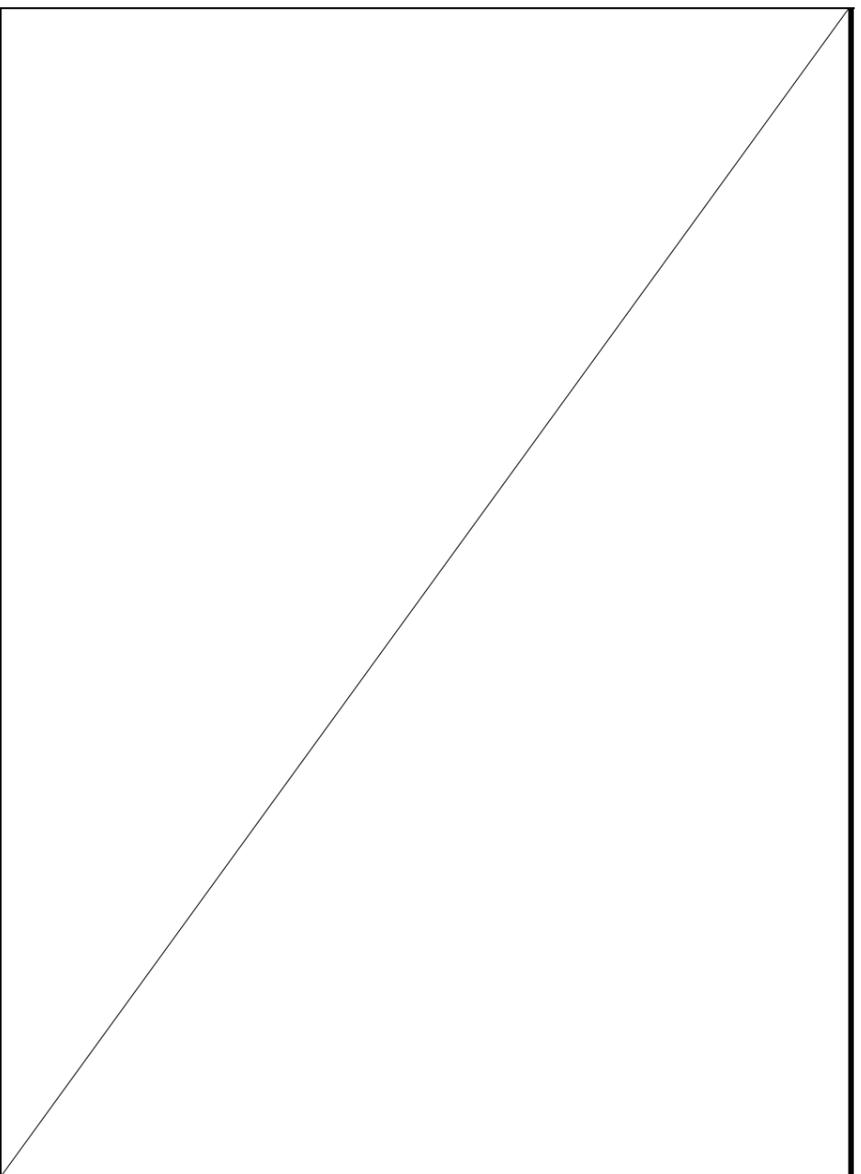
<p>5 ② 各学部・学科は、それぞれの教育課程を通して学生に修得させる能力を明確にして、専門教育の具体的到達目標を定め、体系的な教育カリキュラムを作成・実施する。<b>新規</b></p> <p>19年度～検討、21年度～実施 〔中略〕</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;体系的な教育カリキュラム作成：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画などシラバスの詳細化とそれに基づく授業展開について、21年度の状況を検証し、一層の充実を図る。</li> <li>・シラバスへの成績評価基準の明示とそれに基づく成績評価について、21年度の実施状況を検証し、一層の充実を図る。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>&lt;体系的な教育カリキュラム作成：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画の詳細化、成績評価基準の明示などシラバスの作成要領を教員に周知し、作成されたシラバスについては教務委員の確認を経た上で、学内ウェブ上で開示した。なお、23年度からは学外へも公開することにした。また、21年度の状況を踏まえ、事項毎の評価基準割合を明示した。</li> </ul>	
---	---	--	--

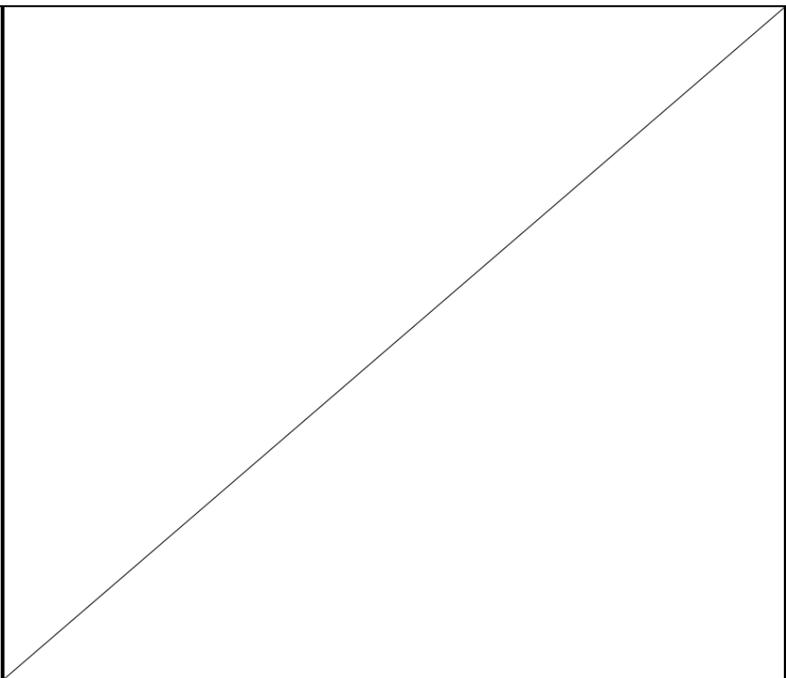
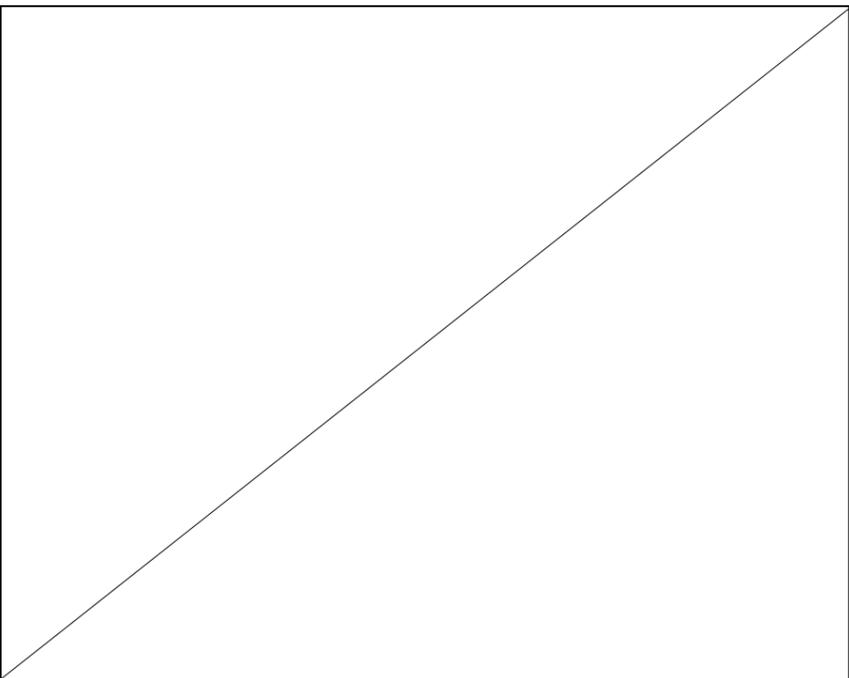
<p>【平成 19～20 年度】</p> <p>6 ③ 各学部・学科は、以下のような人材養成の目標を自覚的に追及し、必要なカリキュラムの改善を行う。</p> <p>(県立大学) <b>継続</b> 19 年度～実施</p> <p>a 文学部では、専門領域における知識を深めることを通して、思考力と理解力、ものごとを的確に把握し表現し伝える能力、問題を設定し解決・処理する能力の養成を図る。学科間乗り入れの科目を整備し、専門知識・技術の運用・実践能力を高めるカリキュラム、他分野へ視野を広げるカリキュラム、時代と地域のニーズに対応する授業科目の設置を検討する。</p> <p>b 外国語学部では、確かな語学力と専門知識をもって国際社会に貢献できる人材の育成を図る。各専攻言語の高度な運用能力の修得を保証しながら、かつ、広い視野を育成する歴史・社会、政治・経済、文学・文化、言語・思想を学科横断的に履修できるようなカリキュラムを検討する。また、実際的な語学力を育てる英語教育拡充のカリキュラムを検討する。</p> <p>c 情報科学部では、社会で即戦力として活躍できる実践的技術とそれを支える人間性を持った情報システム技術者の育成を図る。そのために、人材養成目標に沿った学習コースやプロジェクト型等の多様な授業の実施、卒業生の質を保证するための進級条件の設定を検討する。また、演習形態の授業を多くして教育補助者(TA)を積極的に活用する。</p>	<p>【県立大学】</p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>		
---	-----------------------------------	--	--

<p>7 ④ 看護学部では、科学的な根拠に基づく確かな知識、専門技術を修得し、高い実践能力と的確な判断力を養うとともに、高い倫理観を有し、主体的に行動できる人間性豊かな看護職を育成するために、教育課程を通して学生に修得させる能力を明確にして、体系的な教育カリキュラムを作成・実施する。(看護大学)</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>																			
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>8 ① 各学部学科専攻コースでは、以下のような人材を育成するため、各分野の専門性をより強化するとともに、豊かで柔軟な発想や創造性を高めたり、現代社会との接点を持つたりするようなプログラムを検討し、各専門分野にふさわしい体系的なカリキュラムを確立する。<b>継続</b></p> <p>19年度～実施</p> <p>[中略]</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>・デザイン専攻では、「デザイン特講」において各領域で活躍する専門家を招き、先端的な芸術表現を習得できるカリキュラムを作成・実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>・様々なデザイン領域、関連領域で活躍するプロダクトデザイナー等の専門家を招いて先端的な芸術表現を修得できるカリキュラムを作成・実施し、専門性をより強化するとともに、学生の創造性を高められるようにした。</p> <table border="1" data-bbox="1219 842 1902 1026"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">履修</th> <th colspan="2">教員</th> </tr> <tr> <th>専任</th> <th>招聘</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デザイン特講A</td> <td>2</td> <td>41名</td> <td>1</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>デザイン特講B</td> <td>2</td> <td>49名</td> <td>1</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目	単位	履修	教員		専任	招聘	デザイン特講A	2	41名	1	15	デザイン特講B	2	49名	1	15	
授業科目	単位	履修				教員														
			専任	招聘																
デザイン特講A	2	41名	1	15																
デザイン特講B	2	49名	1	15																
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>9 ② 教職免許等資格取得に関する教育課程について、新県立大学との教員の相互派遣により充実を図る。<b>新規</b></p> <p>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>・「教職入門」を教職課程履修者の必修とするとともに、「教育課程論」及び「特別活動論」については単位互換協定による特別聴講生を募集する。</p> <p>・芸術資料館を博物館実習の施設として活用するとともに、他の美術館、博物館等との連携を引き続き強化する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>・教員免許等資格取得に関する教育課程については、県大との単位互換制度を活用し教育の充実を図ることとし、従来からの対象科目「教育課程論」「特別活動論」に加え、「総合演習」の追加について、県大と協議を行い、23年度からの対象科目化を合意した。また、「教職入門」については、教職免許の取得を目指す1年次生の必修科目とした。</p> <p>・予備実習の施設として芸術資料館を活用するとともに、豊田市美術館の学芸員による講義を行った。また、トヨタ博物館で見学研修を行い、学芸員の業務についてより理解を深められるようにした。</p> <p>[データ集5]</p>	<p>(前年度評価：Ⅱ)</p>																	

(1) 教育の成果に関する目標 イ 大学院教育			
<p><b>【新県立大学】</b> [平成 21 年度～]</p> <p>10 ① 国際文化研究科を国際文化専攻、日本文化専攻の 2 専攻に、情報科学研究科を情報システム専攻、メディア情報専攻、システム科学専攻の 3 専攻に改組するとともに、人間発達学研究科、人間発達学専攻を設置する。</p> <p>看護学研究科については、助産師の養成を学部から大学院へ移行し、修士課程に助産学コースを開設する。また、豊かな知識と高度な研究能力を有する質の高い看護教育者、看護研究者を育成するため、博士課程の設置に向けて検討する。<b>新規</b></p> <p style="text-align: right;"><b>19 年度～検討、21 年度～実施</b></p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜国際文化研究科、情報科学研究科の改組：実施済み＞ ＜看護学研究科修士課程助産コース：開設済み＞ ・21 年度の検討を踏まえて、人間発達学研究科博士後期課程の設置許可申請及び修士課程の改組手続きを行う。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を上回って実施している」</b> ＜国際文化研究科、情報科学研究科の改組：実施済み＞ ＜看護学研究科修士課程助産コース：開設済み＞ ＜看護学研究科博士課程：設置済み＞ ・5 月末に人間発達学研究科博士後期課程の設置認可申請を行い、文科省の設置認可が厳しくなる中であって、意見や留意事項を付されることなく無条件で、10 月末に認可を受けた。修士課程（上記に伴い 23 年度からは博士前期課程）については、教育課程の充実のための学則改正により行い、23 年度から、その基礎をなす教育福祉学部の全教員が担当する教員体制の整備や教育福祉関係科目の導入を行った。</p>	
<p>11 ② 研究科・専攻ごとに人材養成の目的及び教育目標を明確に定め、それぞれの研究方法及び専門的知識を修得することができる体系的な教育プログラムを構築するとともに、前期課程（修士課程）と後期課程（博士課程）の役割、目的等を明確にする。</p> <p>また、課程制の確立を図るとともに、専門性が高まるような科目編成を行うことで、より先端的内容の教授が可能となる体制にする。</p> <p><b>新規</b>                      <b>19 年度～検討</b></p> <p>[中略]</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>[平成 19～20 年度]</p> <p>12 ③ 研究科・専攻ごとに教育目標を改めて明確にし、それぞれの研究方法及び専門的知識を修得することができる教育プログラムを構築する。また、教育の実質化を進め、課程制の確立を図る。(県立大学)</p> <p><b>継続</b>                      <b>19 年度～実施</b></p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p>		

<p>〔中略〕</p> <p>13 ④ 後期課程（博士課程）においては、学位の質を確保しつつ、円滑に学位授与を実現する研究指導体制を構築する。（県立大学）<b>継続</b></p> <p>19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>		
<p>14 ⑤ 看護学研究科において、広い視野に立って専門分野の学識を深め、科学的な思考力、高度な研究能力を養い、社会において指導的な役割を果たすことのできる優れた看護教育者、看護研究者を育成するとともに、高度な専門性、実践能力を有し社会に貢献する看護専門職を育成する。（看護大学）<b>新規</b></p> <p>19年度～実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年度から修士課程に認定看護管理者コースを開設し、看護管理者、看護行政を担う人材の育成を図る。</li> <li>・平成19年度から修士課程に専門看護師コース（がん看護、老人看護、精神看護、家族看護）を開設し、それぞれの専門領域を担う人材の育成を図る。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;修士課程における認定看護管理者コース：開設済み&gt;</p> <p>&lt;修士課程における専門看護師コース（がん看護、老人看護、精神看護、家族看護）：開設済み&gt;</p>		

<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>15 ① 現在の芸術における表現分野の高度化・多様化・脱領域化への対応のため、また、学部段階での高い専門性を有した学生の可能性をさらなる拡大のためには、これまでの専攻の枠を超え、さらに理論面も含めた横断的な指導体制や研究体制が必要との認識に立ち、平成 19 年度から大学院修士課程を美術研究科、音楽研究科とも一専攻化するとともに、理論面の教育・研究を強化する。これにより、専門教育の充実を図りながら、専攻の枠を取り払った相互交流を可能とする柔軟な教育研究システム及びカリキュラムを提供し、学生の進路選択の柔軟性を実現するとともに、学生一人ひとりの資質や興味を最大限伸ばす教育を通して、現代の様々な表現形態に対応した創造的人材を創出する。</p> <p>また、音楽と美術が融合した新たな独創的研究分野を生み出すことを目指す。<b>新規</b></p> <p>19 年度～実施</p> <p>[中略]</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>		
--	--	--	--

<p>16 ② 芸術分野における指導的役割を果たす高度な専門的能力を持つ人材を輩出し、愛知県から世界への芸術文化の創造と発信を担う教育研究機関として飛躍するため、美術研究科・音楽研究科にそれぞれ博士課程（後期課程）を設置する。<b>新規</b></p> <p>19年度～検討、21年度設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術研究科（博士課程）</li> <li>・音楽研究科（博士課程）</li> </ul> <p>理論的な研究によって裏づけられた高度な表現技術と研究能力を持ち、各専門において指導者となり得る真に自立した研究者及び表現者を育成する。</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>&lt;設置済み&gt;</p>		
--	--	---	---

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 教育の内容等に関する目標

中期目標	<p><b>ア 入学者の受入れ</b> 大学の理念・教育目標を踏まえ、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を明確にし、目的意識や学習意欲の高い入学者を募集・確保するとともに、優れた資質を持つ社会人を始めとする多様な経歴の入学者受入れのため、多様な入学者選抜方法を実施する。 また、受験生や高等学校が大学の教育内容や入試情報を的確に把握できるように、積極的な広報活動を展開する。</p> <p><b>イ 教育内容・方法の充実・改善</b> 社会や学生のニーズに的確に対応する魅力ある教育内容を確保し、学生の資質・能力を高めるため、自己点検・評価、学生評価、外部評価、ファカルティ・ディベロップメント等の組織的取組によって、教育の質的改善に努めることとする。 カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）を明確にし、これに基づき、教育内容・方法の改善を図るとともに、計画・実践・評価・改善を繰り返しながら、教育の充実を図る。 また、カリキュラムの内容については、学生の計画的な学習を促進するため、シラバスの記述等を改善して学生に分かりやすく明示する。</p> <p><b>ウ 厳正な卒業認定</b> ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を明確にし、成績評価基準等を学生に明示することにより、学生の学習目標設定を容易にするとともに、成績評価基準を厳格に適用し、卒業生・修了生の質を保証する。 また、大学に対する社会からの評価・信頼を得るため、ディプロマ・ポリシーを公表する。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(2) 教育の内容等に関する目標 ア 入学者の受入れ			
<p>(ア) アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)の明確化 【共通】 17 大学の理念・人材育成方針に基づき、学部、研究科・専攻ごとにアドミッション・ポリシーを明確にし、受験生へ周知する。 新規 19年度実施</p>	<p>【県立大学】 &lt;実施済み&gt;</p> <hr/> <p>【芸術大学】 &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>(イ) 入学者選抜方法の改善 【共通】 18 ① 優れた資質を持つ入学者の確保のため、学生の入学後の追跡調査等を実施し、入学者選抜方法の評価を行い、改善を図る。 また、各種選抜方法の入学定員については、志願者数及び入学者数等の状況を踏まえ、適正に設定する。 新規 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p>【県立大学】 ・推薦入試で入学した学生について、成績追跡調査を継続する。 ・一般入試後期日程の募集人員について引き続き検討する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 【県立大学】「年度計画を十分に実施している」 ・22年度推薦入試で入学した学生について、成績追跡調査を実施した。 ・23年度一般入試後期日程の募集人員を4名削減した。</p>	

	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽学部声楽専攻で推薦特別選抜を実施する。また、美術学部デザイン専攻で入試日数の見直しを行う。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた資質を持つ入学者を確保するため、音楽学部声楽専攻でも学校長の推薦に基づく推薦特別入試を実施した。また、22年度入試から入試日数を見直したデザイン専攻については、23年度入試でも引続き2日間で実施した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集1・2]</p> <table border="1" data-bbox="1210 411 1958 1012"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>専攻</th> <th>自己推</th> <th>社会人</th> <th>推薦特</th> <th>一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">美術</td> <td>日本画</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>油画</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>彫刻</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>芸術学</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>2日</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>2日</td> </tr> <tr> <td>陶磁</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">音楽</td> <td>作曲</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>音楽学</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>2日</td> </tr> <tr> <td>声楽</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>ピアノ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>弦</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>管打</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>3日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 「自己推」は自己推薦特別入試、「社会人」は社会人特別入試、「推薦特」は推薦特別入試、「一般」は一般入試  ※2 「◎」は22年度実施、「○」は導入済み、「一般」にある日数は、一般入試の実施に要する日数</p>	学部	専攻	自己推	社会人	推薦特	一般	美術	日本画		○		3日	油画		○		3日	彫刻	○	○		3日	芸術学		○		2日	デザイン	○	○		2日	陶磁		○		3日	音楽	作曲			○	4日	音楽学			○	2日	声楽			◎	4日	ピアノ				5日	弦			○	3日	管打			○	3日	
学部	専攻	自己推	社会人	推薦特	一般																																																																		
美術	日本画		○		3日																																																																		
	油画		○		3日																																																																		
	彫刻	○	○		3日																																																																		
	芸術学		○		2日																																																																		
	デザイン	○	○		2日																																																																		
	陶磁		○		3日																																																																		
音楽	作曲			○	4日																																																																		
	音楽学			○	2日																																																																		
	声楽			◎	4日																																																																		
	ピアノ				5日																																																																		
	弦			○	3日																																																																		
	管打			○	3日																																																																		
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>19 ② 少子化や国立大学の入学選抜方法方針の変更等に対応する入学選抜制度の検討を行う。<b>新規</b>  19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学選抜制度検討委員会にて完成年度後の入学選抜制度について検討する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学選抜制度検討委員会にて完成年（25年3月）後の入学選抜制度について検討を始めた。</li> </ul>																																																																					
<p>20 ③ 県内の高校との連携を強化するために、推薦入学試験定員枠の拡大及びセンター入試利用の推薦入学試験の是非を検討する。(県立大学)  <b>新規</b>  19年度～検討、20年度方針決定</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>																																																																						

<p>21 ④ 大学院においては、質の高い教育と研究に相応しい学生と多様な社会的、国際的な経験をもつ者を受け入れるため、一般学生・社会人学生・外国人留学生の入学試験を秋季と春季に実施する。また、情報科学研究科においては、推薦入試制度の実施を検討する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～検討、20年度方針決定</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b> 22 ② 社会人を始めとする多様な経歴を持つ者に専門的な芸術教育を受ける機会を提供するため、美術学部で行っている社会人入試について、音楽学部においても導入を検討する。<b>新規</b> 19年度～検討、20年度方針決定</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;音楽学部における社会人入試の導入：現状では導入しないとの方針を20年度決定済み&gt;</p>		
<p>23 ③ 現行入試制度では測れない能力や意欲ある者を受け入れるため、美術学部デザイン専攻で導入しているAO入試(自己推薦入試)について、他専攻においても導入を検討する。<b>新規</b> 19年度～検討、20年度方針決定</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・音楽学部声楽専攻で推薦特別選抜を実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・優れた資質を持つ入学者を確保するため、音楽学部声楽専攻でも学校長の推薦に基づく推薦特別入試を実施した。なお、美術学部では、デザイン専攻、彫刻専攻においては、自己推薦入試を実施している。 [データ集1・2]</p>	

<p>(ウ) 受験生への広報の充実</p> <p><b>【新県立大学】</b></p> <p>24 入学志願者の増加を図り、優れた資質を持つ入学者を確保するため、オープンキャンパス、高校などでの説明会・出張講義、ホームページ、大学案内パンフレット等により、受験生に対する広報活動を充実する。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他大学との合同説明会を学外で実施する。</li> <li>大学紹介のDVDを作成する。</li> <li>新聞等への大学紹介の掲載により広報活動をより充実させる。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を上回って実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学及び名古屋市立大学と長野県松本市で合同説明会を実施した。</li> <li>入試広報活動に利用するため大学紹介のDVDを作成した。</li> <li>朝日新聞と大学ランキングのタイアップ企画「東海の大学力 真価の証明」に参加し、朝日新聞紙上に大学紹介を掲載した。</li> <li>受験生に対する入試広報活動を以下のとおり実施した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1210 546 1970 827"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパスの実施</td> <td>2,869名</td> <td>3,003名</td> </tr> <tr> <td>高校での説明会・出張講義</td> <td>53回</td> <td>50回</td> </tr> <tr> <td>大学見学・説明会</td> <td>24回</td> <td>23回</td> </tr> <tr> <td>学外でのガイダンスへの参加</td> <td>18回</td> <td>16回</td> </tr> <tr> <td>23年度入学志願者数</td> <td>3,203名</td> <td>3,409名</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	オープンキャンパスの実施	2,869名	3,003名	高校での説明会・出張講義	53回	50回	大学見学・説明会	24回	23回	学外でのガイダンスへの参加	18回	16回	23年度入学志願者数	3,203名	3,409名	
区分	21年度	22年度																			
オープンキャンパスの実施	2,869名	3,003名																			
高校での説明会・出張講義	53回	50回																			
大学見学・説明会	24回	23回																			
学外でのガイダンスへの参加	18回	16回																			
23年度入学志願者数	3,203名	3,409名																			
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>入学志願者の増加を図り、優れた資質を持つ入学者を確保するため、オープンキャンパス、公開レッスン、ホームページ、大学案内パンフレット等により、受験生に対する広報活動を充実する。</p> <p><b>一部新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学外で行われる進路ガイダンスや入試説明会に積極的に参加し、大学のPRに努める。</li> <li>21年度のアンケートの意見を踏まえて、日程変更に関する広報活動を充実するとともに、引き続きオープンキャンパス参加者にアンケートを実施する。</li> <li>サテライト講座、アーティスト・イン・レジデンス、オープンキャンパス等で公開レッスンを行い、芸術大学における教育方法を広く県民に紹介するとともに潜在的な志願者の発掘に努める。</li> <li>高校等の大学訪問を積極的に受入れる。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を上回って実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受験生に対する入試広報活動を以下のとおり実施した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1210 949 1970 1230"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパスの実施</td> <td>1,070名</td> <td>1,022名</td> </tr> <tr> <td>高校での説明会・出張講義</td> <td>21回</td> <td>15回</td> </tr> <tr> <td>大学見学（個人及び団体）・説明会</td> <td>32回</td> <td>38回</td> </tr> <tr> <td>学外でのガイダンスへの参加</td> <td>21回</td> <td>20回</td> </tr> <tr> <td>23年度入学志願者数</td> <td>1,506名</td> <td>1,588名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>日程変更に関する広報活動の充実として、大学ホームページ及び進学情報誌への掲載を行った。また、オープンキャンパスにおいて、美術学部、音楽学部の学生・教員が合同でオープニングセレモニーを企画・運営し、各専攻においてもワンポイントレッスン等を実施した他、学生と参加者が一緒に指導を受け、演奏発表する弦楽合奏セミナーを実施するなど、内容を充実させるとともに、参加者アンケートを実施した。</li> <li>サテライト講座において、座学やワークショップだけでなく声楽「北欧の歌」「日本の歌曲を歌う」、ピアノ「ショパンから学ぶこと」、弦楽器「音で語るⅢ」の公開レッスンを設定してレッスン受講者を募集し、潜在的な志願者の発掘に努めた。</li> <li>岐阜県立加納高等学校等12校の大学見学があった。</li> </ul> <p>[参考資料9]</p>	区分	21年度	22年度	オープンキャンパスの実施	1,070名	1,022名	高校での説明会・出張講義	21回	15回	大学見学（個人及び団体）・説明会	32回	38回	学外でのガイダンスへの参加	21回	20回	23年度入学志願者数	1,506名	1,588名	
区分	21年度	22年度																			
オープンキャンパスの実施	1,070名	1,022名																			
高校での説明会・出張講義	21回	15回																			
大学見学（個人及び団体）・説明会	32回	38回																			
学外でのガイダンスへの参加	21回	20回																			
23年度入学志願者数	1,506名	1,588名																			

<p>(エ) 入試広報体制の整備</p> <p><b>【新県立大学】</b></p> <p>25 入学者選抜方法の改善、制度の見直し、入試広報の充実のための専門スタッフ体制の強化として、入試広報室と教員（兼任）の総括者を設置する。（県立大学）<b>新規</b>19年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;入試広報室と教員の総括者の設置：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者選抜方法や入試広報のあり方等の検討材料とするため、オープンキャンパス時等に参加者アンケートを実施する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>&lt;入試広報室と教員の総括者の設置：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス時に参加者アンケートを実施し、その結果を今後の入試広報のあり方の検証に役立てた。</li> </ul>	
<p>(2) 教育の内容等に関する目標 イ 教育内容・方法の充実・改善</p>			
<p>(ア) 教員の授業内容・方法の組織的な改善</p> <p><b>【共通】</b></p> <p>26 ① 教育に関する自己点検・評価、学生による授業評価、外部の教員・研究者による評価、ファカルティ・ディベロップメント(FD)講習会、教員間の授業交流等を定期的に実施し、その結果を教育内容や教育方法の改善に活用する。<b>継続</b></p> <p>教育に関する評価 19年度～実施</p> <p>学生による授業評価 19年度～検討・実施</p> <p>FDの充実（芸術大学は②） 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認証評価ワーキンググループにおいて、認証評価機関による評価のための資料収集、自己評価書等提出資料の準備を行う。</li> <li>・学生による授業評価アンケート方法を検討し、21年度とは別の科目を対象に、計画的に実施する。</li> <li>・教員による自己点検・自己評価を継続実施する。</li> <li>・学生による授業評価アンケート及び教員による自己点検・自己評価に基づき、教育内容や教育方法の改善に役立てる。</li> <li>・学生による授業評価、教員による自己点検・自己評価の結果は公開する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する自己点検・評価を行う。</li> <li>・学生による授業評価アンケートの結果を授業改善に活用する。</li> <li>・芸術系大学独自のFD講演会を実施する。</li> <li>・オーケストラや弦楽合奏等、授業における教員間の意見交換を行い、教育内容や教育方法の改善を図る。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度の認証評価実施に向けて、認証評価ワーキンググループにおいて、認証評価機関による評価の資料収集、自己評価書作成のための準備を行った。</li> <li>・学生による授業評価アンケートを、質問項目を検討した上で、学部専門教育科目について実施した。</li> <li>・自己点検・自己評価を実施した。</li> <li>・学生による授業評価アンケートをFD研究会で全学的に検討するとともに、各教員が自己点検評価で改善点を具体化し、教育方法の改善につなげるよう努めた。</li> <li>・学生による授業評価の結果は詳細版を印刷物及び学内ホームページで公開し、教員による自己点検・自己評価の結果は、冊子及びホームページで広く社会に公開した。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教員による自己点検・評価」シートの項目として教育活動について自己評価を行った。</li> <li>・授業評価アンケートを前期及び後期に実施するとともに、授業改善に活用するため、21年度実施分について報告書としてとりまとめ、教員へ配布した。</li> <li>・10月にFD講演会「FDの現状と課題」（講師：京都大学教授）を実施した。</li> <li>・各専攻での取組として、専攻会議及び授業内での意見交換を行い教育内容や教育方法の改善を行った。</li> </ul>	

<p><b>【芸術大学】</b> 27 ② 芸術教育独自の教育方法に配慮したFDのあり方を他芸術系大学とも連携して検討し、順次実施する。<b>新規</b> FDの充実 19年度～検討・実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・四芸祭において芸術系大学独自のFD活動について意見交換を行い、順次実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・四芸祭（東京芸術大学、金沢市立美術工芸大学、京都市立芸術大学、愛知県立芸術大学）に沖縄県立芸術大学を加えた五芸術において、23年度から体育・文化交歓会と併せて、基礎教育について等のFD活動について意見交換を行っていくことで合意した。</p>	
<p>(イ) カリキュラムの改善等 <b>【共通】</b> 28 ① カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）を明確にし、それに基づき教育内容・教育方法の改善を図る。<b>新規</b> 19年度実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・21年度に策定し、公表したカリキュラム・ポリシーに基づき、FD研究会等で教育内容・教育方法の改善を行う。</p> <hr/> <p><b>【芸術大学】</b> ・大学案内に教育内容・教育方法をカリキュラムポリシーとして明示し、必要に応じて各専攻会議等で改善を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ＜カリキュラム・ポリシーの明確化：実施済み＞ ・全学FD研究会において、学部別分科会を開き、学生による授業評価アンケート結果も踏まえながら、新設科目の教育内容の検討や、双方向型の授業にするための工夫の共有などを行った。</p> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・大学案内にカリキュラム・ポリシー（専攻概要）を明示するとともに、ホームページに掲載して学生に周知した。また、23年度大学案内への記載内容について各専攻で確認と見直しをした。</p>	
<p>29 ② 各授業科目の学習目標、授業方法、授業計画に加え、授業に向けた準備の指示、教育達成目標、評価基準を明確化し、シラバスに明示する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p> <hr/> <p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		

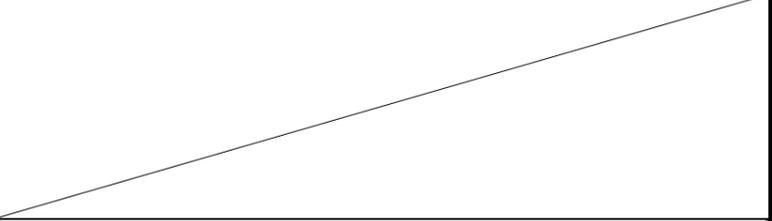
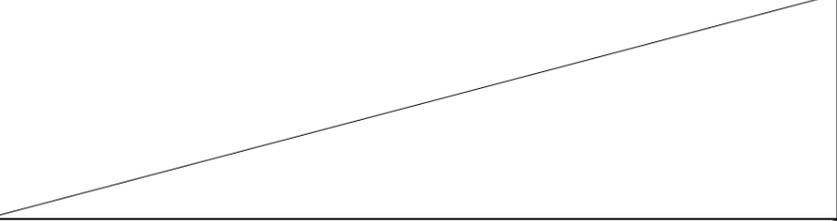
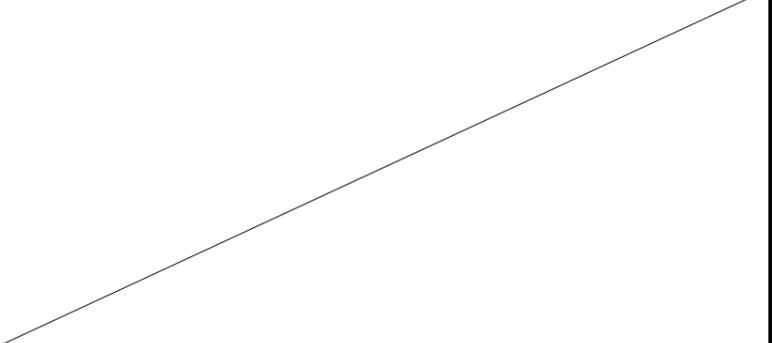
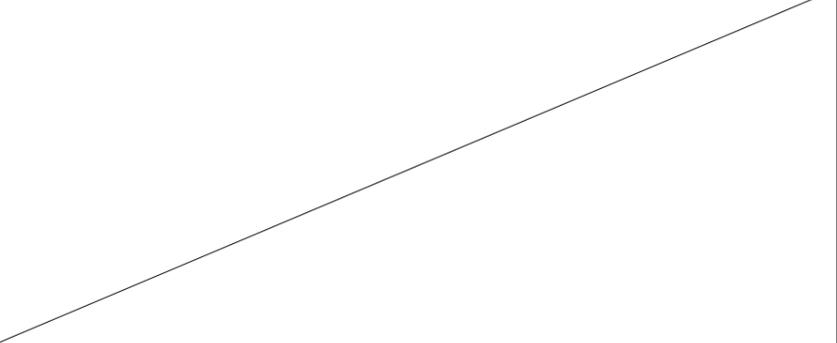
<p>30 ③ 社会環境の変化や学術研究の動向に対応し、カリキュラムの内容や開設科目の見直しを行う。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部・学科、研究科は、引き続き社会環境の変化や学術研究の動向に対応した新教育課程の見直しを行い、その一層の充実を図る。</li> <li>日本文化学部は、地域連携と国際化に対応すべく検討を継続する。</li> <li>看護学部は、平成21年7月の保健師助産師看護師法改正に伴い、平成25年4月カリキュラム修正に向けて、保健師教育に関する看護学部・看護学研究科の方針を検討する。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部・学科、研究科において社会環境の変化や学術研究の動向に対応した新教育課程の見直しを行い、外国語学部では、医療分野ポルトガル語スペイン語講座を継続開講することとした。</li> <li>日本文化学部では、地域連携と国際化に対応すべく、専門科目の教育内容に地域調査を盛り込むこととした。</li> <li>看護学部・看護学研究科では、保健師助産師看護師学校養成所指定規則を一部改正する省令が公布（23年4月1日施行）されたため、24年4月学部カリキュラム改正と目標期日を変更し、プロジェクトチームを立ち上げ検討した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>看護学部の保健師教育科目23単位を28単位に変更する。</li> <li>愛知県からの保健所実習人数の制限の通知に伴い、保健師教育を90名のうち18名程度のコース選択とする。他の学生は各看護学のコース選択とする。</li> <li>看護学研究科のウイメンズヘルス・助産学専門分野の助産選択科目23単位を28単位に変更する。</li> <li>学部保健師コースを選択して卒業する学生を受け入れ高度実践者を育成するために、看護学研究科地域看護学研究分野に高度実践コースを開設する。ただし、開設時期は今後の検討とする。</li> </ol> </li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料3]</p>																												
	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一線で活躍している様々な芸術家を講師とする「芸術と諸科学」や、「日本演劇論」・「西洋演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「芸術と諸科学」や「西洋演劇論」、「日本演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施し、芸術家として豊かな人間性を身に付けられるようにした。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1210 1354 1884 1627"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">履修</th> <th colspan="2">教員</th> </tr> <tr> <th>専任</th> <th>招聘</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術と諸科学</td> <td>2</td> <td>46名</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>西洋演劇論</td> <td>2</td> <td>89名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本演劇論</td> <td>2</td> <td>50名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本の近現代演劇</td> <td>2</td> <td>65名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目	単位	履修	教員		専任	招聘	芸術と諸科学	2	46名	1	6	西洋演劇論	2	89名	1	0	日本演劇論	2	50名	1	0	日本の近現代演劇	2	65名	1	0	
授業科目	単位	履修				教員																								
			専任	招聘																										
芸術と諸科学	2	46名	1	6																										
西洋演劇論	2	89名	1	0																										
日本演劇論	2	50名	1	0																										
日本の近現代演劇	2	65名	1	0																										
<p>a 学部教育（教養教育） <b>【共通】</b> 31 ① 時代の変化や地域、社会のニ</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>																													

<p>ズに対応する科目を充実する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p><b>【新県立大学】</b> 32 ② 一般教育科目（教養科目・教養演習・情報科目・外国語科目・健康・スポーツ科目）を系統的に整備する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養演習の趣旨を再検討し、適切な位置付けを与える。</li> <li>・外国語科目は、習熟度や関心に応じたクラス選択制の実施を検討する。</li> <li>・ポルトガル語等、地域の特殊性に配慮した外国語科目の設置を検討する。</li> <li>・健康・スポーツ科目は、生涯に渡る健康づくりとしての位置付けをいっそう明瞭にする。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】</b> ＜教養演習の位置付け：実施済み＞ ＜英語の習熟度別クラス編成：実施済み＞ ・英語のプレイスメント・テストによる習熟度別クラス編成の実施状況を検証し、必要に応じて改善を行う。</p> <p>＜ポルトガル語の開講：実施済み＞ ＜健康・スポーツ科目の位置付け：実施済み＞</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ＜教養演習の位置付け：実施済み＞ ＜英語の習熟度別クラス編成：実施済み＞ ・英語プレイスメント・テスト（語学力のレベル分けテスト）による習熟度別クラス編成は当面継続し、教育効果を高めるために次年度から1クラスあたりの人数を減らし、2クラス増設することとした。</p> <p>＜ポルトガル語の開講：実施済み＞ ＜健康・スポーツ科目の位置付け：実施済み＞ ・キャリア教育の充実を図るため、新科目「キャリア実践」の設置を決定し23年度から開講することとした。</p>	
<p>33 ③ 多様な入学者に対応するために、導入教育のあり方を検討する。また、高校との連携も視野に入れながら、入学前の学習状況・到達度を把握し、リメディアル教育の実施など入学後の教育課程との有機的な結合を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、22年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜リメディアル教育の実施：本学においては必要ないと判断し、開講しない方針を21年度決定済み＞ ・導入教育は、必要な学部において「基礎演習」などの形で引き続き開講する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ＜リメディアル教育の実施：本学においては必要ないと判断し、開講しない方針を21年度決定済み＞ ・21年度からの新カリキュラムでは「基礎演習Ⅰ」（外国語学部）、「基礎演習」（教育福祉学部）等の科目で学科専門教育への導入教育を行っており、引き続き実施した。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 34 ④ 教養科目の一層の充実と、学生の受講機会の増大を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・戦略的大学連携支援事業に基づき、教養科目の充実を目指す。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・戦略的大学連携支援事業（「共同図書環」）最終年度の計画に基づき、教養教育プログラムとしてキャリア教育プログラムや連携公開講座を実施し、教養教育の充実を図った。 [参考資料5]</p>	

<p><b>【芸術大学】</b> ③ 新県立大学との連携を図りながら、教養科目の一層の充実と学生の受講機会の増大を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・教育内容の充実を図るため、県大の教育研究センターと連携した授業を実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・県大の教育研究センターと連携して、前年度に引き続き単位互換制度の活用による授業科目の充実を図った。また、履修申込み期間を1週間延長して学生の受講機会の増大となるよう努めた。 [データ集5]</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 35 ⑤ キャリア教育科目を開設する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>36 ⑥ 情報科目の高校教育必修化等に対応して、情報処理教育科目の内容・実施方法を見直す。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>37 ⑦ 言語教育について、これまでの蓄積を生かし教育方法を学際的に研究し、言語教育プログラムの開発・改善に努める。そのために、「高等言語教育研究組織」の設置を検討する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～検討</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;高等言語教育研究組織の設置：実施済み&gt; ・スペイン語とポルトガル語の授業において、一部医療系の内容を入れる。 ・高等言語教育研究所において、言語別に非常勤講師を含めた科目担当者による検討会を持ち、教育内容、教授法等の改善を図る。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> &lt;高等言語教育研究組織の設置：実施済み&gt; ・スペイン語とポルトガル語の授業において、基礎的な通訳技術や基礎的医療通訳の実践など、一部医療系の内容を取り入れた。 ・高等言語教育研究所において、言語別に非常勤講師を含めた科目担当者による検討会を持ち、各言語の特性に応じた教育内容、教授法等となるよう改善を図った。 [参考資料3]</p>	
<p>38 ⑧ 卒業生に対する継続教育が可能になる方途と体制を検討する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～検討、20年度方針決定</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・サテライト・キャンパスや大学院活用について検討する。(本学名誉教授による講座開催の可能性を検討する。)  ・大学で開催する公開講座など各種講座、講演会、シンポジウムを、大学ホームページを使って卒業生に広く周知する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・サテライト・キャンパスや大学院活用について検討し、本学名誉教授による講座「県大アゲイン」を試行的に実施した。 「20世紀アメリカにおけるエスニシティのダイナミズム」 (外国語学部英米学科 野村達朗氏) 「死生観について」(外国語学部フランス学科 長谷川太郎氏) 「今、市政と向き合う」(外国語学部学部共通 早川鉦二氏) ・大学開催の講演会等について、大学ホームページ及び同窓会総会において周知を行った。</p>	

<p><b>【芸術大学】</b> 39 ② 芸術分野で活躍できる広い視野と豊かな人間性・教養を備えた人材を育成するため、教養教育のあり方を検討し、カリキュラムを見直す。 <b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・第一線で活躍している様々な芸術家を講師とする「芸術と諸科学」や、「日本演劇論」・「西洋演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・「芸術と諸科学」や「西洋演劇論」、「日本演劇論」等の芸術に関するカリキュラムを作成・実施し、芸術家として豊かな人間性を身に付けられるようにした。</p> <table border="1" data-bbox="1216 323 1887 600"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">履修</th> <th colspan="2">教員</th> </tr> <tr> <th>専任</th> <th>招聘</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術と諸科学</td> <td>2</td> <td>46名</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>西洋演劇論</td> <td>2</td> <td>89名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本演劇論</td> <td>2</td> <td>50名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本の近現代演劇</td> <td>2</td> <td>65名</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目	単位	履修	教員		専任	招聘	芸術と諸科学	2	46名	1	6	西洋演劇論	2	89名	1	0	日本演劇論	2	50名	1	0	日本の近現代演劇	2	65名	1	0	
授業科目	単位	履修				教員																								
			専任	招聘																										
芸術と諸科学	2	46名	1	6																										
西洋演劇論	2	89名	1	0																										
日本演劇論	2	50名	1	0																										
日本の近現代演劇	2	65名	1	0																										
<p>40 ④ 国際化社会及び高度情報化社会に対応できる人材育成のために、新県立大学との連携を図りながら、語学教育及び情報教育の質的向上に向けて検討する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・教育内容の充実を図るため、県大の教育研究センターと連携した授業を実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・前年度に引き続き、芸大の語学担当教員による県大の特別講義A「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナー」への出講及び県大の情報担当教員による芸大の「コンピュータ基礎」への出講を行い、教育内容の充実を図った。  [参考資料2]</p>																												
<p>41 ⑤ ディスカッション、ディベート、ワークショップ等、参加型教育手法の積極的導入を検討する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～改善</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p style="text-align: center;">/</p>																											
<p>b 学部教育（専門教育） <b>【新県立大学】</b> 42 ① セメスター制の導入の是非を検討し、多様化する学部学生の要請に応え、効果的な履修ができるようにする。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度方針決定</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p style="text-align: center;">/</p>																											
<p><b>【芸術大学】</b> セメスター制度を導入し、留学しようとする学生あるいは帰国した学生が効果的な履修ができるようにする。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p style="text-align: center;">/</p>																											

<p><b>【新県立大学】</b> 43 ② それぞれの領域の専門教育の一貫性を保持しながら、学生が他領域も学ぶことができるように、専門科目の一部として学部共通科目、複数学部共通科目を開設する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>44 ③ 時代の変化や地域、社会のニーズに対応する科目を新たに設ける。 ・看護学部においては、看護実践能力の向上に取り組み、医療英語・ポルトガル語や看護情報処理教育の強化を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>45 ④ 文部科学省の大学教育改革支援プログラム（GP）への応募等を通して教育プログラムと教員の教育能力の向上を図る。応募企画に沿って、プロジェクト型の授業や学部ないし学科を横断する授業、縦割り授業（複数学年対象の授業）などを企画する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・大学教育改革推進プログラムに応募する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・大学生の就業力育成支援事業に「『県大生日記』による就業力支援」を申請した。（結果：不採択）</p>	
<p>46 ⑤ 海外語学研修プログラムを単位認定できるよう学部教育課程の中に適切に位置付けるとともに、プログラムの充実を図る。（県立大学）<b>新規</b> 19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜単位認定：実施済み＞ ・海外語学研修プログラムに参加した学生から意見聴取を行い、プログラム改善の検討資料とする。 ・海外語学研修プログラムに参加する学生を対象とした事前指導の充実を図る。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ＜単位認定：実施済み＞ ・協定校ラス・アメリカ大学での語学研修において、同行したスペイン学科教員が、前年度参加学生からのアンケート結果をもとにプログラム改善を提案し、それらを確認した上で、講義を実施することとなった。 ・海外語学研修プログラムに参加する学生に対して、留学経験者の報告会を開催し、事前指導を充実した。</p>	

<p>47 ⑥ 教育職員養成課程については、支援カリキュラムを充実するとともに、特色のある教員養成に取り組む。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・幼稚園・保育園と小学校の連携を可能とする幼稚園教員・保育士・小学校教員の養成や、発達障害や外国人児童生徒などの特別なニーズ教育に対処できる教員の養成に取り組む。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を上回って実施している」</b> ・幼稚園・保育園と小学校の連携を可能とする幼稚園教員・保育士・小学校教員の養成や発達障害や外国人児童生徒などの特別なニーズ教育に対処できる教員養成を目的に、生涯発達研究所事業と連携して、フォーラム等を実施した。また、教職支援室では、発達障害児支援や外国人児童生徒支援など、地域の小中学校にスクールボランティアを派遣し研修に取り組んだ。 「発達障害フォーラム」(全3回) 「発達障害支援スクールボランティア研修講座」(全3回) ・教職課程のさらなる充実のために、教材作成室の整備や、ホームページ作成を行った。 ・高校(公民)専修免許状の課程設置申請をし、認可を受けた。 ・特色ある教員養成として、17・18年度に「教員養成GP」で実施した幼少連携と発達障害など特別ニーズ教育は、既にカリキュラム化しており、引き続き、生涯発達研究所と教職支援室の協働事業として継続実施していく。</p>	
<p>48 ⑦ 日本語教員課程、学芸員課程などについて、目標を定め支援カリキュラムを整備する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b> 49 ② 各専攻における専門教育を充実するための授業科目編成を行うとともに、アートマネジメント等の学生や社会のニーズに対応する科目やコンピュータ音楽等新たな芸術分野に対応するための科目を開設する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		

<p>c 大学院教育</p> <p><b>【新県立大学】</b></p> <p>50 ① 専攻分野に関する高度の専門的知識・技術の修得、幅広く深い学識、豊かな知性の涵養のために、大学院教育の組織的な展開を行う。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各研究科は、当該研究科の教育目標・人材育成の目的についての認識の共有化を図るため、引き続きFD研究会を実施する。</li> <li>人材育成方針に沿って、主・副指導教員の主導の下、教員間の連携を強化し、院生の研究テーマに応じた適切な研究指導を引き続き行う。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各研究科がFD研究会を実施し、院生と教員へのアンケート結果を討議(国際文化研究科)、大学院生による授業評価の実施(看護学研究科)などを行い、教育目標、人材育成について、認識共有を図った。</li> <li>各研究科は、主・副指導教員を決定し、研究指導を行うとともに、学生指導に関わる様々な情報を専攻会議にて共有(国際文化研究科)、研究科全体としての教員～院生交流会の開催(人間発達学研究科)などを引き続き実施した。</li> <li>国際文化研究科・人間発達学研究科・情報科学研究科では、年度当初に研究科の運営指導体制と教員の役割分担を明確にし、院生の教育的ニーズを反映した教育の発展を図っており、看護学研究科では、各研究分野の代表者からなる研究科委員会が役割分担し、組織的な教育を企画・展開しており、今後も引き続き、大学院教育の組織的な展開を図っていく。</li> </ul>	
<p>51 ② 各専攻及び課程における人材養成の目的、教育目標の明確化に沿った体系的な教育課程の編成と適切な教育・研究指導の実践を行う。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期課程の各専攻又は各研究分野の特性に沿った研究指導を行い、修士論文中間報告会などを組織的に実施する。</li> <li>後期課程では、専攻ごとに博士論文作成の途中経過を報告する研究会を実施する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期課程の各専攻は研究分野の特性に沿った研究指導を行い、修士論文中間報告会などを組織的に実施した。</li> <li>後期課程では、専攻ごとに博士論文作成の途中経過を報告する研究会を実施した。</li> <li>人間発達学研究科の前期課程において、23年度から社会福祉領域を拡充した一層の体系性を備えた教育課程(26科目から36科目)に移行するための学則改正を行った。</li> <li>新設大学院の設置認可申請書に明記した各研究科・専攻及び課程における人材養成の目的と教育目標に沿って、体系的に編成した教育課程に従った教育を実施するとともに研究指導を行った。</li> </ul>	



<p>53 ④ 前期課程（修士課程）では、課程制の確立を図ると共に、きめ細かい研究指導を行い、優れた修士学位論文の作成に導く教育を推進する。  <b>新規</b>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>  国際文化研究科：  ・ 研究指導について専攻毎に自己評価を行う。  人間発達学研究科：  ・ 質の高い修士論文の作成を可能とするため、論文構想、資料収集、調査、実験、執筆、研究発表などのきめ細かい研究指導を行う。そのために、1年次には修士論文構想発表会、研究経過報告会、2年次には2回の中間発表会及び最終発表会（公開口述審査）を実施する。  ・ 副指導教員制を有効に活用した研究指導体制を継続・強化する。  情報科学研究科：  ・ 副指導教員制を有効に活用した研究指導体制を実施する。  看護学研究科：  ・ 指導教員及び副指導教員による研究指導体制を継続する。  ・ 多分野の教員から意見を受ける機会として、研究計画発表会を継続する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>  国際文化研究科：  ・ 指導教員から提出された自己評価をとりまとめ、各専攻で検討した。  人間発達学研究科  ・ 指導教員及び副指導教員による研究指導体制により、きめ細かい研究指導を行い、修士論文指導のための発表会等は、全て計画通り実施し、公開口述審査については2月に実施した。   情報科学研究科：  ・ 指導教員及び副研究指導教員による修士論文の予備審査を1月に学生毎に実施した。  看護学研究科：  ・ 指導教員及び副指導教員による研究指導体制を継続した。   ・ 多分野の教員から意見を受ける機会として、研究計画発表会を継続した。   引き続き、各研究科において、指導教員・副指導教員による研究指導体制をとり、きめ細かい研究指導を行っていく。</p>	
--	--	---	--

<p>54 ⑤ 前期課程（修士課程）と後期課程（博士課程）を円滑に接続するための柔軟な教育プログラムの構築、学部専門教育との連携及び他研究科・協定研究科との単位互換制度の活用を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> 国際文化研究科： ・学部・協定研究科との連携を一層強化するとともに、他研究科との連携を引続き検討する。 人間発達学研究科： ・学部と修士課程を円滑に接続するための一助として、学部の授業科目に「原書講読」「教育発達学研究法」を導入・実施する。 ・他研究科との単位互換制度を23年度から実施する方向で検討する。  情報科学研究科： ・前期課程と後期課程の円滑な接続のための履修方法を4月のガイダンス時に提示する。 看護学研究科： ・前期課程研究コースから後期課程への円滑な接続のための教育・研究指導等を遂行する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> 国際文化研究科： ・他研究科との連携を検討した結果、人間発達学研究科との間で、23年度から単位互換制度を実施することとした。  人間発達学研究科 ・新たに「原書講読 A, B, C, D」「教育発達学研究法 A, B, C, D」を前後期計8コマ開講し、学部と修士課程の円滑接続を図った。 ・他研究科との連携を検討した結果、国際文化研究科との間で、23年度から単位互換制度を実施することとした。  情報科学研究科： ・主指導教員より履修方法等について、4月のガイダンスにて提示するとともに折に触れ指導し、円滑接続に努めた。  看護学研究科 ・前期課程は専門分野に分かれているが、後期課程は看護学分野として1つに統合されているため、円滑な接続ができた。</p>	
<p>55 ⑥ 後期課程（博士課程）では、高度で先端的な専門的知識を修得する国際的水準の教育課程を整備するとともに、博士学位の質を確保しつつ、円滑に学位授与を行いうる研究指導体制を確立する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> 国際文化研究科： ・専攻ごとに円滑な学位授与に至る研究指導体制を確立する。  情報科学研究科： ・国際的にも最先端の研究の円滑な実施が可能となるよう国際学会や国際会議への参加を促進する。 看護学研究科： ・主指導教員1名、副指導教員2名の指導体制の下、2年次に研究計画発表会を企画し、他教員からの示唆を受ける。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> 国際文化研究科： ・各院生が提出する研究調書及び主指導教員による研究指導状況報告を研究科会議で審議し、学位授与に至る研究指導の体制を確立した。 情報科学研究科： ・博士後期課程の学生が、国際学術論文誌への2件の論文発表及び国際会議における7件の発表を行った。  看護学研究科 ・引き続き、主指導教員1名、副指導教員2名の指導体制で実施するとともに、2年次に研究計画発表会を企画し、準備状況に応じて1年次後期に研究計画発表の機会を増やした。こうした研究計画発表会、研究計画審査を通して、他教員からの示唆を受けることができた。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b> 56 ① 学生が所属するそれぞれの領域の専門教育・研究の充実を図るとと</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		

<p>もに、分野の異なる教員による共同指導、共同研究による授業科目の開設及び柔軟なカリキュラム選択をそれぞれ可能とする。<b>新規</b> 19年度～実施</p>			
<p>57 ② 各研究科内の領域や両研究科を横断した授業科目及び大学に求められる地域貢献等を目的としたプロジェクト研究を行う授業科目を開設する。さらに、専門領域や研究科の枠を超えた美術と音楽の融合による独創的な教育の実践を行う。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>58 ③ 学生のニーズや興味に柔軟に対応するため、授業科目に Semester 制を導入するとともに、各専門領域や複合領域における多種多様な授業科目を開設し、学生の選択範囲を拡大する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>59 ④ 領域の異なる学生及び教員間の交流を活発にするため、学生が主体となって自主的に参加することができる授業科目を開設する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>60 ⑤ 学生の理論面の能力を向上させるため、修士論文を授業科目として単位設定するとともに、一部の実技系の学生に対しても論文作成を必修化する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ＜実施済み＞</p>		
<p>(ウ) 3 大学間単位互換制度の利用促進 <b>【共通】</b> 61 県立3大学間(平成21年度以降は2大学間)の単位互換制度の利用を促進するため、学生の利用しやすい履修申込期間を設定するなど、制度的な改</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・県立2大学間単位互換制度に係る広報周知方法の改善を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・従来の掲示板等による広報に加え、21年度に導入した教育支援システム(ポータルサイト)にも新たに単位互換制度に係る情報を掲載し、学生に広く周知した。</p>	

<p>善を図る。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b>          ・学生の履修登録における動向を踏まえ、学生への履修登録期間の周知徹底を図る。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・学生が履修登録しやすいよう申込み期間を1週間延長するとともに、学期始めに追加募集期間を設定して履修登録期間の周知徹底を図った。</p> <table border="1" data-bbox="1213 321 1866 464"> <thead> <tr> <th></th> <th>申込期間</th> <th>日数</th> <th>追加募集</th> <th>日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期</td> <td>1/18-2/5</td> <td>15日</td> <td>4/7-4/16</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>7/9-7/30</td> <td>15日</td> <td>9/22-10/1</td> <td>7日</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集5]</p>		申込期間	日数	追加募集	日数	前期	1/18-2/5	15日	4/7-4/16	8日	後期	7/9-7/30	15日	9/22-10/1	7日	
	申込期間	日数	追加募集	日数														
前期	1/18-2/5	15日	4/7-4/16	8日														
後期	7/9-7/30	15日	9/22-10/1	7日														
<p>(エ) 教育効果の検証  <b>【新潟立大学】</b>          62 ① 教育達成度を客観的に把握し、その結果を教育改革につなげるため、成績調査や卒業生の就職先へのアンケートなど、教育効果の検証方法について検討する。<b>新規</b>          19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・21年度に実施した就職先へのアンケートを整理し、教育効果を検証する。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b>  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・21年度に文学部卒業生の就職先に実施した企業アンケート結果について、分析と検証を行い、今後の教育にどう活かしていくかをまとめた。</p>																
<p><b>【芸術大学】</b>          実技を伴うとともに専攻によって専門性が全く異なるという芸術教育の特殊性に即した教育効果の検証方法を検討し、教育改革につなげる。<b>新規</b>          21年度～検討、24年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b>          ・教育効果を検証するため、卒業生の追跡調査を実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・卒業（修了）後1年、5年、10年経過した卒業（修了）生を対象に追跡調査を実施し、芸術教育の効果を検証するための基礎資料を整理した。</p>																
<p><b>【新潟立大学】</b>          63 ② 学生による調査結果、学習成果の発表、卒論・修論の中間発表や公開審査等の実施を検討し、教育成果の学内外における共有化を図る。<b>新規</b>19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・卒業論文・修士論文の発表会(中間あるいは最終)を公開で実施する。          ・優秀卒業論文・卒業研究・修士論文を褒賞し、内容をパネル展示する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・情報科学部、看護学部においては、学部及び研究科単位で、教育福祉学部では学科単位で、人間発達学研究科では研究科単位で、他の学部においては一部専門分野において、卒業論文・修士論文の発表会(中間あるいは最終)を公開で実施した。          ・優秀卒業論文・卒業研究・修士論文を褒賞し、内容を図書館内にパネル展示した。</p>																
<p><b>【共通】</b>          64 ① 各学部、学科、専攻、研究科において、人材育成方針に沿ったディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)を明確にし、公表する。<b>新規</b>          19年度実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・研究科、専攻ごとのディプロマ・ポリシーを作成し、公表する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・研究科、専攻毎のディプロマ・ポリシーを作成し、教育研究審議会での審議、承認を経て、公表した。これにより、すべてにおいて、ディプロマ・ポリシーを公表したこととなった。</p>																

	<p><b>【芸術大学】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>65 ② 各授業について、学習目標や成績評価基準をシラバスであらかじめ明示するとともに、厳格な成績評価を行う仕組みを構築する。<b>新規</b>          19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・シラバスに明示された成績評価基準に基づいて厳格に成績評価を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・シラバスに成績評価基準を明示し、それに基づいて厳格に成績評価を行うよう教員に周知した。また、学生からの成績に関する質問・意義・申立てについての受付制度を引き続き設けた。</p>	
	<p><b>【芸術大学】</b>          ・実技授業において複数教員による評価・講評を実施するとともに、すべての授業について成績評価に対する質問を受け付ける。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・シラバスに各授業科目の評価方法及び評価割合を明示するとともに、それに基づく評価を行った。また、評価に対して学生から質問を受付ける等、厳格な成績評価を行った。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b>          (学部教育)          66 ③ 学部の教育目標に応じた客観的で厳正な成績評価制度の導入に向けて、GPA制度等を検討する。  <b>新規</b>19年度～検討、22年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・外国語科目については、高等言語教育研究所において、言語別に非常勤講師を含めた科目担当者による検討会を持ち、成績評価のあり方について検討する。          ・成績平均値を早期卒業、成績優秀学生表彰、大学院推薦入学者選抜、奨学生推薦等に利用する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・英語、スペイン語、日本語の各言語科目について、非常勤講師を含めた担当者が検討会をもち、授業報告に基づいて、成績評価のあり方について検討した。今後は毎年、定期的に成績評価のあり方を含む検討会を開催する。          ・GPA制度については、卒業や進級の要件には採用しないものの引き続き、成績平均値は、優秀学生顕彰、大学院推薦、所属ゼミ決定、就職推薦などに利用していくことを確認した。</p>	
<p>67 ④ 学生の個々の条件に応じた教育方法を工夫するとともに、本人に対する教育達成度の明示、科目毎の成績評価分布の公表の手法を検討する。  <b>新規</b>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・教育達成度の明示に関する教員アンケートの結果をふまえ、科目特性に応じた学生本人への教育達成度明示の方法を、引き続き検討する。          ・全学英語教育に関しては、入学時全員統一テストにより英語力測定を行い、習熟度別クラス編成を引き続き実施する。学期末に再度統一テストにより英語力測定を行い、学生本人にも達成度を明示する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・前年度に行った教育達成度の明示に関する教員アンケート結果を教員に周知し、各学部、学科において科目特性に応じた方法で、学生に教育達成度を明示した。          ・全学的に英語統一テストを実施し、クラス編成に反映させるとともに、結果（全学、学部別、学科別の最高点、平均点及び分布）については学内公表を行っていくことと決定し、実施した。これにより、学生本人は、自身の点数から自身の到達度を相対化できることとなった。</p>	

<p>(大学院教育)</p> <p>68 ⑤ 学修の成果・学位論文に係る評価、修了の認定について客観性、厳格性及び公平性を確保するために、あらかじめ学生に評価基準を明示するとともに、これに係る諸規程及び履修ガイドライン等を整備する。<b>新規</b>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b>          (大学院教育)</p> <p>④ 学修の成果・学位論文に係る評価、修了の認定について客観性、厳格性及び公平性を確保するために、あらかじめ学生に評価基準を明示するとともに、これを適切に実施する体制を整備する。<b>新規</b>          19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>69 ⑥ 成績評価の厳格化を図りつつ、標準修業年限内に学位を授与することのできる研究指導體制の確立を図る。<b>新規</b>          19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b>          (学部教育)</p> <p>70 ③ 成績が特に優秀な学生に早期に社会で活躍し、または大学院等への進学の手続きを円滑にするため、指定した単位を取得した場合、3年次修了時点での卒業を認める早期卒業制度の導入を検討する。<b>新規</b>          19年度～検討、21年度方針決定</p>	<p><b>【芸術大学】</b>          &lt;早期卒業制度の導入:カリキュラム実施上不可能なため導入をしないとの方針を20年度決定済み&gt;</p>		

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (3) 教育の実施体制に関する目標

中期目標	<p>大学全体の教育の充実と教育改革を進めるため、全学的な教育に関する企画・立案機能及び教育改革推進機能を有するセンターとして、愛知県立大学及び愛知県立看護大学に「教育研究センター」を、愛知県立芸術大学に「芸術教育・学生支援センター」をそれぞれ平成19年度に設置し、教養教育の質を高めるためのカリキュラム編成を行い、全学的なファカルティ・ディベロップメントを実施する。</p> <p>また、附属図書館については、学術情報の電子化に対応して、その収集・発信機能を高めるとともに、学術情報を一元管理するため「学術情報センター」を愛知県立大学に、「看護学術情報センター」を愛知県立看護大学に、それぞれ平成19年度に設置する。愛知県立芸術大学については、図書館情報システムが本格稼動する平成22年度を目途として、「芸術情報センター」を設置する。</p> <p>なお、平成21年度の愛知県立大学と愛知県立看護大学の統合時においては、「教育研究センター」を長久手キャンパスに設置するとともに、「学術情報センター」の本部を長久手キャンパスに、「学術情報センター」の支部として「看護学術情報センター」を守山キャンパスに設置する。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
<p>【新県立大学】</p> <p>71 ①-1 大学全体の教育・研究の充実と教育改革を進めるため、県立大学及び看護大学に「教育研究センター」をそれぞれ平成19年4月に設置する。<b>新規</b>  <b>19年度設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学の教養教育の質を高めるための企画を行い、それを具体化するカリキュラムの編成、シラバスの作成を統括する。</li> <li>全学にかかわる授業の実施にあたって、企画にふさわしい担当教員のコーディネートを行う。</li> <li>教養教育及び教育職員養成課程については、新県立大学と芸術大学との教員の相互派遣により選択科目の拡充を図る。</li> <li>県内の各大学との単位互換を含む教育研究上の連携を進める。</li> <li>各学部・学科が専門教育に責任をもつことを前提としながら、全学にかかわる戦略的な専門教育を企画・運営・改善する。</li> <li>教育の質を高めていくために、FDを企画・運営する。また、各種</li> </ul>	<p>【県立大学】</p> <p>&lt;教育研究センター：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、県内の各大学との単位互換を含む教育研究上の連携を進める。</li> <li>学生自主企画研究、英語連続セミナーなど新しい取組の一層の充実を図る。</li> <li>教育補助者（TA）の活用方法について検討し、学部学生に対する指導を充実させる。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <p>&lt;教育研究センター：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、愛知学長懇話会を通じて他大学との単位互換を実施した。</li> <li>引き続き、英語連続セミナーを実施した。また、学生自主企画研究では、研究スキルアップ講座として「社会調査入門」「プレゼンテーション入門」を開催するとともに、審査基準の明確化と新たに研究発表会における優秀研究の表彰を行った。</li> <li>TA予算の増額とともに、TA対象の研修会を実施し、学部学生に対する指導を充実させた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料2]</p>	

<p>の授業評価を企画・運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よき教育の裏付けとなる研究の質を高めるための支援を行う。</li> </ul>			
<p>①-2 新県立大学の「教育研究センター」は、長久手キャンパスに設置する。<b>新規</b> 21年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b>      &lt;設置済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>① 大学全体の教育の充実と教育改革を進めるため、「芸術教育・学生支援センター」を平成19年4月に設置する。<b>新規</b> 19年度設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学の教養教育の質を高めるための企画を行い、それを具体化するカリキュラムの編成、シラバスの作成を統括する。</li> <li>・全学にかかわる授業の実施にあたって、企画にふさわしい担当教員のコーディネートを行う。</li> <li>・教養教育及び教育職員養成課程については、新県立大学と芸術大学との教員の相互派遣により選択科目の拡充を図る。</li> <li>・教育の質を高めていくために、FDを企画・運営する。また、各種の授業評価を企画・運営する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】</b>      &lt;「芸術教育・学生支援センター」の設置：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の充実を図るため、県大の教育研究センターと連携した授業を実施する。</li> <li>・芸術系大学独自のFD講演会を実施する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>      &lt;「芸術教育・学生支援センター」の設置：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸大教員による県大の特別講義A「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナー」及び県大教員による芸大の「コンピュータ基礎」について、教員の相互派遣により実施し、教養科目の充実を図った。</li> <li>・10月にFD講演会「FDの現状と課題」（講師：京都大学教授）を実施した。</li> </ul>	

**【新県立大学】**

72 ②-1 教育研究に対する支援強化を図るため、図書館機能を含めた学術情報の利用環境を整備し、県立大学に「学術情報センター」を、看護大学に「看護学術情報センター」をそれぞれ平成19年4月に設置する。**新規** 19年度設置

- ・大学の図書館として、研究図書館機能（電子的な学術情報提供を含む）、学習図書館機能、収蔵図書館機能を整備・強化する。
- ・学術情報の電子化に対応するために、学生や教員のニーズに基づいて、オンラインデータベースや電子ジャーナルの充実を図る。
- ・ホームページ等による図書館情報や学術情報の提供を充実し、県民を始めとする学外者の利用を促進する。
- ・情報セキュリティを強化するために、学術情報ネットワークのセキュリティのあり方について検討し、学術情報ネットワークの利用講習会を実施する。
- ・各学部が所有する学術情報をセンターが一元的に掌握し、これを発信する手法を検討する。（県立大学）
- ・情報処理教育システム、図書館システム等教育用情報システムの改善と管理体制の一元化を進め、大学の情報システム機能を向上させる。（県立大学）
- ・看護・医療技術関係の文献を中心に収蔵し、地域における看護情報の中核施設として整備する。（看護大学）

**【県立大学】**

- ＜学術情報センターの設置：設置済み＞
- ＜看護学術情報センターの設置：設置済み＞
- 「学術情報センター」において、引き続き下記の取組みを実施する。
- ・既存の電子ジャーナル・オンラインデータベースの「CiNii」「EBSCOhost Academic search Elite」「Cambridge Journals Online」などの活用を促進するため、学生向け講習会だけでなく、教員向けの講習会を行うとともに、新たなデータベースの導入計画を進める。
- ・21年度から本格的に実施した学内外の機関などと連携した展示企画・講演会をより効果的に実施する。
- ・新入生に対する図書館利用オリエンテーション、新入生へのおすすめ本リスト配布、図書館利用講座などの利用教育を教員と連携のもと効果的に実施する。
- ・レファレンスサービスの強化について検討する。
- ・携帯電話によるOPACの周知など効果的な広報をさらに進め利用拡大を図る。
- ・学術情報ネットワークの利用講習会や情報セキュリティ講習会などを教員と連携し効果的に実施する。
- ・23年度に予定する学術情報ネットワークの機器更新に向けて現行ネットワークシステムの問題点と次期ネットワークシステムに必要な機能を評価・検討し、構築

**【年度計画を十分に実施している】**

**【県立大学】「年度計画を十分に実施している」**

- ＜学術情報センター：設置済み＞
  - ＜看護学術情報センター：設置済み＞
  - ・「学術情報センター」において、引き続き下記の取組みを実施した。
  - ・既存の「CiNii」「EBSCOhost Academic search Elite」「Cambridge Journals Online」などの活用を促進するため、学生及び教員向けの講習会を7回開催した。また、新たに「PsycINFO」「Factiva.Com」「メディカルオンライン」などの5つの電子ジャーナル、オンラインデータベースを導入した。
  - ・展示企画では貴重書のデジタル化事業の紹介のため「古典籍の世界」として、原本とデジタル画像を展示した。また、5学部連携事業として「諍いの横顔」の図書の企画展示と講演・座談会を開催した。
  - ・図書館利用オリエンテーション「レポート・論文作成のための図書館利用法」では、教員との連携のもとでゼミ・クラス単位で実施し、前年を大幅に上回る参加があった。  
[図書館利用オリエンテーション参加人数]
- |      |      |
|------|------|
| 21年度 | 22年度 |
| 314名 | 577名 |
- また、「今月の5冊」を総集編としてまとめ、新入生へのおすすめ本リストとして配布した。
  - ・レファレンスサービスを強化するため、他大学の事例や国会図書館レファレンス共同データベースを検討した。
  - ・携帯電話によるOPAC(Online Public Access Catalog)の周知を始め、ホームページの充実や学内ポータルサイトへの情報提供など効果的な広報を進め利用拡大を図った。
  - ・学術情報ネットワークの利用講習会や情報セキュリティ講習会の計画的な実施を始め、個別の相談にも適時対応した。
  - ・次期ネットワークシステムの更新のため、ニーズの把握や仕様書の作成など計画的に準備を進めた。

	<p>準備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな図書館情報システムのスムーズな運用を進めるため、システム検討委員会を継続し管理体制を強化する。</li> <li>・学習支援設備の整備として21年度末に開設した、図書館内の端末室の活用を図る。</li> <li>・21年度から着手した貴重書のデジタル化のデータを、ホームページに掲載し学内外へ普及する。</li> <li>・21年度に実施した図書館、情報処理教育センターの運営や企画等への学生参加の経験を活かし、ライブラリーサポーターなど具体的な事業を展開する。</li> <li>・最終年度となる戦略的大学連携支援事業を、連携大学との協力により計画的に進め、次年度以降に継承すべき事業の形成を目指す。</li> </ul> <p>&lt;看護学術情報センターの設置：設置済み&gt; 「看護学術情報センター」において、下記の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の図書館として研究図書館機能、学習図書館機能、収蔵図書館機能の整備・強化を検討する。</li> <li>・学術情報の電子化に対応するために、学生や教員のニーズに基づいて、オンラインデータベースや電子ジャーナルの充実を目指す。</li> <li>・ホームページなどによる図書館情報や学術情報の提供を充実し、県民を始めとする学外者の利用を促進する。</li> <li>・看護・医療技術関係の文献を中心に収蔵につとめ、地域における看護情報の中核施設としての存在意義を果すべく整備を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな図書館情報システムのスムーズな運用を進めるため、システム検討委員会を開催し管理体制の強化を始め、定期的にシステムの検証を進めた。</li> <li>・学習支援設備として、パソコン室にパソコン10台を設置し活用を図った。</li> <li>・貴重書の「古俳書」の一部をデジタル化し、ホームページに掲載し学内外へ普及を図った。</li> <li>・図書館では、ライブラリーサポーターの前段階として、図書館ボランティアを募集した。情報処理教育センターにおいては、SAを活用して端末室の運営について意見交換を進めた。</li> <li>・次年度以降についてもTosho Ringや学長懇談会を継承することを連携大学長と協議し決定した。</li> </ul> <p>[参考資料5]</p> <p>&lt;看護学術情報センターの設置：設置済み&gt; 「看護学術情報センター」において、下記の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の図書館として研究図書館機能、学習図書館機能、収蔵図書館機能の整備・強化について、以下の取組を実施した。</li> <li>・医学中央雑誌について、同時アクセス数を8回線(21年度4回線)へ増加した。また、メディカルオンラインについて、同時アクセス数無制限として使用を開始し、EBSCO A-to Zについて、守山キャンパスでも利用できるように整備した。</li> <li>・ホームページに休館日、イベント(ナイチンゲール展など)、学術情報などを定期的に更新し、充実させた。</li> <li>・看護系新刊図書について、定期的に一覧を作成し、委員会が必要図書を選書して購入収蔵することを継続した。また、主要な看護系学会誌を継続して購入整備した。</li> </ul>	
<p><b>【新県立大学】</b> ②-2 新県立大学の「学術情報センター」は、本部を長久手キャンパスに、支部として「看護学術情報センター」を守山キャンパスに設置する。<b>新規</b> 21年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;設置済み&gt;</p>		

<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>② 教育研究に対する支援強化を図るため、図書館機能を含めた芸術情報の利用環境を整備し、平成 22 年度を目途に「芸術情報センター」を設置する。<b>新規</b></p> <p><b>22 年度設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大学の図書館として、研究図書館機能（電子的な学術情報提供を含む）、学習図書館機能、収蔵図書館機能を整備・強化する。</li> <li>• 学術情報の電子化に対応するために、学生や教員のニーズに基づいて、オンラインデータベースや電子ジャーナルの充実を図る。</li> <li>• ホームページ等による図書館情報や学術情報の提供を充実し、県民を始めとする学外者の利用を促進する。</li> <li>• 情報セキュリティを強化するために、学術情報ネットワークのセキュリティのあり方について検討し、学術情報ネットワークの利用講習会を実施する。</li> <li>• 各学部が所有する芸術情報、芸術資料館が所有する芸術資料及び附属図書館が所有する美術書、音楽書、楽譜、視聴覚ソフト等の資料を一元的に掌握し、これを発信する手法を検討する。</li> <li>• 図書館システム等教育用情報システムの改善と管理体制の一元化を進め、大学の情報システム機能を向上させる。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育研究に対する支援強化のため、図書館機能を含めた芸術情報の利用環境を整備し「芸術情報センター」を設置する。</li> <li>• 芸術情報の利用環境を整備するため、データベースの導入や基本検索システムを整備する。</li> <li>• 情報セキュリティを強化するために、芸術情報のセキュリティのあり方について検討を行う。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 22 年 4 月に芸術情報センターを設置した。</li> <li>• 芸術情報データベースの導入と基本検索システムの整備を行い、芸術情報の利用環境を整備した。</li> <li>• 情報セキュリティ委員会に情報セキュリティ対策部会を設置し、セキュリティ対策にあたった。</li> </ul>	
---	--	---	--

<p><b>【新県立大学】</b> 73 ③ 全学的に教務事務を担う教員組織及び事務組織を明確にすると共に、教育実施単位としての各学部・研究科において教員組織と事務組織の一層の連携を進め、教育実施の責任体制を強化する。 <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b> 教務事務を担う事務組織を一元化し、明確にすることにより、全学共通の教育課程の実施責任体制を強化する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【新県立大学】</b> 74 ④ 学科間・学部間・研究科間での教員の相互協力体制を整備し、各学部・研究科間横断型教育や資格取得支援等を含む教育内容の充実を図る。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・設置計画に基づき、学科間・学部間・教員の相互協力、外部講師招聘による授業を引き続き開講する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・「医療ポルトガル語」「地域福祉システム論」「英語連続セミナー」「中部の企業トップに聞く」等において、教員の相互協力、外部講師招聘を実施した。 ・既に学科間、学部間、研究科間でカリキュラムの相互協力ができる体制を確立しており、今後は教職課程など資格取得支援等を含む教育内容を充実させていく。 [参考資料2・3・4]</p>	
<p>75 ⑤ 外国人教員の採用や企業、行政等からの非常勤講師の招聘など、大学外の人材を活用する。(県立大学) <b>新規</b> 20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (4) 学生支援に関する目標

中期目標	<p><b>ア 学生支援窓口の一元化</b>          学生一人ひとりが学習に専念でき、学生の資質・能力を十分に向上させることができる適切な環境を整えるため、学生の学習、大学生生活、就職活動におけるきめ細かな学生支援を行う。このため学生窓口を一元化し、学生支援機能を集約したセンターとして、愛知県立大学及び愛知県立看護大学に「学生支援センター」を、愛知県立芸術大学に「芸術教育・学生支援センター」をそれぞれ平成19年度に設置し、学生に対するサービスの向上を図る。</p> <p>なお、平成21年度の愛知県立大学と愛知県立看護大学の統合時においては、「学生支援センター」の本部を長久手キャンパスに、支部を守山キャンパスに設置する。</p> <p><b>イ 学習支援</b>          ITを活用した学生利用情報システムの充実を図るとともに、オフィスアワー制度やティーチングアシスタント制度を充実すること等により、学習環境を整える。</p> <p>また、入学後の学習への意欲を増進させるため、成績優秀な学生を表彰する制度を設ける。</p> <p><b>ウ 生活支援</b>          学生が安心して充実した学生生活を送ることができるよう、学生相談や健康管理の体制を充実するとともに、学生の自主的活動を促進する。</p> <p><b>エ 就職活動支援</b>          学生が将来的な目標を持ちながら充実した学生生活を送るため、早い段階から将来への目的意識を明確に持ち自己の将来設計を考えられるよう、就職や自立に向けたキャリア教育に積極的に取り組む。</p> <p>また、就職希望者の全員就職に向けて、就職情報の提供や就職専門職員の相談体制の充実等、就職希望学生に対する支援を強化する。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(4) 学生支援に関する目標 ア 学生支援窓口の一元化			
<p><b>【新県立大学】</b>            76 ①-1 学生に対するサービスを向上させるため、学生支援を一元的に行う組織として県立大学及び看護大学に「学生支援センター」をそれぞれ平成19年4月に設置する。  <b>新規</b> 19年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b>            &lt;設置済み&gt;</p>		
<p>①-2 新県立大学の「学生支援センター」は、本部を長久手キャンパスに、支部を守山キャンパスに設置する。<b>新規</b> 21年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b>            &lt;設置済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b>            ①-1 学生に対するサービスを向上させるため、学生支援を一元的に行う組織として、「芸術教育・学生支援センター」を平成19年4月に設置する。<b>新規</b> 19年度設置</p>	<p><b>【芸術大学】</b>            &lt;設置済み&gt;</p>		

<p>【共通】 77 ② 個人情報保護に留意しつつ、学生に関する情報の一元化によって、入試、教育、学生支援の改善のためのデータ分析ができるようにする。 新規 19年度～検討、20年度～実施</p>	<p>【県立大学】 &lt;実施済み&gt;</p> <hr/> <p>【芸術大学】 &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>(4) 学生支援に関する目標 イ 学習支援</p>			
<p>(ア) 学生利用情報システム及び学習指導の充実 【共通】 78 ① ITを活用した学生への情報提供の充実を図るため、携帯電話、パソコンから教務情報（休講、実習情報等）や各種ガイダンス（奨学金、留学、就職）情報などが入手できるシステムの拡充や、パソコンを利用した科目履修登録が可能なシステムを導入する。新規 20年度～準備、21年度導入</p>	<p>【県立大学】 &lt;導入済み&gt;</p> <hr/> <p>【芸術大学】 &lt;導入済み&gt;</p>		
<p>79 ② 科目履修登録期間中は、教員が学生の履修相談に可能な限り対応する等、学生に対するきめ細やかな学習相談を行う。また、オフィスアワー制度を充実する。継続 県立大学・看護大学： 19年度～実施 芸術大学： 19年度～検討、20年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生は入学式に引き続き3日間の日程で、在學生は2日の日程で、履修指導、学生生活指導を行う。また、新入生ガイダンスでは留学生に対するガイダンスをチューター同席で行い、留学生の履修登録等がスムーズに行えるようにする。学部・学科毎に、入学後、新入生オリエンテーション合宿において、履修説明および履修指導、学内施設設備の利用法、学生生活指導について充実を図る。</li> <li>・21年度に実施したオフィスアワー制度の利用状況等の調査結果に基づき、制度の効果的な活用が図られるよう見直しを図る。</li> </ul> <hr/> <p>【芸術大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対するきめ細やかな対応ができるよう、学務課に履修相談に関するオフィスアワーを設定する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生、在學生ともに計画どおりガイダンスを行った。新入生ガイダンスでは、留学生に対するガイダンスにチューターを同席させて履修指導や学生生活指導、施設設備の利用などについて説明を行った。また、入学後の学部・学科における学科ガイダンスや合宿においても、履修指導等を行った。</li> <li>・オフィスアワーについての利用状況調査結果から、学生への周知を強化する必要があるため、教育支援システムも利用して学生に周知した。</li> </ul> <hr/> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常のオフィスアワーに加え、4月の履修登録期間中に教職課程の履修相談に関するオフィスアワーを設定し、担当職員が個別相談に応じる等、きめ細かい履修指導を行った。</li> </ul>	

80 ③ 実習や演習、実技指導などで優秀な大学院生を教育補助者（TA）として積極的に活用し、学部学生に対する指導を充実させるとともに、大学院生への教育トレーニングの機会を提供する。**県大・看護：継続**  
**芸大：新規** 19年度～実施

**【県立大学】**

・引き続き、学部学生に対する各種実習指導、演習指導に、大学院生をTAとして積極的に活用し、教育トレーニングの機会を提供するなど充実を図る。

**【芸術大学】**

・各学部の演奏会や展覧会に大学院生を参画させる等、効果的な教育トレーニングの場を提供する。

**「年度計画を十分に実施している」**

**【県立大学】「年度計画を十分に実施している」**

・引き続き、学部学生に対する各種実習指導、演習指導に、大学院生をTA（ティーチング・アシスタント）として積極的に雇用できるよう、新たにTA対象の研修会を実施した上で、教育トレーニングの機会を提供した。

〔22年度TA等活用状況〕

学 部	科目分類	TA・SA	総時間	主な授業
外国語	専門教育	24名	786	日本語学
日本文化	専門教育	12名	331	国語学研究（近代）
教育福祉	専門教育	24名	395	保育内容論
看護	専門教育	16名	600	基礎看護学演習・実習、成人看護学演習・実習など
情報	専門教育	81名	2,779	通信ネットワーク
教養教育		48名	1,121	情報処理A
計		205名	6,012	

**【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」**

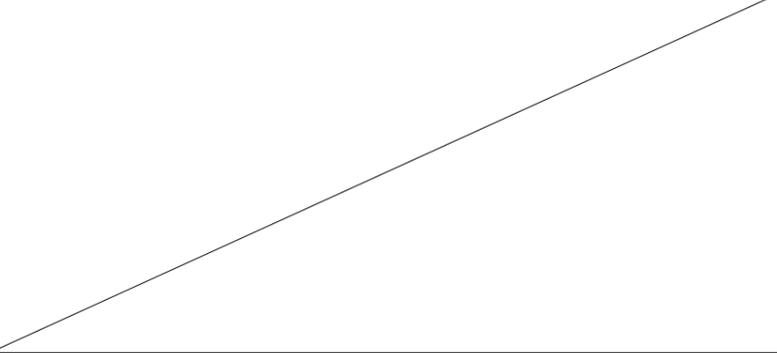
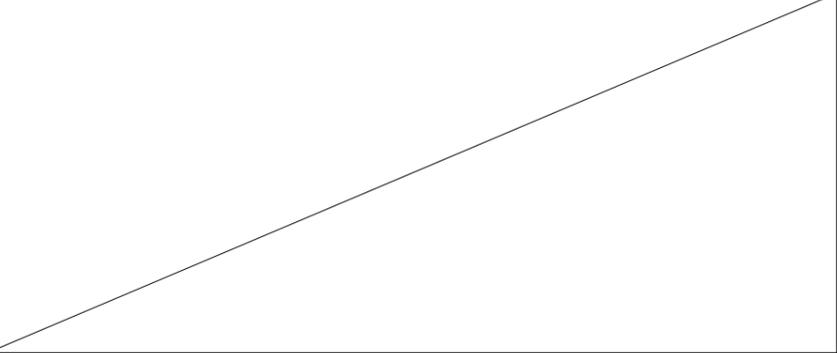
・引き続き、教員が補助を必要とする授業においてTAを活用し、指導を充実させた。また、音楽学部においては演奏会計画や進行の補助にTAを活用することで、効果的なコンサートマネジメント教育を行った。こうした取組みを今後も教育トレーニングの一環として活用していく。

学部	科目分類	TA・SA	総時間	主な授業
美術	専門教育	114名	1,729時間	各専攻実技
	基礎教育	8名	67時間	美術史概説
音楽	専門教育	86名	903時間	実技、オケ
	基礎教育	5名	370時間	音楽史概説
教養教育		19名	316時間	自由研究ゼミ
計		232名	3,385時間	

<p>81 ④ 成績優秀者に対する新たな独自の奨学金制度を導入する。<b>新規</b> 19年度～検討、20年度導入</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;導入済み&gt; <b>【芸術大学】</b> &lt;導入済み&gt;</p>		
<p><b>【新県立大学】</b> 82 ⑤ 全学生を対象にした担任制度(学習等の相談に応じる個人指導の教員制度)により、学生からの相談に対応し、学習指導及び進路指導を充実する。<b>県大：新規</b> <b>看護：継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>(イ) 教育学習環境 <b>【共通】</b> 83 ① 教育学習環境の維持・向上のため、必要な施設・設備の整備や適切な維持に努める。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・引き続きAV設備の更新を計画的に実施していく。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・長久手キャンパスでは、講義室のプロジェクターの更新、教室のパソコン接続コンセントの整備、教室のブラインドの取替え、講義室ドアのスリット化等を行った。守山キャンパスでは、中講義室のAV設備を更新した。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 84 ② 看護学術情報センター(図書館)の利便性を図るため、開館時間を延長する。(看護大学)<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b> 85 ③ 図書館の開館時間を延長するとともに、機能を充実する。<b>新規</b> 開館時間の延長 19年度～実施 機能の充実 19年度～検討、22年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;開館時間の延長：実施済み&gt; ・利用状況調査に基づいた効果的な資料収集を進める。  ・図書館利用者の利便性の向上を図るため、館内備品を計画的かつ効果的に整備する。</p>	<p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 &lt;開館時間の延長：実施済み&gt; ・新たに設置した芸術情報センターにおいて、利用状況を把握し、学生からのリクエストにはできるだけ応えながら資料収集を行った。 学生からのリクエスト件数 55件 うち、収集した資料等 42件 ・ナクソス・ミュージック・ライブラリー(インターネット経由の音楽配信サービス)を新規に契約するとともに、楽譜作成ソフトを搭載した学習支援用パソコンを4台設置し、利用者の利便性向上を図った。</p>	

(4) 学生支援に関する目標 ウ 生活支援			
<p>(ア) 経済的支援</p> <p><b>【共通】</b></p> <p>86 就学のための経済的支援として奨学金の情報提供を充実する。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金情報を学生に分かり易く提供する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>随時、ホームページの学内ポータルサイトや掲示板で、学生に周知するとともに、窓口でも丁寧な説明に努め、学生の修学支援としての奨学金の情報提供の充実を図った。今後も適宜、奨学金の情報提供を行っていく。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本学生支援機構の奨学金を始め各種奨学金について、ホームページや学内掲示板に情報を掲載し、学生にわかりやすく提供した。今後も引き続き、奨学金の情報提供を行っていくこととした。</li> </ul>	
<p>(イ) 学生生活支援・健康管理等</p> <p><b>【共通】</b></p> <p>87 ① 学生の心身の健康診断、健康相談等を実施するとともに、学生相談員（教員・保健師）による学生生活やセクシャルハラスメント・アカデミックハラスメントに対する相談、臨床心理士によるカウンセリング等の体制整備及び学生が利用しやすい保健室や学生相談室等の環境を整備することにより、学生生活における相談体制の充実を図る。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長久手キャンパスでは、常時実施する学生相談員による学生相談に加え、臨床心理士によるカウンセリングと、学校医によるメンタルヘルス相談の活用促進を図る。セクシャルハラスメントについては、引き続き、専門相談員を指名し、学生に周知を図る。</li> <li>守山キャンパスでは、引き続き、指導教員及び学生相談員による学生相談、臨床心理士による「心の健康相談」、専門相談員によるセクハラ相談を実施する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理士による心の健康相談、相談員による学生相談ハラスメント相談を引き続き実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長久手キャンパスでは、常時実施する学生相談員（教員）や保健師による学生相談に加え、臨床心理士によるカウンセリングを毎週火・木曜日各3時間、学校医によるメンタルヘルス相談を年6回実施した。また、外部講師を招いて学生に対するうつ病の予防に関する講習会を実施した。ハラスメントについては、引き続き専門相談員を置き、学生からの相談に応じる体制で取り組んだ。</li> <li>守山キャンパスでは、指導教員による担当学生の指導、学生相談員による学生相談に加え、臨床心理士による「心の健康相談」を原則週1回（年36回実施）、専門相談員によるセクハラ相談を実施した。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常時実施する学生相談員（教員）や保健師による学生相談に加え、臨床心理士によるカウンセリングを毎週火曜日に設定し、前期16回、後期12回実施した。セクシャルハラスメントについては、専門相談員を指名し、学生に周知した。</li> <li>医務室の一部を改修するとともに新しい備品を整備し、学生が利用しやすい環境を整えた。</li> </ul>	

<p>88 ② サークル、ボランティア、大学祭等学生による自主的活動を支援するとともに、学内行事（オープンキャンパス、公開講座等）への学生参加を促進することにより、学生による地域貢献活動への契機とする。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル、ボランティア、大学祭など学生の自主的活動に対する支援について充実を図るとともに、本学ボランティア学生の交流発表会を実施する。</li> <li>・学生の学内行事等への参加を促進する「県大サポーター」制度を導入・実施する。</li> <li>・オープンキャンパスにおける学科毎の学生による相談コーナーの充実を図る。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学内や学外での演奏会、展覧会活動を積極的に支援する。</li> <li>・成績優秀者に対して奨学金を交付することにより、学生の展覧会等の活動を経費面で支援する。</li> <li>・四芸祭や芸術祭等の実行委員会を支援することで、学生の参加を促進させる。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル、大学祭などの自主的活動の支援を実施した。また、生協の学生委員が行うクリーンキャンパス活動に協力し、周知活動や必要な道具の貸出し等を行った。さらに、ボランティア学生の交流を図るため、学生ボランティアシンポジウムを実施した。</li> <li>・21年度導入の「県大サポーター」制度により、入学式や新入生サポート等の学内行事への学生参加を促進した。</li> <li>・オープンキャンパスでは学科毎に学生による相談コーナーを設けたほか、学科毎のガイダンスを教員とともに行った。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のコンクールや公募展での受賞歴をまとめ、ホームページに掲載した。</li> <li>・成績優秀者奨学金事業として学生6名に対して奨学金又は海外渡航費を助成した他、県立芸術大学奨学基金（愛知県立芸術大学美術学部片岡球子奨学事業）から4名、愛知県立芸術大学中村桃子基金から2名、学生の芸術活動に係る経費を支援した。</li> <li>・四芸祭実行委員が中心になって四芸祭を実施し、他の芸術大学（東京芸大、京都市芸、金沢市芸、沖縄芸大）の学生との交流を行った。</li> </ul>	
<p>89 ③ 学生生活支援体制や大学生生活満足度について、学生アンケートを実施・調査分析し、学生のキャンパス生活環境向上を図る。<b>新規</b></p> <p>県立大学・看護大学：19年度～実施 芸術大学：19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;長久手キャンパス：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度に実施した守山キャンパスの学生生活アンケートの結果を分析し、学習環境の改善に反映させる。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19年度に実施したアンケート結果をふまえて、引き続き学生生活環境の向上を図る。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>&lt;長久手キャンパス：学生アンケートに基づく対策実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度に実施した守山キャンパスの学生生活アンケートの結果を分析し、講義室のAV設備の改善、スクールバスやシャトルバスの時刻変更、学生食堂の電子レンジ設置等を行った。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス生活環境の向上のため、学生アンケート結果を踏まえて、クラブハウスの修繕、大学会館と図書館のトイレの改修等を行った。また、バリアフリー対策として、デザイン棟に自動ドアとスロープの設置等を行うとともに、学内に防犯カメラや街路灯を整備するなど、セキュリティの向上を図った。</li> </ul>	

<p>90 ④ 禁煙啓発等たばこ対策を推進する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・全学喫煙禁止の徹底を図るとともに、引き続き、喫煙防止に関する啓発活動を推進する。</p> <p><b>【芸術大学】</b>          ・喫煙による健康被害に関する啓発活動を推進する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・長久手キャンパスでは、敷地内全面禁煙を継続し、禁煙防止に関する啓発活動として特別講演会「タバコの百害を知っていますか？」（講師：富永祐民氏 愛知県がんセンター名誉総長）等を実施した。ただし、喫煙者の要望及び防災上の観点から喫煙場所の設置を検討した。</p> <p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・喫煙による健康被害についての注意を呼びかけるポスターを掲示したほか、喫煙ができる場所について掲示等により周知徹底した。</p>	
<p>91 ⑤ 大学院生の安定した研究活動を支援する方策を研究する。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>          ・大学院生の安定した研究活動を支援する方策として、TA（ティーチング・アシスタント）やRA（リサーチ・アシスタント）などの経済的支援制度の運用を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・引き続き、TA・RA 制度による雇用を推進し、学部授業の充実とともに大学院生の経済的支援を行った。</p> <p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・引き続き、教員が補助を必要とする授業においてTAを活用し、指導の充実と大学院生の経済的支援を行った。</p>	
<p>(ウ) 障害者に対する支援  <b>【共通】</b>          92 誰もがスムーズな大学生活が送れるよう、バリアフリーの就学環境を整える。このため、教職員及び学生が一体となり障害者をサポートする体制を構築する。<b>新規</b> 19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>          &lt;実施済み&gt;</p>		
<p>(エ) 社会人学生に対する支援  <b>【新県立大学】</b>          93 社会人の就学を支援するため、研究指導等を弾力的に実施する。<b>新規</b>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・大学院では、社会人学生の要望に配慮して、研究指導の時間帯を調整する。          ・卒業研究については、指導教員が学生の要望に応じて個別に研究時間を設定し個々の実情に応じた研究指導を行う。</p>	<p><b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・大学及び大学院において、研究指導の時間帯については個々の実情に応じ、指導教官と協議の上で、柔軟な対応を行った。</p>	
<p>(オ) 留学生に対する支援  <b>【共通】</b>          94 ① 留学生に対する日本語教育の充実やチューター制度による学習・生活支援の充実等体制の強化を図る。<b>県大：継続</b> <b>看護、芸大：新規</b></p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・4月の入学時から、留学生の学習・生活支援のため必要に応じて留学生1名につき1名のチューターを配置する。また、留学生の日本文化体験の充実を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」          ・入学時から、留学生1名につき1名のチューターを配置した。また、日本文化体験として、チューターにも呼びかけ、能楽堂及び徳川美術館の視察や、京都への日帰りバス旅行を実施した。</p>	

<p>19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・チューター制度をより円滑に運用するため、チューター間の引継ぎを徹底する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・チューターを希望する学生がいなかったためチューターを配置しなかったが、必要な際には「外国人留学生チューター制度実施要綱」に基づき適切な対応を行うことを確認した。</p>																			
<p>95 ② 留学生を支援する相談窓口や学内情報伝達のための体制を整備・充実する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・学生支援・国際連携課の留学生担当者が担当教員と連携して、留学生の相談や情報伝達（奨学金、アルバイト、住宅等）を積極的に行うように努める。</p> <p><b>【芸術大学】</b> ・「芸術教育・学生支援センター」において留学生の支援体制を充実させる。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・引き続き、学生支援・国際連携課の留学生担当者が担当教員と連携して留学生の相談や奨学金、アルバイト、住宅等の情報伝達を積極的に行い、留学生を支援する相談窓口や学内情報伝達のための体制を整備し、充実を図った。 ・23年度以降は新たに設置される国際交流室が中心となって、留学生の支援を行っていくこととした。</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・芸術教育・学生支援センターをはじめ、学務課の担当者や指導教員が連携して、各種申請や相談窓口等の留学生の支援を行った。今後も引き続き、芸術教育・学生支援センターが中心となって留学生の支援を行っていくこととした。</p>																			
<p>(4) 学生支援に関する目標 エ 就職活動支援</p>																					
<p><b>【共通】</b> 96 ① 就職情報の収集に努め、学内ホームページの利用も含めてその提供方法の改善を図るほか、卒業生とも連携し、全学的な体制のもと、就職ガイダンスの充実を図る。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・キャリア支援室による就職情報（収集・提供）の一元化を図り、学生の個別状況を把握し、適切な情報提供や相談ができるよう、就職活動支援の充実を図る。</p> <p><b>【芸術大学】</b> ・進路希望調査等により学生の個別状況を把握するとともに、学生ポータルサイトを利用した就職情報の収集・提供と就職ガイダンスの充実を図る。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・長久手キャンパスでは、相談員をキャリア支援室に常駐化し、学生への適切な情報提供や相談ができるよう、就職活動支援の充実を図った。 ・守山キャンパスでは、医療機関等から講師を招き、就職説明会を実施して、学生に適切な就職情報と就職相談の機会を提供した。</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・学生ポータルサイトによる就職情報の提供や、業界研究、エントリーシート（ES）の書き方、面接対策やマナー等に関する就職ガイダンス、卒業生による講演会等に加え、新たに職業適性検査を実施した。また、急増した就職相談にも対応し、就職に関する悩みや自己PRの仕方、ES作成についてアドバイス等を行った。</p> <table border="1" data-bbox="1205 1629 1970 1906"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職ガイダンス</td> <td>14回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>卒業生講演会</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>教員採用試験説明会</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>就職相談</td> <td>54回</td> <td>110回</td> </tr> <tr> <td>職業適性検査</td> <td>—</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	就職ガイダンス	14回	11回	卒業生講演会	2回	1回	教員採用試験説明会	1回	1回	就職相談	54回	110回	職業適性検査	—	2回	
区分	21年度	22年度																			
就職ガイダンス	14回	11回																			
卒業生講演会	2回	1回																			
教員採用試験説明会	1回	1回																			
就職相談	54回	110回																			
職業適性検査	—	2回																			

<p>97 ② 卒業生の追跡調査等を実施し、就職活動支援の評価を行い、改善を図る。<b>新規</b> 19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・就職活動支援策の評価、改善を行う上で検討材料とするため、企業アンケートを実施する。 ・21年度に実施した企業アンケートをもとに就職支援のあり方について検討し改善を図る。</p> <p><b>【芸術大学】</b> ・第2回目の追跡調査を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・外国語学部卒業生の追跡調査として、企業アンケートを実施し、結果をとりまとめた。 ・アンケートの結果を参考に、より積極性を身に付けさせるためのキャリア教育科目を23年度に増設することとした。</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・卒業（修了）後1年、5年、10年経過した卒業（修了）生を対象に追跡調査を実施し、芸術教育の効果を検証するための基礎資料を整理した。</p>																						
<p>98 ③ インターンシップの情報収集・広報の充実を図るとともに、企業、自治体等のインターンシップの受入先の拡充・開拓を図り、授業科目化と単位化を検討する。(県立大学) <b>継続</b> 情報収集・広報の充実、受入先の拡充・開拓 19年度～実施 授業科目化、単位化 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・企業、自治体等のインターンシップの受入先の拡充・開拓を図る。 ・「インターンシップ」の授業を開講する。</p> <p><b>【芸術大学】</b> ・21年度に学生が参加したインターンシップの状況を踏まえて対象となる企業や団体、研究機関との内容検討や単位化するための学務上の問題点等の検討を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・企業訪問をして、インターンシップの開拓を図った。</p> <table border="1" data-bbox="1205 814 1967 957"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業訪問</td> <td>11件</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>インターンシップの開拓</td> <td>5件</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新たに「インターンシップ」の授業を開講した。(履修者数25名)</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・授業科目化と単位化について検討した結果、インターンシップの実績が少ない中では、まずはキャリア教育の導入を図る必要があると判断し、就職支援体制を強化し、インターンシップの単位化は当面の間行わないこととした。</p> <p>〔インターンシップの実績〕</p> <table border="1" data-bbox="1255 1318 1917 1503"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学仲介</td> <td>2件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>自己開拓</td> <td>8件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10件</td> <td>5件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	企業訪問	11件	11件	インターンシップの開拓	5件	6件	区分	21年度	22年度	大学仲介	2件	1件	自己開拓	8件	4件	計	10件	5件	
区分	21年度	22年度																						
企業訪問	11件	11件																						
インターンシップの開拓	5件	6件																						
区分	21年度	22年度																						
大学仲介	2件	1件																						
自己開拓	8件	4件																						
計	10件	5件																						
<p><b>【新県立大学】</b> 99 ④ 国家試験、大学院進学等の進路支援体制を強化する。 <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・「キャリア支援室」において、国家試験、大学院進学等の進路情報の収集・提供を行う。 ・「看護学生支援センター」を中心に、看護師、保健師の国家試験受験に対する相談や情報の提供を行い、学生を支援する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・長久手キャンパス「キャリア支援室」において、国家試験、大学院進学等の進路情報の収集を行い、図書コーナーの充実、情報提供を行った。 ・守山キャンパスでは、春と秋に進路説明会を開催して、看護師、保健師の国家試験受験に対する情報提供や相談の機会を設けた。</p> <p>[データ集4]</p>																						

<p>100 ⑤ 学生が入学後の早い時期から大学卒業後の進路選択や人生設計を考えるためのキャリア教育を導入するとともに、県立大学に「キャリア支援室」を設置し、就職相談、指導体制を強化する。</p> <p><b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          &lt;キャリア支援室の設置：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度より授業化された「キャリアデザイン」について授業内容の改善を図る。</li> <li>・キャリア支援担当職員（長久手キャンパス）のキャリア支援室常駐化を図り、相談体制を充実させる。</li> <li>・看護職となるための意志を確固としたものとするため、看護界、医療現場で活躍する方を特別講師として招き、キャリア支援特別講義等を行う。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          &lt;キャリア支援室：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリアデザイン」について、教科書の採用、学生のニーズに合わせた外部講師の見直し、授業内容に「労働法」を追加するなど、改善を図った。</li> <li>・長久手キャンパスにおいて、キャリア支援担当職員をキャリア支援室に2名常駐化させ、相談体制を充実させた。</li> <li>・看護の現場で活躍した看護大学の卒業生2名を特別講師として招き、進路支援特別講義を実施した。</li> </ul>																									
<p>101 ⑥ 生活協同組合主催の就職対策講座、資格取得講座を後援する等連携を図る。（県立大学）<b>新規</b></p> <p>19年度～検討、20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>          ・生協主催の各種就職対策講座などと連携を図り、総合的なサポートを行う。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・生協主催の公務員試験対策講座など各種就職対策講座と連携した。</p>																									
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>102 ④ 卒業後に芸術分野で活躍できるためのノウハウ修得等、芸術家として自立していくためのキャリア・デザインの支援を充実するとともに、就職相談体制を充実し、就職希望者の就職率100%を目標とする。</p> <p><b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b>          ・総合的かつ効果的な就職支援を実施するため、就職情報の収集・提供、企業担当者や卒業生による就職ガイダンスの実施、就職相談の充実を図る。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・厳しい景気状況に加え低い求人率により、結果として就職率は78.0%であったが、学生ポータルサイトによる就職情報の提供や、業界研究、エントリーシート（ES）の書き方、面接対策やマナー等に関する就職ガイダンス、卒業生による講演会に加え、新たに職業適性検査を実施した。また、急増した就職相談にも対応し、就職に関する悩みや自己PRの仕方、ES作成についてのアドバイス等を行った。</p> <p style="text-align: right;">[データ集3]</p> <table border="1" data-bbox="1210 1266 1967 1360"> <tr> <td></td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>就職希望者の就職率</td> <td>73.2%</td> <td>78.0%</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1210 1402 1967 1686"> <tr> <td>区分</td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>就職ガイダンス</td> <td>14回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>卒業生講演会</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>教員採用試験説明会</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>就職相談</td> <td>54回</td> <td>110回</td> </tr> <tr> <td>職業適性検査</td> <td>—</td> <td>2回</td> </tr> </table>		21年度	22年度	就職希望者の就職率	73.2%	78.0%	区分	21年度	22年度	就職ガイダンス	14回	11回	卒業生講演会	2回	1回	教員採用試験説明会	1回	1回	就職相談	54回	110回	職業適性検査	—	2回	
	21年度	22年度																									
就職希望者の就職率	73.2%	78.0%																									
区分	21年度	22年度																									
就職ガイダンス	14回	11回																									
卒業生講演会	2回	1回																									
教員採用試験説明会	1回	1回																									
就職相談	54回	110回																									
職業適性検査	—	2回																									

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 研究に関する目標  
 (1) 研究の水準及び成果に関する目標

中期目標	<p>「知識基盤社会」と創造性豊かな社会の形成に貢献する研究を推進し、地域における「知の拠点」にふさわしい研究力の向上を図る。</p> <p>(1) 研究の水準及び成果に関する目標</p> <p><b>ア 研究の方向性</b>        基礎的研究はもとより、新たな研究分野の開拓に向けて、学部・学科の領域を超えた分野も積極的に取り込みながら、高度で先進的な国際水準の研究活動を行うとともに、地域や時代の要請に応えた実用的、実践的な研究の促進を図る。</p> <p><b>イ 研究成果の活用</b>        研究の成果は、国内外の学会で発表し、著書、学術論文として公刊するとともに、広く大学全体の教育に活かす。        また、公開講座、学術講演会、展覧会、演奏会、ホームページ等を通じて、国内外に向けて積極的に発信し、地域的、国際的な課題の解決に貢献する。</p> <p><b>ウ 研究成果の評価</b>        自己点検・評価、学内の相互評価、外部評価等により研究水準を多面的に検証し、その結果を踏まえてさらなる研究の質の向上を図る。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(1) 研究の水準及び成果に関する目標	ア 研究の方向性		
<p><b>【共通】</b>            103 ① 学長のイニシアティブにより、各年度の重点研究課題を選定し、資金面や研究環境の支援を行う。  <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>            ・学長のイニシアティブにより、教育研究活性化推進費、学長特別教員研究費で各年度の重点研究課題を選定し、資金面や研究環境の支援を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・学長のイニシアティブのもと、教育研究活性化推進費では、「新型インフルエンザ等緊急時に対応した e-learning システムの構築に関する研究」「英語教員免許取得希望者のための教育活性化プロジェクト」など3件(計2,617千円)、学長特別教員研究費では、「国境(くにざかい)の歴史文化～研究と教育の方法的実践」「小学校英語教育における『文字』指導-When, Why &amp; How---」など11件(計10,932千円)を採択し、研究支援を行った。</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・学長のイニシアティブにより選定した「美術学部との共同研究による舞台芸術」など4件(計3,650千円)の重点研究と「アメリカ合衆国における現代芸術音楽調査—他民族文化との関係に着目して—」(1,350千円)の教員留学研究に対して、学長特別教員研究費の配分を行った。</p> <p style="text-align: right;">[参考資料1]</p>	

<p><b>【新県立大学】</b> 104 ② それぞれの学術分野において、研究目的を明確にし、これまでの研究成果をさらに発展させるだけでなく、先端的課題への取組を推進する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・研究活動の目標・計画を明確にするため「自己点検・自己評価目標設定シート」を作成する。 ・理事長特別研究費、学長特別教員研究費からの支援によって、先端課題への取組を推進する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・各教員が5月末までに、研究活動、教育活動、大学運営、地域貢献についての目標と計画を明記し、エフォート率（活動時間の比率）を示した。12月には、その目標設定シートに基づき自己点検・自己評価を行った ・先端的課題への取組みとして理事長特別研究費「ロボカップチャレンジの充実と創発的研究」、学長特別教員研究費「システムのな外国語学習に関する研究」を採択した。 ・外部資金獲得支援を行い、文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業「日系社会青年ボランティア『現職教員特別参加制度』活動支援のための教育協力システムの形成」、日本学術振興会・最先端研究開発戦略的強化費補助金による「中米古代都市 Cholula のモニュメントと表象：データベースと学術ネットワークの構築」、科学技術振興機構補助金による「少年鑑別所・少年院入所初年の実態把握とサポートプログラムの検討」などの研究を行った。 [参考資料1]</p>	
<p>105 ③ 学部・研究科を超えた学内の異分野交流を活発にするための様々な「学内活性化プロジェクト」を実施するとともに、地域の産業や社会、文化の特徴を踏まえて、特色ある研究プロジェクトを立ち上げ推進する。(県立大学) <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・理事長特別研究費、教育研究活性化推進費、学長特別教員研究費を募集し、その選考作業を通じて、学部・研究科を超えた研究プロジェクトの立ち上げを推進する。 ・上記の学内競争的研究費による研究発表会や県立2大学教員研究交流会を開催し、異分野研究交流を図る。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・情報科学部と外国語学部教員による「システムのな外国語学習に関する研究」、外国語学部、国際文化研究科と教育福祉学部教員による「COP10に関連した環境共生・多文化共生に係る国際フォーラム等の開催」など、学部を超えた研究プロジェクトに支援を行った。 ・21年度学長特別教員研究費及び教育研究活性化推進費による研究発表会を8月に、22年度採択の理事長特別研究費による成果発表会を2月に開催した。また、県立2大学教員研究交流会を3月に芸大サテライトギャラリーにおいて(当番校：芸大)開催した。 [参考資料1]</p>	
<p><b>【芸術大学】</b> 106 ② 各専攻において、これまでの研究成果をさらに発展させるとともに、創造的な取組を推進する。 <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・研究成果を発展させるとともに、創造的な取組を推進するため、各専攻の教員が参画して、ワープロビジョンシステムを活用した遠隔授業を実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・愛知県立岩倉総合高校との高大連携による遠隔授業に彫刻専攻・音楽学専攻の教員が参画し、ワープロビジョンシステムを活用した教育研究を行った。 [参考資料10]</p>	
<p>107 ③ 大学院修士課程及び設置予定の博士課程において、専攻や領域を超えたプロジェクト研究や地域貢献を目的としたプロジェクト研究に新たに取り組む。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>		

(1) 研究の水準及び成果に関する目標 イ 研究成果の活用			
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>108 ① 研究成果は、関連学会で発表し、学術書や学会誌論文等の形で公刊する。また、公開講座や地域で開かれる学術講演会、ワークショップ等を通じて広く社会に還元するとともに、可能な限りホームページ上でも公開し、学術情報として国内外に発信する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果については、関連学会で発表するとともに、学術論文として公刊するなど、広く社会へ情報発信する。</li> <li>公開講座の開催や学術講演会等を通じて、研究成果を社会へ還元するとともに、可能な限りホームページ上で公表していく。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が学会で積極的に研究発表が行い情報発信を行った。また、自己点検・自己評価報告書に直近2年間の公刊論文、発表等を記載した。</li> <li>「環境と文化」「無縁社会を生きる」等をテーマとした学術講演会や公開講座を開催し、研究成果を還元するとともに、ホームページで発信した。</li> </ul>	
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>研究成果は、関連学会や展覧会・演奏会で発表し、学術書や学会誌論文等の形で公刊する。また、公開講座や地域で開かれる学術講演会、ワークショップ等を通じて広く社会に還元するとともに、可能な限りホームページ上でも公開し、学術情報として国内外に発信する。 <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「紀要編集委員会」を有機的に活動させ、紀要の内容の充実を図る。</li> <li>愛知芸術文化センターと共催で行う「サテライト連携講座」を活用して、各教員の研究成果を発表する。</li> <li>学術論文等の研究成果の効果的な情報発信方法を検討し、順次実施する。</li> <li>学内施設はもとより、学外の展示施設やホール等を積極的に活用し、研究成果を広く社会に発信・還元する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紀要の内容充実を図る一環として、博士後期課程に所属する学生の論文5本を掲載した。(掲載論文は全21本)</li> <li>愛知芸術文化センターにおいて美術や音楽に関するサテライト講座(20講座)を実施した。</li> <li>研究成果の効果的な情報発信方法として、美術学部芸術学専攻では『PLUS OPUS』を、音楽学部作曲専攻(音楽学コース)では『MIXED MUSES』を発行した。</li> <li>奏楽堂で学内演奏会(16回)、ポピュラークラシックコンサート等を開催した他、瀬戸内国際芸術祭への出展やしらかわホールでのケルン音楽大学教員との合同演奏会等、学外の施設を活用して教員の研究成果を発表するとともに、これらの活動を、ホームページ上で紹介した。</li> </ul> <p>[参考資料9][データ集8・9・10]</p>	
<p><b>【共通】</b></p> <p>109 ② 研究成果は、学内の教員・学生・職員に広く公開し、その共有化を進め、また教育にも積極的に活用する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを通じて研究成果を広く発信する。</li> <li>研究成果を学内に広く公開するため、教職員・学生・院生に参加を呼び掛け学内研究会やポスター・セッションを開催する。</li> <li>看護学術情報センターにおいて、教員の研究内容を展示・公開する。</li> <li>自己点検・自己評価冊子や研究者一覧のデータが大学ホームページにおいて検索しやすい形での公開を目指す。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「愛知県立大学研究者プロフィール」を公刊するとともに、ホームページにおいて検索しやすい形で公開した。</li> <li>学長特別教員研究費、教育研究活性化推進費等による研究について研究発表会を開催し、全学的な教員相互交流を図った。</li> <li>看護学術情報センターにおいて、教員の研究内容を展示・公開しており、今後も引き続き実施していく。</li> <li>自己点検・自己評価の冊子を公刊するとともに、その概要を大学ホームページにおいて公開した。</li> </ul>	

	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに掲載した全教員の研究内容・成果・作品等のデータベースを適宜更新し、研究成果の共有化と公開を進める。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員の教育活動・研究内容が把握できるよう、教員プロフィールをホームページで公開し、情報の共有化を進めた。 [参考資料1]</li> </ul>	
<p>110 ③ 研究成果に対する知的財産権の獲得・管理を組織的に行い、その活用を図る。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果に対する知的財産権の獲得・管理に向けた検討を行う。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度に、知財アドバイザーと作成した報告書をもとに、産学連携推進室で知財管理体制確立に向けて検討を行った。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術創造センターが中心となって演奏会における音楽著作権についての申請、芸術資料館収蔵資料データベースの著作権者への許諾処理等を行った。また、教職員を対象とした「知的財産管理体制構築支援セミナー」を実施し、知的財産の活用についての知識を深めた。</li> </ul>	
(1) 研究の水準及び成果に関する目標 ウ 研究成果の評価			
<p><b>【共通】</b></p> <p>111 ① 毎年度、研究・教育活動に対する自己点検・評価を全教員が実施することにより、研究・教育活動の改善を図る。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教員の教育・研究活動に関する自己点検評価を行う。</li> </ul> <p>・実施した自己点検評価については、今後の研究内容の向上に活用するとともに、広く一般に公開する。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が5月末までに、研究活動、教育活動等について目標と計画を明記し、エフォート率を示した。12月には、その目標設定シートに基づき、過去2年間の実践実績に対して自己点検・自己評価を行った。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が、教育・研究活動に関して、22年度の目標設定シートを作成した上で、自己点検・自己評価を実施した。</li> </ul> <hr/> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に自己点検・自己評価報告書を刊行するとともに、概要版を大学ホームページに公開した。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員の教育活動・研究内容が把握できるよう、自己点検・評価の結果を学内ホームページで公開し、情報の共有化をするとともに、学部ごとに自己点検・評価結果の概要をホームページに掲載し、一般に公開した。</li> </ul>	(前年度評価：Ⅱ)

112 ② 研究成果に対する学内の相互評価、定期的な学外評価や国内外における社会的評価を受けることにより、研究水準の維持・向上に努める。 <b>継続</b> 19年度～検討・実施	<b>【県立大学】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・自己評価制度における学内相互評価制度を検討する。</li> <li>研究成果に対する学外評価については、23年度実施予定の大学評価・学位授与機構による認証評価に備える。</li> <li>認証評価終了後に学外評価について検討する。</li> </ul>	<b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・自己評価において本人以外による相互チェックを実施した。</li> <li>認証評価ワーキンググループにおいて認証評価及び選択的評価事項Aの準備を行った。</li> <li>認証評価終了後に学外評価について検討することを確認した。</li> </ul>	
	<b>【芸術大学】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受けるため、教育に関する自己点検・評価を行う。また、認証評価以外の大学の学外評価について、その方法を検討する。</li> <li>研究・成果や作品等を積極的に発表し、国内外における社会的評価の獲得に努める。また、学内相互評価制度について検討を行う。</li> </ul>	<b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>認証評価について、自己評価書を提出し訪問調査を受けた結果、「基準を満たしている」旨の評価を受けた。また、認証評価以外の学外評価については、評価の対象、仕方、評価者の選定などの方法について検討した。</li> <li>各教員が研究成果や作品等を展覧会や演奏会等で発表し、社会的な評価を得た。こうした教員の活動を記した「教員の自己点検・評価シート」をもとに教員評価制度を行うこととし、23年度から試行することとした。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料1 2]</p>	

<b>第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b> <b>2 研究に関する目標</b> <b>(2) 研究の実施体制に関する目標</b>
--

<b>中期目標</b>	<b>ア 研究体制の整備</b> 研究力の向上を図るため、全学的な研究政策の立案や競争的研究資金獲得を支援するための体制を整備する。 研究成果の評価を反映させた教員研究費の配分等教員のインセンティブを高める仕組みを構築し、研究活動の活性化を図る。
	<b>イ 研究資金の獲得</b> 公的な競争的研究資金や民間の研究資金の獲得に向け、全学的な取組を強化するとともに、積極的な獲得努力を行う。
	<b>ウ 大学間共同研究の推進</b> 大学間の連携を図ることにより、各大学の学問領域を超えた研究分野の開拓を行い、大学全体の研究力の向上を図る。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(2) 研究の実施体制に関する目標 ア 研究体制の整備			
<p><b>【共通】</b></p> <p>113 ① 研究成果や取組状況の評価等を教員研究費の配分に反映させるとともに、外部研究資金獲得者が研究支援を受けられる仕組みと協力体制を構築する。<b>新規</b></p> <p>19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究へのインセンティブを付与するため、教員研究費の学部配分の際に、科研費応募件数を勘案する。</li> <li>大学運営の省力化による研究時間の確保や、電子媒体の収集・整備など研究環境の整備体制を検討する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の表彰制度を整備し、順次実施する。</li> <li>学長のイニシアティブにより、教育研究活性化推進費、学長特別教員研究費で各年度の重点研究課題を選定し、資金面や研究環境の支援を行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分には実施していない」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員研究費の学部配分に、科研費申請件数を勘案して行った。また、科研費申請件数増加に向けて、研究費の公募情報の周知や科研費申請講習会の開催、全教員に「科研費申請の手引」を配布するなど、科研費申請の支援を行った。</li> <li>会議の時間短縮に留意するとともに、研究環境整備の一環として、電子ジャーナル・オンラインデータベースを取り入れるなど充実を行った。</li> </ul> <hr/> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分には実施していない」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表彰制度の整備を検討のところ、同時進行の「教員による自己点検・評価シート」をもとにする教員の評価制度と一本化すべきでは、との考えから実施案について再検討することとなった。</li> <li>重点研究や教員留学研究を選定し、学長特別教員研究費の配分を行った。</li> </ul> <p>重点研究 4件 3,650千円 教員留学研究 1件 1,350千円</p> <p>[参考資料1]</p>	
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>114 ② 教育研究センターによる統括の下に、研究支援のための組織を置く。<b>新規</b></p> <p>19年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;研究支援組織の設置：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助金等外部研究資金獲得のための情報提供や適切な支援を引き続き行う。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>&lt;研究支援組織の設置：設置済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助金等外部研究資金獲得のための情報提供、講習会の実施、「科研申請の手引き」作成及び全教員への配布、申請相談コーナー設置など、支援を行った。</li> </ul>	
<p>115 ③ 高度で先端的研究に対する全学的支援体制を整えるとともに、萌芽的研究や重要な基礎的研究に対する支援体制を整える。<b>継続</b></p> <p>19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学長特別教育研究費等の選考において、先端的研究、萌芽的研究の支援を重視する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>23年度学長特別教員研究費の選考では、先端的研究、萌芽的研究の支援を重視し、「19世紀から20世紀初頭までのイギリスにおける女性の役割と読書」「通常学級支援事例集」など6件（採択総額5,000千円）を採択した。</li> </ul>	

<p>116 ④ 各種指針等に基づき、研究活動の不正行為防止や生命倫理、情報倫理等に関する学内規程等を整備するとともに、必要に応じて研究倫理審査を実施する。<b>継続</b> 19年度～検討・実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・研究活動の不正行為に関する取り扱い規程の周知徹底を継続する。 ・研究倫理に関する規程を整備し、研究倫理審査委員会を適宜開催する。 ・研究倫理審査部会長は、研究倫理審査に関わる教員からの相談に応じ、助言を与える。 ・大学院生対象の研究倫理審査に関する説明会を開く。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・科研費申請説明会において研究倫理規程について周知徹底を図った。 ・研究倫理に関する規程を見直すとともに、研究倫理審査委員会を年間11回開催した。 ・研究倫理審査部会長は、教員からの要請に応じて研究倫理審査について助言を与えた。  ・大学院生を対象の研究倫理審査に関する説明会を開催した。また、守山キャンパスにおいて、大学院生及び教員を対象に研究倫理に関するシンポジウムを開催した。</p>	
<p>117 ⑤ 研究者、研究成果、特許等のデータベースを整備し、大学の知的財産の活用を促進する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・教員の研究内容、研究成果、特許等をデータベース化し、小冊子にまとめ研究公開イベントや行事等で配布し、ホームページ等により情報発信する。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・教員の研究内容、研究成果を冊子として公刊し、ホームページに掲載することで、大学の知的財産の活用を促進する体制を整えた。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b> ② 研究者、研究成果、作品等のデータベースを整備し、大学の知的財産の活用を促進する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・ホームページに掲載した教員の研究内容・成果・作品等のデータベースを適宜更新し、研究成果の共有化と公開を進める。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・教員の研究成果や作品等は可視化する必要があるため、ホームページの教員プロフィールを活用することとしており、各教員が適宜更新することで研究成果の共有化と公開を進めた。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 118 ⑥ 学外者との共同研究を推進する組織を構成するために、特任教授制度等の導入を検討する。<b>新規</b> 19年度～検討・実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p style="text-align: center;">/</p>
<p><b>【共通】</b> 119 ⑦ 自大学における学会及び全国規模の専門的な学術講演会・研究会の開催に対する支援を行い、研究活動のアクティビティの向上及び各種の共同研究の推進に資する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b> ・学会及び全国規模の専門的な学術講演会・研究会の開催を誘致し、情報交換や人事交流を通じた研究活動の活性化を図る。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・日本家族看護学会年次学術集会（9月）をサテライト・キャンパスのあるウイックあいち愛知県産業労働センターで、日本LD学会年次大会（10月）を本学で開催し、研究活動の活性化を図るとともに、人事交流や情報交換を行った。 <hr/><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・11月に日本インダストリアルデザイナー協会（JITA）の全国大会を開催し、講演会や討論会を行い、研究活動の活性化を図るとともに、人事交流や情報交換を行った。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 120 ⑧ 愛知県科学技術推進大綱第2</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・「科学技術交流センター」の計画推進に</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・「知の拠点」の「超早期診断技術開発プロジェクト」に情報</p>	

<p>期科学技術基本計画に基づく「知の拠点」基本計画の中の先導的中核施設（科学技術交流センター（仮称））の計画推進に協力し、地域の諸研究組織との連携を図る。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p>協力し、地域の諸研究組織との連携を図る。</p>	<p>科学部教員が参加し、地域の諸研究組織との連携を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県陶磁資料館と協定を結び、共同研究を進めるなど連携した。</li> </ul>																			
<p>121 ⑨ 共同研究を推進するために、「生涯発達研究施設」の充実を図ると共に、「文字文化財研究組織」、「多文化共生研究組織」、「情報科学共同研究組織」などの設置を検討する。（県立大学）</p> <p><b>新規</b> 19年度～検討</p>	<p><b>【県立大学】</b> ＜実施済み＞</p>	/	/																		
<p>(2) 研究の実施体制に関する目標 イ 研究資金の獲得</p>																					
<p><b>【共通】</b></p> <p>122 ① 競争的資金の獲得に向け、科学研究費補助金の申請件数の増加等を図るとともに、科学研究費補助金等の間接経費分の積極的活用により、研究環境の充実を図る。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p> <p><b>【新県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金については、毎年度教員全員が申請を行うことを目指す。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金については、毎年度全教員の20%以上が申請を行うことを目指す。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金獲得のための研修会の開催や申請書作成マニュアルの作成、配布など申請支援を行う。</li> <li>・科学研究費補助金を申請可能な教員が全員申請を行うことを目指す。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金の対象となる分野を研究対象とする教員の申請、獲得を積極的に推進し、23年度科学研究費補助金の申請件数を17件以上とする。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分には実施していない」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分には実施していない」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費申請講習会及び申請手続説明会の開催、「科研費申請の手引き」の作成と全教員への配布、申請相談コーナー設置などの支援を行った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1210 1045 1961 1182"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費補助金申請数※</td> <td>122件</td> <td>143件</td> </tr> <tr> <td>申請率</td> <td>60.1%</td> <td>70.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※前年度からの継続交付数を含む なお、採択件数は82件（21年度64件）であった。</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分には実施していない」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに科研費申請説明会を実施し、申請件数の増加を図ったものの、結果として以下のとおりであった。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1210 1409 1961 1545"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費補助金申請数※</td> <td>26件</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>申請率</td> <td>31.0%</td> <td>14.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 前年度からの継続交付数を含む なお、採択件数は7件（21年度3件）であった。</p> <p style="text-align: right;">[データ集6・7]</p>	区分	21年度	22年度	科学研究費補助金申請数※	122件	143件	申請率	60.1%	70.1%	区分	21年度	22年度	科学研究費補助金申請数※	26件	12件	申請率	31.0%	14.3%	<p>（前年度評価：Ⅱ）</p>
区分	21年度	22年度																			
科学研究費補助金申請数※	122件	143件																			
申請率	60.1%	70.1%																			
区分	21年度	22年度																			
科学研究費補助金申請数※	26件	12件																			
申請率	31.0%	14.3%																			

123 ② 受託・共同研究の促進、国・企業等からの外部研究資金導入促進を図る。 <b>継続</b> 19年度～実施	<b>【県立大学】</b> ・受託研究・共同研究の効果的な導入のための方策を検討・実施する。  ・21年度に、愛知学院大学を代表校、愛知県立大学及び愛知医科大学を連携校とし、戦略GP「成長型ICT教材を用いた医歯薬看心身系大学連携による生活習慣病予防体制の構築」を獲得しており、2年目の活動を遂行する。	<b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・「フロンティア21エレクトロニクスショー」や「あいちロボットフェスタ2011」へ参加するなどして、受託研究・共同研究推進のための方策を実施した。 ・愛知学院大学とともに「糖尿病および合併症予防」の遠隔授業、東名古屋健康カレッジ（11～12月）を実施した。 [参考資料6]	
	<b>【芸術大学】</b> ・外部資金の導入を促進するため、教員に助成等の情報提供を行う。	<b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・定期的に全教員へ研究助成等に関する案内のメールを送信する等、情報の周知を図った。 [データ集6]	

(2) 研究の実施体制に関する目標 ウ 大学間共同研究の推進

124 県立3大学間（平成21年度以降は2大学間）において、研究発表会の開催等研究交流を図り、共同研究を推進する。また、共同研究費について、理事長枠を創設し、研究費の重点配分を行う。 <b>新規</b> 19年度～実施	<b>【2大学共通】</b> ・県立2大学が保有する知的・人的研究資源の相互活用を促進するため、引き続き研究交流のための県立2大学教員研究発表会を開催する。 ・県立2大学が持つ知的・人的研究資源を有効に活用し、特色ある研究分野を開拓するために、理事長特別研究費枠の積極的申請と獲得を図る。	<b>【2大学共通】「年度計画を十分に実施している」</b> ・3月に県立2大学教員研究会を開催し「視覚による触知性」をテーマに、県大3件、芸大2件の発表と討論を行った。  ・23年度理事長特別研究費において、県大情報科学部による画像処理と看護学部の視線解析、芸大のデザイン研究を融合させた研究プロジェクトを採択した。なお、23年度理事長特別研究費の採択状況は以下のとおりであった。									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>応募件数</th> <th>採択件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県大</td> <td>10件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>芸大</td> <td>12件</td> <td>7件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	応募件数	採択件数	県大	10件	9件	芸大	12件	7件
区分	応募件数	採択件数									
県大	10件	9件									
芸大	12件	7件									

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域連携に関する目標

(1) 地域連携の実施体制に関する目標

中期目標	<p>教育研究の成果を積極的に県民や社会に対して還元することは、公立大学の果たすべき大きな役割である。愛知県の設立する大学として、その存在意義を一層高めるため、愛・地球博の理念の継承も考慮に入れ、行政、他大学・研究機関、学校、産業界、NPO等との連携を強化しながら、より直接的かつ積極的に県民の生活と文化の向上、地域の課題の解決や地域経済の発展等に向けた貢献を行う。</p> <p>また、「世界に貢献するあいち」を担う人材を育成するため、海外大学との学術交流を推進する。</p> <p>(1) 地域連携の実施体制に関する目標</p> <p>全学的な地域連携の推進を図るため、相談対応やコーディネートを行う機能を有するセンターとして、愛知県立大学に「地域連携センター」、愛知県立芸術大学に「芸術創造センター」、愛知県立看護大学に「看護実践センター」をそれぞれ平成19年度に設置し、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進する。</p> <p>また、地域連携活動に関する記録は、広く情報発信し、大学のPRを図るとともに、現場における実践の成果として将来の教育研究への活用を図る。</p> <p>なお、平成21年度の愛知県立大学と愛知県立看護大学の統合時においては、「地域連携センター」の本部を長久手キャンパスに、支部として「看護実践センター」を守山キャンパスに設置する。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(1) 地域連携の実施体制に関する目標 ア 地域連携推進組織の設置			
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>125 ①-1 大学が、行政機関、産業界、他大学、研究機関及び県民各層、諸団体と連携して、教育研究の成果を社会に還元するとともに、県民の多様なニーズに対応した事業を実施するために、地域連携の窓口機能及び地域連携事業のコーディネート機能を果たす組織として、県立大学に「地域連携センター」、看護大学に「看護実践センター」を、それぞれ平成19年4月に設置する。</p> <p><b>新規</b> 19年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;設置済み&gt;</p>		
<p>①-2 新県立大学の「地域連携センター」は、本部を長久手キャンパスに、支部として「看護実践センター」を守山キャンパスに設置する。<b>新規</b> 21年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>&lt;設置済み&gt;</p>		
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>① 大学が、行政機関、産業界、他大学、研究機関及び県民各層、諸団体と連携して、教育研究の成果を社会に還元するとともに、県民の多様なニーズに対応した事業</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>&lt;設置済み&gt;</p>		

<p>を実施するために、地域連携の窓口機能及び地域連携事業のコーディネート機能を果たす組織として、「芸術創造センター」を平成19年4月に設置する。<b>新規</b> 19年度設置</p>			
<p><b>【新県立大学】</b> 126 ② 産学連携に関わる研究の推進とコーディネートの機能を果たす組織として、地域連携センター内に「産学連携推進室」を設置する。(県立大学) <b>新規</b>19年度設置</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;設置済み&gt;</p>		
<p>(1) 地域連携の実施体制に関する目標 イ 広報の充実</p>			
<p><b>【共通】</b> 127 ① ホームページ、広報誌等を利用し、大学の地域連携情報（教員の研究分野、研究実績等の情報を含む。）を広く発信する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b> ・大学の地域連携情報をホームページ等により学外へ発信する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を上回って実施している」</b> ・ホームページにより、随時、情報の更新を行い、学外への発信を実施した。また、新たに大学の特色や研究者の実績を掲載した広報誌「愛知県立大学の特色～さらなる地域連携をめざして～」を作成し、行政、高校、企業、団体などへ広く配布した。 <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・ホームページにおいて、教員の研究分野、研究業績、社会的活動等、地域連携に役立つ情報を公開した。</p>	
<p>(1) 地域連携の実施体制に関する目標 ウ 活動実績の活用</p>			
<p><b>【共通】</b> 128 地域連携活動実績の記録・集積を行い、広報のために活用するとともに、教育・研究へフィードバックする。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b> ・地域連携に関する活動・貢献の実績を組織的・継続的に把握し情報発信を行う他、教育・研究への活用を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・地域連携活動の最新情報、活動結果等について、ホームページを通じて随時発信するとともに、地域連携センターの活動実績をまとめた年報を作成し、配布した。 <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・芸術創造センターが中心となって大学の地域連携活動を記録・集積してホームページに掲載した。また、各教員も活動実績を教員プロフィールに適宜掲載し、教育・研究にフィードバックできるよう情報の共有化を進めた。</p>	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 地域連携に関する目標  
 (2) 各種機関との連携に関する目標

中期目標	<p><b>ア 行政との連携</b>          本県や地域が直面している様々な行政課題（少子・高齢化、国際交流、多文化共生、情報化、保健医療、芸術文化振興等）に対応し、行政の施策立案や実施に積極的に支援・協力を行う等、行政のシンクタンクの機能を果たす。</p> <p><b>イ 他大学・研究機関等との連携</b>          教育研究において、他大学、研究機関等との連携・協力を推進し、大学の教育研究機能を活性化させることにより、地域貢献活動の質の向上を図る。</p> <p><b>ウ 教育委員会及び小・中・高等学校との連携</b>          教育委員会と連携し、小・中・高等学校における児童・生徒に対する学習支援や教員のリフレッシュ教育を積極的に展開する。          また、高校生を高度な専門教育に触れさせ、その学習意欲の喚起や進路の選択に資するよう、高等学校との協力・連携を推進する。</p> <p><b>エ 産業界との連携</b>          愛知県立大学の情報科学分野、愛知県立芸術大学のデザイン・工芸分野及び愛知県立看護大学の保健医療福祉分野等、大学に蓄積された知識・技術・技能を産業界における新技術の開発や新たな創造に活用し、地域産業の活性化に寄与するとともに、連携可能な分野の拡大に努める。</p> <p><b>オ NPO等各種団体との連携</b>          多文化共生、保健・福祉、芸術振興等に関わるNPO等各種団体の活動の充実・強化に資するため、支援・協働を通じて、大学に蓄積された知識・技術・技能を地域へ還元する。また、学生のボランティア活動を促進するため、単位認定を検討する。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(2) 各種機関との連携に関する目標	ア 行政との連携		
<p><b>【共通】</b>            129 ① 行政ニーズを把握するため、県と定期的な意見交換を行う。  <b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>            ・行政との連携を進めるため、関係機関と定期的な意見交換を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・県地域振興部と定期的な意見交換を実施した。また、県教育委員会の担当課など他の関係行政機関との間で随時、必要な意見交換を行った。</p> <p>-----</p> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・愛知県と連携して、第67回国民体育大会冬季大会スケート競技会アイスホッケー競技会愛知県実行委員会とポスター等広報物のデザインに係る連携協働に関する協定を締結した。</p>	

<p>130 ② 県や市町村の審議会や委員会への参加等により、大学の専門的知識を生かし行政に助言・提言を行う。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市町村の審議会等への参画を促進する。</li> <li>・19年度に立ち上げた「公共政策研究会」において、県や市町村の行政ニーズと学内シーズに係る情報の共有化を図る。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市町村の審議会等への参画を促進する。</li> <li>・愛知芸術文化センターの各種委員会の委員として助言・提言を行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が県及び市町村の審議会等の委員を務めたほか、市町村事業のアドバイザーに就くなど参画を促進した。 愛知県男女共同参画審議会委員 瀬戸市文化財保護審議会委員 新城市地域内分権推進アドバイザー など</li> <li>・地域連携センターで実施した公共政策・環境共生・文理連携研究会に外部講師を招き、市町村担当者や本学教員との間で、行政ニーズと学内シーズに係る情報共有を行った。</li> </ul> <p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体の審議会等に委員として参画し、助言等を行った。 愛知県青年の社会参加体験事業推進委員 長久手町環境審議会委員 名古屋市広告景観審議会委員 など</li> <li>・学長や音楽学部教員が芸術文化センター運営会議、劇場・ギャラリー専門委員会の委員として助言・提言を行った。</li> </ul>	
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>131 ③ 県産業技術研究所との連携を進め、地域の中小企業の技術研究開発力の向上に貢献する活動を充実させる。(県立大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産業技術研究所と情報科学共同研究所共催による「研究セミナー」を継続し、今後の共同研究、受託研究につなげる。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年時計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産業技術研究所始め他研究機関とセミナーなどを開催するなど産学連携活動を推進した。</li> </ul>	
<p>132 ④ 行政機関等と連携し、多文化共生のための調査研究を推進する。(県立大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COP10に向けての「生物と文化の多様性」についてのシンポジウムや県や市町村の地域づくりの取組に関し、行政との連携を進める。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COP10のパートナーシップ事業として、「環境と文化」をテーマに学術講演会・公開講座を開催した。また、県地域振興部と共催し「あいち地域づくり連携大学」を開催した。</li> <li>・「国際協力イニシアティブ」事業において、日系社会青年ボランティア「現職教員特別参加制度」活動支援のための教育協力システムの形成を実施した。</li> <li>・「医療分野ポルトガル語スペイン語講座」において事業実施を行うとともに、県と意見交換を行い今後の展開の検討を行った。</li> <li>・愛知県ならびに東部丘陵に立地する18大学が連携し、生態系ネットワーク構築に向けリレー学際トークに参加するなど自然再生の調査研究を進めた。</li> <li>・イタリアを始め米・豪の研究者を招聘し、環境汚染と海洋生物についての講演会を開催した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料4]</p>	
<p>133 ⑤ 県・市保健所、県立病院等と連</p>	<p><b>【県立大学】</b></p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p>	

<p>携を図るとともに、保健分野における行政の取組に対し、積極的に支援・協力をを行う。(看護大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践センターを活用し、県・市保健所、県立病院等の各種機関との連携を組織的に展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政からの依頼により、愛知県がんセンター倫理審査委員会委員、ナースセンター事業運営委員会委員、愛知県看護職需給見通し検討会委員、愛知県精神医療審査会委員、日進市介護認定審査委員会委員等として参画し、連携を図った。</li> </ul>	
<p>134 ⑥ 県の「知の拠点」計画に積極的にに関わり、地域の科学技術研究の振興への協力を発展させる。 <b>新規</b> 22年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>22年度から計画される研究テーマへの研究協力のあり方を関係機関と検討する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学部教員が「知の拠点」の「先端計測技術を活用した超早期・安全・迅速な『診断・医療機器』の開発」プロジェクトに参画し、地域の科学技術研究の振興に努めた。</li> </ul>	
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>135 ③ 愛知芸術文化センター、陶磁資料館等県施設や市町村の文化施設(博物館、ホール等)と連携し、演奏会、講演会、美術展等の開催やアウトリーチ活動の推進等を通じて、地域に貢献するとともに、芸術・文化分野(文化財保護・保存行政を含む。)における行政の取組に対し、積極的に支援・協力をを行う。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知芸術文化センター等県施設や市町村等と連携し、オーケストラ演奏会を開催する。</li> <li>豊田市美術館との連携協定を継続して連携事業を推進する。</li> <li>瀬戸市や愛知県陶磁資料館と連携して展覧会を開催する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を上回って実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知芸術文化センターにおいて美術や音楽に関するサテライト講座(20講座)を実施した他、みよし市や尾張旭市と連携して管弦楽団の特別演奏会、長久手町や大府市と連携してオペラ公演、刈谷市総合文化センターでのアトリウムコンサートを行った。</li> <li>豊田市美術館と連携協定を継続し、連携記念コンサートや「ヘンク・コッシュのデザイン理念とデザイン教育」の展覧会などを行った。また、アウトリーチ展覧会「アイチ・ジーン」を芸術資料館、清須市はるひ美術館、豊田市美術館で開催し、美術館収蔵品や愛知県ゆかりの若手作家を中心とした展示を行った他、清須市はるひ美術館では、併せて、打楽器アンサンブルによるコンサートを行った。</li> <li>愛知県陶磁資料館において美術学部陶磁専攻の「教育と創作展」を開催した。併せて、音楽学部学内選抜メンバーによる「アンサンブルのにぎわい」を開催した。また、瀬戸・美濃焼産地の陶磁器製造における石膏型成形技術の展開と継承を研究課題として、瀬戸市の企業と陶磁専攻が産学連携で調査研究を行い、地域に貢献した。</li> <li>新たに長久手町と包括連携協定を締結し、芸術文化及び教育に関する相互交流、まちづくりの推進、地域振興、文化行政に係る調査・研究等について連携協力することとし、長久手町文化の家でのドクトラルコンサートなどを実施した。</li> </ul> <p>[データ集10]</p>	
<p>136 ④ 環境デザイン・景観行政等との連携を行う。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境デザイン講座を県建設部との共催により継続実施する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術学部デザイン専攻の教員が愛・地球博記念公園の公園マネジメント会議に参画し、景観行政等において連携を行った。</li> <li>アーティスト・イン・レジデンス事業で招聘したアーティストによるシンポジウムを開催したほか、碧南市、森林公園などからの受託研究を行った。</li> </ul> <p>[参考資料11]</p>	
<p>(2) 各種機関との連携に関する目標 イ 他大学・研究機関等との連携</p>			

<p><b>【共通】</b> 137 ① 愛知学長懇話会による単位互換制度の促進を図るとともに、同懇話会等を通じ、県内の他大学との教育・研究協力や地域連携協力を進める。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【共通】</b> ＜単位互換制度の促進：実施済み＞ <b>【県立大学】</b> ・愛知学院大学を代表校、愛知県立大学及び愛知医科大学を連携校とし、戦略G P「成長型ICT教材を用いた医歯薬看心身系大学連携による生活習慣病予防体制の構築」の2年目の活動を遂行する。 <b>【芸術大学】</b> ・県内芸術系大学やその他の大学との連携事業等を推進する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【共通】</b> ＜単位互換制度の促進：実施済み＞ <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・愛知学院大学とともに「糖尿病および合併症予防」の遠隔授業、東名古屋健康カレッジ(11月～12月)を実施した。 [参考資料6] <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・名古屋音楽大学、名古屋芸術大学と連携し、「ナゴヤまちかどアンサンブル」として、名古屋市内各所でミニコンサートを実施した。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 138 ② 他大学・研究機関・国際機関等との連携を推進して、学術シンポジウム・国際シンポジウムの開催に努め、共同研究・学術交流を促進する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・国内外の学会、シンポジウム等、学術・文化的な集会の企画・立案を行い、共同研究、学術交流を推進する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・日本家族看護学会年次学術集会(9月)をサテライト・キャンパスのあるウィンクあいち愛知県産業労働センターで、日本LD学会年次大会(10月)を本学で開催した。 ・COP10パートナーシップ事業の「せかいSATOフェスタ」において、「世界古代文明フォーラム」や「先住民族サミット in 愛知2010」などを他機関と連携して開催し、学術交流を推進した。</p>	
<p>139 ③ 徳川美術館等地域の文化的歴史的資料館と連携し、文字文化財の収集、分析、データベース化等の調査・研究とその公表・展示を通じて、地域文化の向上に資する。(県立大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・徳川美術館、名古屋市蓬左文庫、愛知県図書館等との共同研究を進める。西尾市岩瀬文庫、斎宮歴史博物館との共同企画を引き続き進める。 ・陶磁資料館との連携と共同研究を進める。その他、県内の文字文化財を所蔵する各団体との連携を企画・推進する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・徳川美術館、名古屋市蓬左文庫等と連携し、所蔵文物の調査や資料の展示企画を行った。また、共同企画を検討するため、斎宮歴史博物館へ調査に出向いた。 ・陶磁資料館の企画展「1000年前のハローワーク」に協力し、同時開催の「愛知県の歴史学」コーナーにおいて、共同研究「国境(くにざかい)の歴史文化」の展示・解説を行った。また、荻野検校顕彰会と連携し、平曲の普及研究活動を継続した。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b> 140 ② 中部圏の芸術系拠点大学として、他大学との連携事業、共同研究、芸術交流を推進する。 <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・県内芸術系大学やその他の大学との連携事業等を推進する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・名古屋音楽大学、名古屋芸術大学と連携し、「ナゴヤまちかどアンサンブル」として、名古屋市内各所でミニコンサートを実施した。</p>	
<p>(2) 各種機関との連携に関する目標 ウ 教育委員会及び小・中・高等学校との連携</p>			

<p><b>【共通】</b></p> <p>141 ① 小・中・高等学校の総合的な学習の時間への参画等学習支援、高大連携を推進する。<b>継続</b></p> <p>19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高等学校の総合的な学習の時間への参画など学習支援、高大連携について、組織的な取組の充実を図る。</li> <li>オープンキャンパス、公開授業に高校生参加を促す。</li> <li>愛知県教育委員会を通じて、高大連携連絡会議に関わり、高大連携推進の方法を検討する。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>瀬戸市、長久手町教育委員会とのボランティア協定に基づき、教職支援室のコーディネートにより、発達障害支援、小学校英語支援、外国籍児童生徒支援にスクールボランティアを派遣した。</li> <li>オープンキャンパスへの参加状況は以下のとおりであった。また、オープンキャンパスにおいて、模擬授業を実施した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1187 457 1982 554"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス参加者数</td> <td>2,869名</td> <td>3,003名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>県教育委員会主催による現役高校生を対象とした「知の探究講座」を情報科学部教員の協力で実施した。</li> <li>県立および名古屋市立高校などを訪問し、高大連携の新しい形態を検討した。</li> </ul>	区分	21年度	22年度	オープンキャンパス参加者数	2,869名	3,003名	
		区分	21年度	22年度					
オープンキャンパス参加者数	2,869名	3,003名							
<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県立岩倉総合高校と連携し、愛知スーパーハイスクール研究指定推進事業（愛知県教育委員会）の企画による光回線を使用した色彩の遠隔授業を実施した。</li> <li>オープンキャンパスにおいて公開授業やワンポイントレッスンを行った他、学生と参加者が一緒に指導を受け、演奏発表する弦楽合奏セミナーを実施した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料10]</p>									

<p>142 ② 小中高校教員のリフレッシュ教育に貢献する。(県立大学)</p> <p><b>県大：継続</b> <b>芸大：新規</b></p> <p>県立大学：19年度～実施、 芸術大学：19年度～検討、 21年度～実施</p> <p><b>【新県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県総合教育センターと連携し、情報科目の指導内容を向上するための「情報教育長期研修生」の受入れを継続して実施する。(県大)</li> </ul> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会や教育センター等との連携により、小中学校教員のリフレッシュ教育や研修を実施する。</li> <li>・県総合教育センターと連携し、情報科目の指導内容を向上するための「情報教育長期研修生」の受入れを継続して情報科学部において実施する。</li> <li>・県総合教育センターと連携し、高校教員のICT能力向上のための研修実施を情報科学部が支援する。</li> <li>・教職支援室を設置し、教育委員会をはじめ外部機関との連携を強める。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間発達学研究科において、現職の小学校教員や保育士の入学を受け入れることで、小中学校教員へのリフレッシュ教育を実施した。</li> <li>・情報科学部において、「情報教育長期研修生」を2名受け入れた。</li> <li>・県総合教育センターにおいて、高校教員のICT能力向上のために情報科学部教員による研修を実施した。</li> <li>・教職支援室を中心に、愛知県教育委員会主催の免許状認定講習に講師を派遣するとともに、愛知県教育委員会と連携しながら、23年度教員免許状更新講習開設の準備を進めた。また、長久手町教育委員会、瀬戸市教育委員会とスクールボランティア等の問題について懇談を行った。</li> <li>・「愛知県総合教育センターと大学との共同研究委員会」に委員として参加し、生涯発達研究所、教職支援室と愛知県総合教育センターが共同で「愛知県内の発達障がい支援学生スクールボランティアに関する共同研究」を行った。</li> </ul>	
	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校教員、高等学校教員のリフレッシュ教育の希望があるときは、既存の科目履修生、研究生、研修生として受け入れる。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、科目等履修生、研究生、研修生を適宜募集した。</li> </ul>	

<p>【新県立大学】</p> <p>143 ③ 県教育委員会及び高浜市等との連携により、教員養成GP「小学校への見通しを持った幼稚園教員養成」（「小1プロブレム」（1年生に見られる教室での荒れ）を起こさせない軽度発達障害児に対する対応力等をもった幼稚園教員養成）を実施する。さらに、この成果を教育現場と連携することにより、地域に広めるとともに、小学校教員についても同様な取組を行っていく。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯発達研究所事業の公開特別授業やフォーラム等と連携して、教育現場と問題意識の共有を図り、発達と教育をめぐる問題に深い理解と実践力を有する教員を養成する。特に幼小連携力量、特別な配慮の必要な幼児・児童への深い理解と指導力を持つ保育士・幼稚園教員・小学校教員養成を引き続き推進する。</li> <li>生涯発達研究所事業として、地域の教育現場の巡回指導に取組み教員の実践的向上に寄与する。</li> </ul>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯発達研究所事業と連携して、今日の発達と教育をめぐる問題に深い理解と実践力を有する教員養成を目的に、本学の幼・小・中・高の教員や保育士をめざす学生が、地域の教職員や保護者、他大学の学生と共に学び合う「発達障害フォーラム」（全3回）、「発達障害支援スクールボランティア研修講座」（全3回）、公開特別授業を実施した。</li> <li>生涯発達研究所事業として、研究所所員3名と研究協力員4名の計7名で瀬戸市の幼小中学校の巡回相談に取組み、地域の教育現場の教員の実践的向上に寄与した。</li> <li>生涯発達研究所と愛知県総合教育センターが共同で「愛知県内の発達障がい支援学生スクールボランティアに関する共同研究」（平成22年度～24年度）を実施した。</li> </ul>	
<p>144 ④ 文部科学省施策の「確かな学力」向上を目指した取組を実施している高等学校に協力支援を行う。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <p>&lt;実施済み&gt;</p>		
<p>(2) 各種機関との連携に関する目標 <b>エ 産業界との連携</b></p>			
<p>【新県立大学】</p> <p>145 ① 情報科学分野で企業研究者等との共同研究を推進するとともに、受託研究等を通して産学連携による新技術開発等を支援する。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業との共同研究を推進するための研究プロジェクトを立案し、企業からの参加者に対して客員教授等の名称（制度）を活用し、大学と企業との産学連携の推進を図る。</li> </ul>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7か所の企業、団体、研究機関と共同研究を実施した。また、企業からの協力者に対しては、客員教授等の制度を活用するなどして、大学と企業との連携を促進した。</li> </ul>	
<p>146 ② テクノフェア等産学交流会へ継続して参加し、また、県産業技術研究所との共同開催の情報科学研究交流会を継続し、大学の技術開発シーズを公開して、産業界との連携を推進する。このことにより、地域の中小企業の技術研究開発力の向上に貢献する。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県産業技術研究所と情報科学共同研究所の共催による研究セミナーに、地域の中小企業等へ開催案内を実施し、より広く共同研究・受託研究先を求め、産学連携による新技術開発等の支援を行う。</li> </ul>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テクノフェアに継続参加した。また、情報科学共同研究所主催のセミナーを3件開催するとともに、産学交流会等へは3回参加した。こうした取組みの結果、共同研究・受託研究は9件であった。</li> </ul> <p>[データ集6]</p>	
<p>147 ③ 文化的社会的視点からの産学</p>	<p>【県立大学】</p>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p>	

<p>連携、情報と福祉、教育等との共同による産学連携の可能性を検討する。(県立大学)</p> <p><b>新規</b> 19年度～検討</p>	<p>・文化的社会的視点からの産学連携の可能性を検討する。</p>	<p>・地域連携センター文理連携研究会において、NGO代表者や企業の技術者を招き、産学連携の可能性について研究会を開催した。</p>							
<p>148 ④ 病院や保健医療福祉施設や産業界と連携・共同して新しい医療技術や医療機器の開発等を行う。(看護大学)</p> <p><b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>・博士課程、修士課程の学生や教員による産学連携事業(研究)に対し助成を行う。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>・尾張旭市・長久手町と共同して、介護予防を促進する口腔保健行動尺度、自動制御尺度を開発した。(学会誌投稿中)</p> <p>・国立長寿医療研究センター・県外病院と共同して、褥瘡を観察するためのスケール開発に着手した。</p>							
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>149 ① 企業等からの受託研究・共同研究の拡大方策を検討する。特に美術学部では、デザイン・陶磁関係での産業界との連携強化、音楽学部では、民間の音楽関係機関との連携強化を図る。<b>新規</b></p> <p>19年度～検討・実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>・企業等からの受託研究を、美術学部では3つの分野(複合芸術・保存修復・デザイン)で、総合的な連携をすすめる。また、デザイン・陶磁においては積極的な受託研究の獲得に努める。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を上回って実施している」</b></p> <p>・美術学部においては、複合芸術や保存修復、デザインについての研究組織が、企業等からの受託研究の窓口となって、9件21,008千円(対前年度比約6.5倍)の受託研究を受けた。また、音楽学部においては、アイシン精機や三井住友銀行等の企業と連携して演奏会を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="1234 772 1961 869"> <tr> <td></td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>受託研究費</td> <td>3,253千円(3件)</td> <td>21,008千円(9件)</td> </tr> </table> <p>[データ集6]</p>		21年度	22年度	受託研究費	3,253千円(3件)	21,008千円(9件)	
	21年度	22年度							
受託研究費	3,253千円(3件)	21,008千円(9件)							
<p>150 ② 企業等と共同し、芸術文化に係る寄附講座、連携講座を開設する。<b>新規</b> 21年度～検討・要請、23年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>・寄附講座、連携講座に限らず、展覧会や演奏会において企業等と連携し実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>・「アイシンさわやかコンサート」(アイシン精機)や「SMBCパーク栄コンサート」(三井住友銀行)に学生等の演奏家を派遣し開催に協力した他、NHK文化センターの講座へ講師を派遣し、美術や音楽の講座開設に協力した。また、古川美術館で開催したミュージアムコンサートに協力した。</p>							
<p>151 ③ 企業内研修への講師派遣や、研修の学内実施を行う。<b>新規</b></p> <p>21年度～検討・要請、23年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>・企業内研修への講師派遣や、研修の学内実施について、相手先への動向調査を行い、積極的な働きかけを行う。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <p>・引き続き働きかけを行ったものの、企業等と共同・連携し、芸術文化に係る講師の派遣や企業内研修等を実施することについては、昨今の経済状況のもとでは需要が見込まれず、当面実施しないこととしたが、愛知県の環境デザインセミナーに講師を派遣した。</p>							
<p>(2) 各種機関との連携に関する目標 オ NPO等各種団体との連携</p>									

<p><b>【共通】</b> 152 ① 学生のボランティア活動の授業への組み込みや単位化を進める。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・学生ボランティア活動について、21年度の実施状況を検証し、留意点、改善点などを22年度活動学生への指導に活かす。 ・学校における学生によるボランティア活動を授業へ組み込み単位化する授業科目「サービスマーケティング」を運営する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・学校におけるボランティア活動について、21年度活動報告書を作成し、22年度活動学生への指導に活かした。また、協定を締結している長久手町及び瀬戸市の教育委員会と懇談を行い、学生の指導に活かすとともに、活動報告、交流を通じ相互に学びあう機会となるよう、学生ボランティア・シンポジウムを開催した。 ・教育発達学科の専門科目として、ガイダンス及び活動の省察レポート提出により単位認定する「サービスマーケティング」を実施した。</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 153 ② 多文化共生、福祉分野におけるNPO等の活動支援・協働を促進する。(県立大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・多文化共生、福祉分野におけるNPO等各種団体との連携を促進する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・NPO法人代表者等を招いて「地域づくりと環境共生」と題した講演会を開催するなど連携を図った。</p>	
<p>154 ③ 県民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上に向け、子育て支援、障害者支援、健康増進支援、在日外国人支援などを目的とするNPO等各種団体との連携を促進する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・子育て支援、障害者支援、在日外国人支援などを目的とするNPO等各種団体との連携を促進する。 ・「子育てひろば、もりっこ、やまっこ」活動を継続すると共にホームページ等で情報発信する。また、23年度以降の活動の在り方を、他学部及び学外者を加えた委員会で検討する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・発達障害フォーラムを学習障害児支援NPO法人等と連携し実施したほか、在日外国人支援として「瀬戸市外国籍児童・生徒支援」などにおいて学生ボランティアと連携し実施した。 ・「子育てひろば、もりっこ、やまっこ」活動を継続実施し、その活動をCTVで発信した。また、23年度も活動を継続することを確認した。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b> 155 ② 芸術や芸術教育を目的とするNPO等各種団体との連携を促進する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・NPO等各種団体法人と連携して演奏会を開催するなど、連携を促進する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・NPO法人エコキャップ推進協会及び松坂屋と連携して、松坂屋名古屋店にCOP10に関連した作品を展示した。また、NPO法人イエロー・エンジェルの協力のもと、アーティスト・イン・レジデンスの演奏会や弦楽器コースの教員・学生による演奏会、大学院生によるコンサートを開催した。</p> <p style="text-align: right;">[データ集10]</p>	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 地域連携に関する目標  
 (3) 県民への対応に関する目標

中期目標	<p>ア 公開講座等の開催          公開講座、展覧会、演奏会等を開催し、県民の多様な生涯学習のニーズに積極的に対応する。</p> <p>イ リカレント教育の実施          リカレント教育の需要に対応して、サテライトキャンパスを活用した社会人の大学院教育の充実や看護師を始めとした職業人のキャリアアップのための新しい知識・技術・技能を修得する機会の提供に取り組む。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
(3) 県民への対応に関する目標 ア 公開講座などの開催			
<p><b>【共通】</b>            156 ① 公開講座、学術講演会、出張講座・出張授業、講師派遣などを充実する。  <u>継続</u> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>            ・サテライトキャンパスでの開催など柔軟な開催方法を導入した新たな枠組みにより、公開講座、学術講演会の充実を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・サテライトキャンパスにおいてOB教員による講座「県大アゲイン」を開催したほか、長久手キャンパスにおいて次の公開講座等を実施した。            学術講演会            「生物多様性の保全と持続可能な利用について」(5月)            「有縁・無縁・選択縁一家族持ちから人持ちへー」(11月)            公開講座            「環境と文化」(6～7月)            「無縁社会を生きる」(11～12月)</p>	
	<p><b>【芸術大学】</b>            ・美術学部の公開講座をデザインと陶磁の2専攻で実施する。            ・一般社会人や学生、生徒を対象としたサテライト講座を引き続き実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>            ・美術学部において、デザイン専攻「絵を動かす(アニメーション入門)」、陶磁専攻「皿と壺(ロクロ成形)」の公開講座を開催した。            ・愛知芸術文化センターにおいて美術や音楽に関するサテライト講座(20講座)を実施した。            [参考資料9][データ集8]</p>	

<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>157 ② 生涯発達研究施設を中心に、子育て支援や高齢者・障害者の権利擁護に関わる諸機関・関係団体等のデータベース化を進め、子育て、精神保健、LD（学習障害）、高齢者・障害者の権利擁護等の相談事業、研究事業、研修事業、発達・臨床事業（オープンカレッジ「LD青年のための大学教育入門」開催等）をさらに充実させる。（県立大学）<b>継続</b>19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <p>生涯発達研究所における事業の一環として、以下のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援や高齢者・障害者の権利擁護等に関わる諸機関・関係団体等のデータベースの維持・更新及び研究資料等を作成する。</li> <li>・自治体の教育委員会等と協働で、教育と発達に関する共同研究を行う。</li> </ul> <p>・相談事業・研修事業・研究事業の一環として研究所員と現場経験豊かな研究協力員による県内の教育委員会と連携し、小中学校の巡回指導を実施する。</p> <p>・研修・研究事業として、地域の教育・福祉機関や現場と連携による「発達障害フォーラム」を開催する。</p> <p>・発達・臨床事業として、NPO法人と連携し、オープンカレッジ「LD青年のための大学教育入門（Ⅷ）」を引き続き実施する。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達研究所における事業の一環として、以下のことを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの維持・更新を行った。</li> <li>・子育て支援事業「もりっこやまっこ」について看護学部紀要に研究報告を掲載した。また、参加者のデータベースを管理して、持続的に継続可能な実施体制を確立した。</li> <li>・生涯発達研究所と愛知県総合教育センターが共同で「愛知県内の発達障がい支援学生スクールボランティアに関する共同研究」（平成22年度～24年度）を実施した。</li> <li>・愛知県児童総合センターと生涯発達研究所の共催で、「子育てサポート事業（ネットワーク）」を実施し、近隣市町の子育て支援担当者の研修及び意見交換を行った。</li> <li>・高齢者・障害者の権利擁護等に関わって、豊根村と連携し、学生によるワークキャンプを実施するなかで、「限界集落」に関する調査研究を行った。</li> </ul> </li> <li>・相談事業・研修事業・研究事業の一環として研究所員3名と現場経験豊かな研究協力員4名の計7名が瀬戸市教育委員会と連携し、小中学校の巡回相談を実施した。</li> <li>・研修・研究事業として、地域の教育・福祉機関や現場と連携し「発達障害フォーラム」（全3回）を開催した。</li> <li>・発達臨床事業として、NPO法人と連携し、オープンカレッジ「LD青年のための大学教育入門（Ⅷ）」を引き続き実施した。</li> </ul> <p>以上のように、諸機関・関係団体との連携によって、生涯発達研究所として、多面的な事業展開を継続して行うことができた。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b></p> <p>158 ② 芸術資料館及び法隆寺金堂壁画模写展示館の活用による展覧会の充実強化、奏楽堂における演奏会の内容充実を図る。 <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術資料館・法隆寺金堂壁画模写展示館は博物館相当施設として、展覧会の内容の質的充実及び広報の充実を図る。</li> <li>・奏楽堂における学内演奏について内容の充実及び積極的な広報を行う。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術資料館では「四芸祭学生作品展」始め14件、法隆寺金堂壁画模写展示館では「春季展第2期」始め6件の展覧会を行い、展示作品解説やギャラリートークなどを行うことで、質的充実を図った。また、展覧会情報については、ホームページに掲載する等、広く社会に発信した。</li> <li>・奏楽堂において音楽学部全専攻の学内演奏会を計16回開催し、演奏はもとより、入場受付の設置や場内アナウンス、プログラムチラシ配布など、演奏会全般にわたる内容充実を図った。また、コンサートポスターやチラシを作成したほか、ホームページで広報を行い、広く社会に発信した。</li> </ul>	

<p>159 ③ 愛知芸術文化センター等の文化施設にとどまらず、広く展覧会、演奏会等のアウトリーチ活動を展開し、地域の芸術文化普及に資することにより、大学の知名度（ブランド化）を高める。</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋栄地区にサテライトギャラリーを開設する。</li> <li>・栄町商店街のモニュメント等整備事業に協力する。</li> <li>・あいちトリエンナーレやCOP10と積極的に連携して展覧会・演奏会等を開催する。</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭に音楽・美術両学部が参加して、教員や学生が国際的な舞台上で発表を行う。</li> <li>・芸術資料館のアウトリーチ展覧会を豊田市美術館・清須市はるひ美術館及び芸術資料館で開催する。</li> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業の中で、公開講座やワークショップ、展覧会、演奏会を実施する。</li> </ul>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を上回って実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄町商店街振興組合の協力で名古屋市栄にサテライトギャラリーを開設した。また、栄町商店街のモニュメント等整備事業に協力し、彫刻の設置、バナー掲示等を行った。</li> <li>・あいちトリエンナーレのパートナーシップ事業として公式ガイドブックにアウトリーチ展覧会「アイチ・ジーン」を掲載した他、定期演奏会において、あいちトリエンナーレのロゴを活用する等、地域の芸術文化の普及のために積極的に連携した。また、COP10のパートナーシップ事業として展覧会「横断するランドスケープ」を開催した。</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭において様々なプログラムを展開する拠点（MEGI HOUSE）を設置し、コンサートやワークショップ、レクチャー等を行い、本学の魅力を発信するとともに、国際的な舞台上での発表の場として活用した。また、MEGI HOUSEについては、瀬戸内国際芸術祭開催終了後も引き続き継続展示する作品として選定された。</li> <li>・アウトリーチ展覧会「アイチ・ジーン」を芸術資料館の他、清須市はるひ美術館、豊田市美術館で開催し、美術館収蔵品や愛知県ゆかりの若手作家を中心とした展示を行った。</li> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業として、カリフォルニア大学の教員やケルン音楽大学の教員を招聘し、奏楽堂だけでなく学外のホールにおいても、公開レッスン、レクチャー、演奏会等を実施した。</li> <li>・「SMBC パーク栄コンサート」（三井住友銀行）へ学生等を演奏家として派遣し、地域の芸術文化普及に貢献した。</li> </ul> <p>[参考資料11][データ集9・10]</p>	
<p>イ リカレント教育の実施</p>			
<p><b>【新県立大学】</b></p> <p>160 ① リカレント教育の需要に対応して、社会人学生、研究生、科目等履修生の積極的受入れ等、社会人教育の推進を図る。（県立大学）</p> <p><b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人学生、研究生、科目等履修生の募集要項等を広く県民にホームページ等で公表し、社会人教育の推進を図る。</li> <li>・21年度で終了した文部科学省社会人学び直し事業「医療分野ポルトガル語スペイン語講座」を地域連携センターの一事業として継続して実施する。</li> </ul>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目等履修生等の募集要項をホームページで公表した。また、社会人学生に対応するため、大学院修士課程及び大学院博士課程において、長期履修制度を導入したところ、人間発達学研究科で制度利用者が4名あった。</li> <li>・医療分野ポルトガル語スペイン語講座を履修証明プログラムとして継続実施した。</li> </ul> <p>[参考資料4・7]</p>	

<p>161 ② サテライトキャンパスを拠点とする社会人大学院教育の充実を図るとともに、同キャンパスの学部生の教育研究活動での活用、卒業生をはじめ一般社会への開放を検討する。(県立大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・教育研究活動に資するサテライトキャンパスの利用促進を図る。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・サテライトキャンパスにおいて、医療分野ポルトガル語スペイン語講座の一部を実施したほか、日本職業リハビリテーション学会大会実行委員会、ITSに関する東京大学との連携講座等で活用した。また、同窓生等を対象としたOB教員による講座「県大アゲイン」を開催した。 [利用実績]</p> <table border="1" data-bbox="1207 415 1964 510"> <tr> <td>区 分</td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>利用実績</td> <td>69回</td> <td>178回</td> </tr> </table> <p>[参考資料4]</p>	区 分	21年度	22年度	利用実績	69回	178回	
区 分	21年度	22年度							
利用実績	69回	178回							
<p>162 ③ 看護職の資質の向上に寄与するため、実践セミナー、研究会等を開催する。(看護大学) <b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>								
<p>163 ④ 現職看護師の能力をブラッシュアップし、高度化・専門化する医療に対応できる専門的な技術と知識を有する看護師を養成するため、平成20年度から「がん化学療法看護」と「がん性疼痛看護」の認定看護師教育課程を開設する。(看護大学) <b>新規</b> 20年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> &lt;実施済み&gt;</p>								
<p><b>【芸術大学】</b> 164 ① 芸術に携わる幅広い職業人を対象に、実技指導等を行う講座の開設を検討する。 <b>新規</b> 21年度～検討、23年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・一般社会人や学生、生徒を対象としたサテライト講座を引き続き実施する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・サテライト講座において、座学やワークショップだけでなく声楽、ピアノ、弦楽器の公開レッスンを設定し、内容の充実を図り募集したところ、教員など芸術に携わる方の参加があったことから、今後も引き続き実施していくこととした。 [参考資料9][データ集8]</p>							
<p>165 ② デザイン専攻において、CPD (Continuing Professional Development: 継続的な専門能力開発) の概念を念頭に置いた、リカレント教育の実施を検討する。 <b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b> ・21年度に刊行したCPD教育用の教科書を用いて能力別検定を実施することに協力するとともに、芸大におけるリカレント教育の実施方法について検討する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・芸大の教育方法は、芸術家を養成するための個人指導・少人数教育が中心であり、卒業した者が働きながら又は仕事を離れて行うリカレント教育の趣旨にそぐわないため実施しないこととし、その代替として、卒業後に研究生として受入れる制度があることを学生に周知した。なお、デザイン専攻では、21年度にCPD教育用の教科書を監修しており、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会が主催する能力別検定の実施に協力した。</p>	<p>(前年度評価：Ⅱ)</p>						

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 地域連携に関する目標  
 (4) 国際交流の推進に関する目標

中期目標	教育研究の活性化を図るとともに国際感覚の豊かな人材を育成するため、海外大学との学術交流を推進し、国際社会に貢献するとともに、その成果を地域に還元する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
<p><b>【新県立大学】</b>            166 ① 学術交流協定校の拡充を図るとともに、協定校を中心とした海外大学や研究機関との学術交流を推進する。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b>            ・国際交流推進の政策と体制について検討を進める。            ・21年度学術交流協定を締結した大学との交流の実施を図る。</p>	<p>「年度計画を上回って実施している」  <b>【県立大学】「年度計画を上回って実施している」</b>            ・国際交流推進について検討した結果、23年度から国際交流室を設置することを決定した。            ・これまでの学術交流協定締結校との交流に加え、21年度に学術交流協定を締結した大学と次のとおり交流を行った。            ライツツィヒ大学(ドイツ)            交換留学生：2名受入れ 2名派遣            アリゾナ州立大学(アメリカ)            COP10関連の県大開催事業にアリゾナ州立大学の教員が参加            清州大学(韓国) 交換留学生：2名受入れ 2名派遣            ニューヨーク州立大学フレドニア校(アメリカ)            10名を短期留学生として派遣            四川師範大学(中国)            21年度から県大卒業生向けに用意された留学奨学制度に卒業生1名が参加            ・21年度から協定交渉を進めていたガジャマダ大学(インドネシア)及びサンパウロ大学(ブラジル)と学術交流協定を締結した。また、ガジャマダ大学において、日本語研究発表会を開催した。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b>            学術交流協定校の拡充を図り、交換留学生制度を創設する。また、協定校を中心とした海外大学や研究機関との学術交流を推進する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【芸術大学】</b>            ・協定校の南京芸術学院と合同演奏会などの事業を実施するとともに、エジンバラ美術大学との交流事業を推進する。</p>	<p><b>【芸術大学】「年度計画を上回って実施している」</b>            ・南京市において愛知県と江蘇省の友好提携30周年を記念した南京芸術学院との合同演奏会を行った。また、エジンバラ美術大学の教員と本学教員らによる展覧会「ダブル ディアブルグリグ」を芸術資料館において開催した。            ・芸術の教育・調査・研究に関する情報交換、共同研究、学生の交換留学、教職員の交流等において協力できるよう、新たに、ケルン音楽大(ドイツ)、ボストン美術館芸術大学(米国)、シラパコーン大学(タイ)、マンハッタン音楽院(米国)、</p>	

		<p>クラクフ音楽院（ポーランド）と国際交流協定を締結した。また、今後の交流協定締結について協議を行うため、アヴェッリーノ音楽院（イタリア）、ビクトリア芸術大学（メルボルン大学の一部）及びメルボルン工科大学（オーストラリア）を訪問し、交流協定については今後も引き続き協議を行うこととなった。</p> <p>[参考資料11][データ集11]</p>	
<p><b>【共通】</b> 167 ② 独立行政法人日本学術振興会や独立行政法人国際交流基金が実施する研究者招へい等の事業を活用した外国人研究者の受入れや若手研究者の派遣について積極的に取り組む。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・外国人研究者の受入れや若手研究者の派遣について、利用できる外部資金に係る情報を逐次収集し、教員へ配信し、研究交流支援を継続する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・研究支援・地域連携課が中心となって外国人研究者の受け入れ等に関する情報の収集を行い、逐次発信した。</p>	
	<p><b>【芸術大学】</b> ・教員へ情報を配信して研究交流支援を継続する。また、民間の助成金を活用してタイの研究者を招聘し共同研究を行う。</p>	<p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・芸術情報課において外国人研究者の受け入れ等に関する情報の収集を行い、逐次発信した。 ・大幸財団の助成金を受け、チェンマイ大学（タイ）の研究者を招聘し、彫刻専攻の教員と共同研究を行った。なお、研究成果は、名古屋市栄のサテライトギャラリーで発表した。</p>	
<p>168 ③ 海外への留学生の派遣や海外からの留学生の受入れを促進するため、奨学金のあり方、海外への広報活動などの方策について充実・検討する。<b>新規</b> 19年度～検討・実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・海外への留学生の派遣や海外からの留学生の受入れを促進するため、積極的に学生支援機構等の奨学金や団体等の奨学制度の情報収集や海外への広報活動等を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」 <b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・留学生の受入れや学生の海外への留学を促進するため、奨学金情報を随時ポータルサイト等を利用して周知した。なお、日本学生支援機構の第2種奨学金（短期留学）申請数は、前年度1名から5名に、同機構長期派遣は前年度0名から2名に増加した。 ・日米教育委員会からの照会に応じて、フルブライト留学生1名を受入れた。</p>	
	<p><b>【芸術大学】</b> ・海外への広報活動を充実させるために作成した英語版のホームページを充実発展させる。</p>	<p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・英語版のホームページに、学生寮についての案内を写真付きで掲載するなど、留学生の受入れを促進するために改善を図った。</p> <p>[データ集12]</p>	
<p><b>【新県立大学】</b> 169 ④ 在住外国人児童・住民支援のための日本語教育等、多文化共生社会づくりを推進する活動を充実する。（県立大学）<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・豊田市等近隣の自治体において、在住外国人児童を支援するために日本語教育活動を実施する。</p>	<p><b>【県立大学】</b>「年度計画を十分に実施している」 ・日本語教員課程の担当教員と学生が西保見小学校や豊田市教育委員会において、日本語支援活動を実施した。また、JICAと提携し「国際協力イニシアティブ」事業に参画した。</p>	
<p><b>【芸術大学】</b></p>	<p><b>【芸術大学】</b></p>	<p><b>【芸術大学】</b>「年度計画を十分に実施している」</p>	

<p>170 ⑤ 海外芸術系大学との学生・教員による共同展覧会や共同演奏会の開催等を行う。<b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業等により、海外芸術系大学の学生・教員による共同展覧会（エジンバラ美術大学等）や合同演奏会（ケルン音楽大学）を開催する。</li> <li>・愛知県と江蘇省の友好提携 30 周年記念事業として南京で南京芸術学院との合同演奏会等を実施するとともに、上海万博で特別演奏会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業として、ケルン音楽大学の教員と本学教員との合同演奏会やエジンバラ美術大学の教員と本学教員らによる展覧会「ダブル ディアブルグリグ」を開催した。</li> <li>・南京市において愛知県と江蘇省の友好提携 30 周年及び愛知県立芸術大学・南京芸術学院交流提携 25 周年を記念した合同演奏会を行った。また、上海万博で日本館行事「愛知県ウィーク」において特別演奏会を実施した。</li> </ul> <p>[参考資料 1 1][データ集 9・10]</p>	
--	--	---	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

(1) 経営戦略の確立に関する目標

中期目標	<p>法人の自己決定・自己責任の下で大学の自主・自律的な運営を行う。また、厳しい競争的環境に対応するために、弾力的で機動性のある運営体制を構築する。</p> <p>平成21年度の愛知県立大学と愛知県立看護大学の統合に当たっては、統合後の教育研究活動の充実に資するように、効果的な運営組織を整備する。</p> <p>(1) 経営戦略の確立に関する目標</p> <p>大学の教育研究等機能の充実に支えるため、中・長期的視点に立った経営戦略を確立するとともに、財政基盤の安定化を図る。</p> <p>また、大学の活性化と大学経営の機能強化のため、学外有識者の登用を図るなど、社会との連携強化や開かれた大学運営を推進する。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
171① 民間企業経営者等学外有識者の登用や民間の経営的手法の導入も図りながら、中・長期的な経営計画を立案した上で、学生納付金や外部研究資金の増加等自己収入の拡大を図るとともに、効率的・効果的な予算執行など、財政基盤を強化する経営戦略を確立する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<p>&lt;役員及び経営審議会委員への民間企業経営者の登用：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画の内容を踏まえて作成した収支見直しを見直すとともに、民間の経営ノウハウを大学経営に取り入れ、自己収入の拡大方策や効率的・効果的な予算執行など、財政基盤の強化を図るための戦略的な取組を行う。</li> </ul>	<p>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</p> <p>&lt;役員及び経営審議会委員への民間企業経営者の登用：実施済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況変化を踏まえ、収支見直しを適宜見直した。</li> <li>・また、民間企業経営者を登用した事業予算評価委員会を開催し、民間の経営ノウハウを大学経営に取り込む手法等のアドバイスを受けるとともに、効率的・効果的な予算執行に努めた。</li> </ul>	2	Ⅲ		
172② 理事長及び学長のリーダーシップの下で、各大学の特色や個性を育てる予算配分の重点化など、戦略的な資源配分を行う仕組みを導入する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長裁量研究費など、理事長及び学長の判断による予算配分の重点化を行い、各大学の特色や個性を戦略的に形成する。</li> </ul>	<p>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学の個性と魅力形成を図るための事業支援として、引き続き「理事長特別研究費」を措置した。</li> <li>・各大学長の裁量による事業経費を別途配分し、学長判断による事業展開を図った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料1]</p>	1	Ⅲ		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

(2) 機動的・効率的な運営組織の構築に関する目標

中期目標	<p>理事長・学長のリーダーシップの下で、限られた人的・物的資源の効率的・効果的な活用を図るとともに、迅速かつ適切な意思決定を行うことができる組織運営体制を構築する。</p> <p>また、全学的な目標や方針の下で学部等教育研究組織の機動的かつ戦略的な運営を図るための学部等の組織運営体制を整備する。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
173① 理事長及び学長がリーダーシップを発揮できるよう、それぞれの役割分担の明確化と補佐体制の整備を行うとともに、相互の連携強化と意思疎通の緊密化を図るため、役員会を定期的に開催する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
174② 役員会、経営審議会及び教育研究審議会の役割分担を明確にし、機能的な運営を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
175③ 役員会は、経営と教育研究との一体性を維持するために経営審議会と教育研究審議会、並びに3大学間の調整機能を果たし、また、法人運営に関する意思決定の適正化、透明性を確保するように運営する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
176④ 学部等の運営責任者であり、同時に学長の補佐役である各学部長、各研究科長及び各センター長等が必要なリーダーシップを発揮できるよう、職務に応じた権限と責任の明確化を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
177⑤ 教育研究に関する重要事項の審議については、教育研究審議会で行われることから、学内委員会の整理統合等の見直しを進めるとともに、教授会・研究科会議の審議事項を精査の上、整理する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
178⑥ 新県立大学の運営に当たっては、分離キャンパスの形態を採ることを考慮しつつ、機動的で効率的な組織機能を発揮できるよう、運営体制を再編・整備する。 <b>新規</b> 19年度～検討、21年度～実施	<実施済み>					

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

(3) 教員及び事務職員による一体的な大学運営の確立に関する目標

中期目標	教育研究の充実と適正で効率的な大学運営の実現のために、教員と事務職員が、それぞれの役割を果たすとともに協働を促進できるように、組織運営体制を整備する。特に、事務職員が大学の意思形成や企画・立案に適切に参画しうる制度を構築する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど																								
				自己評価	委員会評価																									
179① 教員と事務職員がそれぞれの専門性を活かすとともに、相互に協力・協働して、教育研究の充実、地域連携の推進、大学運営の効率化などに取り組む体制を構築する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>																													
180② 事務職員の大学運営に係る企画・立案能力や学生・教務事務に関する専門性の向上を図るとともに、大学の意思形成に事務職員が適切に参画できる制度を整備する。 <b>新規</b> 19年度～実施	【人事課】 <大学の意思形成に事務職員が参画できる制度の整備：実施済み> ・各種研修等を活用し、事務職員の企画立案能力や大学運営等に関する専門性の向上に取り組む。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 <大学の意思形成に事務職員が参画できる制度の整備：実施済み> ・職員人材育成方針に基づき、次の研修を実施した。 ①法人採用事務職員新規採用研修（5月中旬） ②トレーナー養成研修（5月下旬） ③法人事務職員集中研修（9月下旬）	1	Ⅲ																										
181③ 法人経営、学生支援のほか、大学の専門分野について専門知識や実務経験を有する者を法人固有の職員として登用する。 <b>新規</b> 19年度～実施	【人事課】 <財務及び学務に係る専門職員の配置：実施済み> ・大学の実務経験を有する者の役職者採用を行う。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 <財務及び学務に係る専門職員の配置：実施済み> ・大学実務経験者を新たに芸大学務部長として採用した。これにより、法人の経営財務部門及び両大学の学務部門の部長職は、全て固有職員が占めることとなった。 [過去3年間の固有職員採用状況] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>役職者</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大学事務経験者</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>民間企業等経験者</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>任期付専門員</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		21年度	22年度	23年度	役職者	1	1	-	大学事務経験者	5	5	4	民間企業等経験者	-	1	4	一般	5	5	7	任期付専門員	-	1	-	2	Ⅲ		
	21年度	22年度	23年度																											
役職者	1	1	-																											
大学事務経験者	5	5	4																											
民間企業等経験者	-	1	4																											
一般	5	5	7																											
任期付専門員	-	1	-																											

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 1 運営体制の改善に関する目標  
 (4) 内部監査機能の充実に関する目標

中期目標 適正な業務運営を保障するため、監査制度の構築とともに、監査業務に従事する職員の専門性の向上を図る。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
182① 法人の業務及び会計処理の適正管理に資するため、会計監査人及び監事監査に併せ、内部監査体制を整備することとし、監査機能の強化の一つとして監査室を設ける。 <b>新規</b> 19年度～検討、20年度～設置	<設置済み>					
183② 監査業務に従事する法人本部経営財務課職員の専門性の向上を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・各種研修等を活用し、監査業務に従事する職員の専門性の向上を図る。	<b>【監査室】「年度計画を十分に実施している」</b> ・文部科学省を始めとする各種機関が開催する研修を監査室長及び担当が各4回受講し、監査に対する知識の習得に努めた。	1	Ⅲ		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標 学術研究の高度化と時代や社会ニーズの変化に的確な対応ができるように、中・長期的な観点に立った学部・学科・研究科の再編を含め、教育研究組織の見直しに取り組む。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
184① 学術研究の動向や社会の変化を見据えて、常に学部・学科などの教育研究組織の改革を構想し、中・長期的な展望に立った再編を検討する。 <b>新規</b> 19年度～検討	<b>【県立大学】</b> ・教育研究の充実のため、学術研究の動向や社会の要請、他大学の特徴ある新しい取り組みについて情報収集を図り、時代に相応しい教育研究組織のあり方について常に検討していく。	<b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・次期中期計画の策定に向けて、大学の将来ビジョンを策定するための委員会を設置することとした。	1	Ⅲ		

<p>185② リカレント教育の需要の高まりや社会人の大学院教育に対する期待に応え、あるいは、公共政策等の学問分野への展開など、新しい時代を拓く「人づくり」の一翼を担えるよう、学部・学科・研究科の編成や運営について、改善や見直しを行う。<b>新規</b> 19年度～検討</p>	<p><b>【県立大学】</b> ・新しい時代に要請される人材育成やリカレント教育等の県民期待に応じていくため、学部・学科・研究科の編成や運営について改善や見直しを行う。</p>	<p><b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ＜国際文化研究科・人間発達学研究科において夜間コース設置＞ ・地域社会のニーズに対応するため、履修証明プログラム「医療分野ポルトガル語スペイン語講座」を実施した。 ・大学の将来ビジョンを検討する中で、大学の教育研究組織のあり方や運営方法を検討することとした。 [参考資料4]</p>	1	Ⅲ		
<p>186③ 教育研究組織の見直しは、自己点検・評価のみならず、第三者評価機関などの意見や評価結果を踏まえて行う。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b> ・教育研究組織の見直しは、教育研究審議会、自己点検・評価を行う委員会、県公立大学法人評価委員会などによる評価結果や意見を反映して行う。</p>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・教育研究組織の見直しを行う際は、教育研究審議会の他、認証評価結果等を踏まえて行っていくこととした。 <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・教育研究組織の見直しを行う際は、大学評価・学位授与機構の認証評価結果も踏まえて行うこととした。</p>	1	Ⅲ		

**第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標**  
**3 人事の適正化に関する目標**  
(1) 柔軟な人事制度の構築に関する目標

中期目標	<p>大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるために、多様な雇用形態、勤務条件、給与等、柔軟な人事制度を構築する。 また、事務職員のうち、業務に高い専門性が求められる分野については、計画的な採用や人材育成を行う。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
<p>187① 大学の諸機能の充実と活性化のために、教員の任用に当たって、任期制や客員教員制度の活用など、多様な雇用形態の導入を検討する。<b>新規</b> 19年度～検討</p>	<実施済み>					
<p>188② 地域貢献・産学連携などの学外活動の積極的展開や教育研究活動の新領域開拓のため、兼業規制の緩和、勤務時間制度の弾力化など、適正かつ合理的な制度を構築する。<b>新規</b> 19年度～検討</p>	<p>・教員の勤務時間制度について、教員の職務の特性を踏まえた制度の導入等を検討する。</p>	<p><b>【人事課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・月単位の変形労働時間制度を構築し導入済み。より柔軟な勤務時間制度の導入の可否については、検討の結果、より厳格に労務管理を行う必要性及び事務量の増大などから、現制度が合理的であると判断した。</p>	1	Ⅲ		
<p>189③ 教育研究活性化のため、多様な雇用形態を活用し、外国人教員の登用を進める。 なお、海外から招聘する外国人教</p>	<実施済み>					

員については、招聘目的、招聘方法及び活用方法に関して明確な制度を構築する。 <b>新規</b> 19年度～実施						
190④ 事務職員については、当面、県からの派遣職員を基本とするが、法人運営及び大学事務に精通した高い専門性を持った人材の確保が急務である。このため、県派遣職員に対する計画的な研修を実施するとともに、平成20年度までには固有職員の採用計画や人材育成方針を策定する。なお、採用計画については、新規学卒者だけでなく、民間企業等経験者の活用を含めたものとする。 <b>新規</b> 20年度採用計画及び人材育成方針を策定	<策定済み>					
191⑤ 事務職員の人材育成と専門性の向上のため、他の大学法人との人事交流の可能性について検討する。 <b>新規</b> 19年度～検討	・近隣の国立大学、公立大学法人と人事交流について検討する。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 ・他大学との人事交流について検討したものの、いまだ法人化後4年目であり、本法人において実務経験を積むことに重点を置くべきであるとの判断から、当面実施しないこととしたが、人的交流を促進する観点から、名古屋市立大学と職員研修での相互参加を試験的に実施した。	1	Ⅲ		
192⑥ 人員配置の効率化の観点から、多様な雇用契約制度の導入や人材派遣の活用を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
193⑦ 教職員の心身のリフレッシュ及び環境負荷の低減を図るため、夏期休暇の一斉取得日（学校休業日）を設定する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 3 人事の適正化に関する目標  
 (2) 公募制の徹底と任期制の導入に関する目標

中期目標	教育研究の充実と活性化を目指し、多様な人材の確保や他大学との人事交流を促すため、各大学の特色を考慮しつつ、大学の教員等の任期に関する法律に基づく任期制を導入する。また、任用制度の透明性を高めるため、採用における公募制度を徹底する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
194① 教員の採用に当たっては、採用公募手続きを法人に一元化の上、学外から分かりやすい採用公募制度を早期に確立する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
195② 教員人事の公平性、客観性及び透明性を確保するため、人事（採用、昇任及び処分）及び勤務成績を適正に審査する機関として、人事委員会を各大学に設置する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
196③ 大学の特色や研究領域の特性を考慮の上、任期制を導入する。 <b>新規</b> 19年度原案作成	<実施済み>					
197④ 任期制の導入に併せ、年俸制の導入について検討する。 <b>新規</b> 19年度～検討	・年俸制導入の可否を検討する。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 ・年俸制導入については、認定看護師教育課程の教員及び県大特任教授教員の任期制導入時点における検討結果と同様、教員の成績評価制度が具体化の途中であり、また、任期制は限定的にしか導入されていないこと等、現状を検討の結果、時期尚早であり、現時点では導入しないことが適切であるとの判断に至った。	1	Ⅲ		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 3 人事の適正化に関する目標  
 (3) 成績評価制度の構築に関する目標

中期目標 教職員の意欲向上と組織の活性化、教育研究や法人・大学運営の質的向上を図るため、成績評価制度を構築する。併せて、努力と実績が適正に反映される処遇制度を構築する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
198① 教職員の職務に対するインセンティブを高めるため、努力と勤務実績に基づく公平な処遇を実現する人事制度を構築する。 <b>新規</b> 19年度～実施	・事務職員を対象とする新制度を実施する。教員については23年度の試行に向け、両大学で更に検討する。	【人事課】「年度計画を十分には実施していない」 ・事務職員については、制度構築し実施した。 ・教員については、両大学が基本方針の策定に向け、検討を行った。	2	II		(前年度評価：II)
199② 教員については、教育活動、研究活動、学内運営、社会貢献の4分野を要素とする評価システムを構築し、研究費、給与等に適正に反映させる。このため、平成19年度に原案作成に着手し、20年度から試行を重ねながらできる限り早期に制度化する。 また、評価の実施方法や活用については、被評価者からの申立てを含め、透明性、信頼性、妥当性、公平性等の観点に立って、適宜、点検と見直しを行い、制度の早期定着化を図る。 <b>新規</b> 19年度検討、20年度～試行	・目標設定及び自己点検・自己評価を引き続き行う。 学生からの評価や教員の目標設定、自己点検・自己評価をもとにしたシステムの導入を検討する。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 ・引き続き、目標設定及び自己点検・自己評価を実施した。また、評価システムの導入については、両大学において教員評価制度の導入に向け、検討を進め具体化した。	1	III		
200③ 事務職員については、愛知県の人事評価制度を踏まえ、勤務意欲の向上が図られる成績評価制度を構築する。 <b>新規</b> 19年度～実施	・事務職員の成績評価を実施し、必要な改善に取り組む。	【人事課】「年度計画を十分に実施している」 ・計画どおり事務職員の成績評価を実施した。また、制度改善に向け、該当職員を対象にアンケートを実施した。	1	III		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 4 事務等の効率化及び合理化に関する目標

中期目標 学生及び教育研究に対するサポート機能の向上と法人・大学運営の効率化を図るため、事務処理及び組織を見直し、合理化を進める。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
201① 事務の効率化を図るため、3大学 共通経費の執行など、共通事務を法 人本部に集約する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
202② 学生に対するサポート体制の 充実と組織のスリム化、学部間の 調整・連携を図るため、学生・教 務関係事務の一元化、学部事務の 簡素化などを行う。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
203③ 大学管理業務の専門性を高める とともに、管理コストの削減を図る ため、アウトソーシングを導入す る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・大学管理業務全般について、既に導入し たアウトソーシングに加えて、必要に応 じた検討をする。	<b>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・警備、清掃、電話交換等6業務については既にアウト ソーシングを導入しており、それ以外のアウトソ ーシングについては、事業予算評価委員会での業務 の効率化、合理化に関する意見などを踏まえながら、 引き続き必要に応じて検討した。	1	Ⅲ		
204④ 出納業務については、迅速で正確 な会計報告を含め、業務処理の適正 化と円滑化を図るため、財務会計シ ステムを導入する。 <b>新規</b> 19年度～実施	・財務会計システムを効率的かつ厳正に 運用するため、適時修正等を加えて一 層の適正化を図る。	<b>【経理出納課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・新規職員を対象に財務会計システムの研修を行い、 財務会計システムの効率的かつ厳正な運営を図っ た。	1	Ⅲ		
205⑤ 学生に対するサポート機能の向 上を図るとともに、システム運用事 務の簡素化及び管理コストの低減 を図るため、3大学の学務・教務シ ステムを共通化する。 <b>新規</b> 19年度～検討、 21年度～実施	<実施済み>					
206⑥ 法人本部と3大学間の連絡調整 事務の省力化、ペーパーレス化を推 進するため、3大学間のネットワ ーク化を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					

第3 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	一定のルールに基づく運営費交付金を主な財源としつつ、外部研究資金の獲得や大学の特性を活用した事業の展開等による自主財源の確保に取り組み、経営基盤を強化する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど																		
				自己 評価	委員会 評価																			
207① 教育研究活動の活性化を図るため、運営費交付金の適正な運用に努めるとともに、受託研究費や科学研究費補助金等を含めた外部資金の積極的獲得に努め、自己収入の増加を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	【2大学共通】 ・受託研究費の獲得や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得を図り、自己収入の増加につなげる。	「年度計画を十分に実施している」 【2大学共通】「年度計画を十分に実施している」 ・受託研究費の獲得や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得を図り、自己収入の増加につなげた。 [データ集6]	1	Ⅲ																				
208② 授業料等学生納付金については、適正な受益者負担などの観点から、適宜見直しを行う。 <b>継続</b> 19年度～実施	・授業料等学生納付金について、受益者負担などの観点から適正額を設定する。	【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」 ・授業料等学生納付金は、法人の経営状況、国公立大学の動向等社会情勢を考慮し、従来と同額とした。	1	Ⅲ																				
209③ 広報活動の充実などにより積極的な学生募集を図り、学生納付金の確保に努める。 <b>新規</b> 19年度県大入試広報室の設置	<入試広報室の設置：実施済み> ・積極的・効果的な広報活動の展開を通して、志願者の増及び入学生確保を図る。	【県立大学】「年度計画を十分に実施している」 <入試広報室の設置：実施済み> ・積極的・効果的な広報活動の展開を通して、志願者の増及び入学生確保を図った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパスの実施</td> <td>2,869名</td> <td>3,003名</td> </tr> <tr> <td>高校での説明会・出張講義</td> <td>53回</td> <td>50回</td> </tr> <tr> <td>大学見学・説明会</td> <td>24回</td> <td>23回</td> </tr> <tr> <td>学外でのガイダンスへの参加</td> <td>18回</td> <td>16回</td> </tr> <tr> <td>23年度入学志願者数</td> <td>3,203名</td> <td>3,409名</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	オープンキャンパスの実施	2,869名	3,003名	高校での説明会・出張講義	53回	50回	大学見学・説明会	24回	23回	学外でのガイダンスへの参加	18回	16回	23年度入学志願者数	3,203名	3,409名	2	Ⅲ		
区分	21年度	22年度																						
オープンキャンパスの実施	2,869名	3,003名																						
高校での説明会・出張講義	53回	50回																						
大学見学・説明会	24回	23回																						
学外でのガイダンスへの参加	18回	16回																						
23年度入学志願者数	3,203名	3,409名																						
210④ 学生納付金の収納について、平成21年度から導入する「学生インフォメーションシステム」を活用し、納期等の周知徹底を図るとともに収納事務の合理化を図る。また、取引金融機関による口座振替（自動引落し）方式を導入することにより、納入率100%を目指す。 <b>新規</b> 19年度～実施	・学生納付金について、「学生インフォメーションシステム」及び学内掲示板やパンフレット等により納期等の周知徹底をはかり、納入率の向上を図る。 ・平成19年度から導入した取引金融機関による口座振替（自動引落し）方式の一層の拡充を図る。	【経理出納課】「年度計画を十分に実施している」 ・学生納付金の納付期限前及び納付期限後において学生インフォメーションシステムにて納付期限等の注意の連絡を行うとともに、学内掲示板等でも納付についての掲示を行い、納入率の向上を図った。 ・学生インフォメーションシステムにて口座振替（自動引落し）の連絡を行うとともに、学生納付金の請求書発送時にも口座振替の案内を同封し、口座振替方式の普及を図った。  (3月末現在) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生納付金納入率</td> <td>99.91%</td> <td>99.89%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	学生納付金納入率	99.91%	99.89%	1	Ⅲ														
区分	21年度	22年度																						
学生納付金納入率	99.91%	99.89%																						

		<p>〔口座振替登録者数〕 (3月末現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県大</td> <td>1,240名(40.6%)</td> <td>1,529名(49.2%)</td> </tr> <tr> <td>看護</td> <td>133名(50.8%)</td> <td>89名(54.9%)</td> </tr> <tr> <td>芸大</td> <td>323名(32.7%)</td> <td>394名(39.1%)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,696名(39.4%)</td> <td>2,012名(47.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(科目等履修生、研究生及び研修生を除く)</p> <p>〔口座振替依頼者数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期授業料</td> <td>1,081人</td> <td>1,569人</td> </tr> <tr> <td>後期授業料</td> <td>1,382人</td> <td>1,904人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	21年度	22年度	県大	1,240名(40.6%)	1,529名(49.2%)	看護	133名(50.8%)	89名(54.9%)	芸大	323名(32.7%)	394名(39.1%)	合計	1,696名(39.4%)	2,012名(47.0%)		21年度	22年度	前期授業料	1,081人	1,569人	後期授業料	1,382人	1,904人				
区分	21年度	22年度																												
県大	1,240名(40.6%)	1,529名(49.2%)																												
看護	133名(50.8%)	89名(54.9%)																												
芸大	323名(32.7%)	394名(39.1%)																												
合計	1,696名(39.4%)	2,012名(47.0%)																												
	21年度	22年度																												
前期授業料	1,081人	1,569人																												
後期授業料	1,382人	1,904人																												
211⑤ 授業料の免除制度については、免除対象者に対する基準を含め、制度全般について見直す。 <b>継続</b> 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人収入に占める減免額の影響の大きさと、減免をめぐる社会情勢を考慮しながら、引き続き適切な制度を検討していく。</li> </ul>	<p>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現行の減免制度の問題点、課題について、各大学担当者を交えて意見交換を行ったが、法人の経営状況、社会情勢等を考慮し、22年度は現行制度を維持した。</li> </ul>	1	Ⅲ																										
212⑥ 大学の教育研究に支障をきたさない限りで学内施設の貸し付けを行い、施設の使用目的に応じた料金を設定し、収入の増加を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>																													
213⑦ その他各大学の特性を活用した自己収入増加の方策を検討する。 <b>新規</b> 19年度～検討	<p>【県立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践センターにおいて、現職看護師のキャリアアップを図る認定看護師の養成等を行うことにより、収入の増加を図る。</li> </ul>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践センターにおいて、現職看護師のキャリアアップを図る認定看護師の養成等を行い、収入の増加を図った。</li> <li>履修証明プログラム「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」を科目等履修生として受け入れる仕組みを整えた。</li> </ul> <p>[参考資料4]</p>	1	Ⅲ																										

第3 財務内容の改善に関する目標  
2 経費の抑制に関する目標

中期目標	教育研究の充実に配慮しながら、管理的経費については、業務運営の合理化、契約方法の改善等により削減を図る。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
214① 効率化係数の対象となる管理的経費については、常に効率的、効果的な執行に努める。 <b>新規</b> 19年度～実施	・管理的経費については、所要額の見直しを行うとともに、2 大学共通契約の一本化及び一般競争入札を実施し、一層の節減を図る。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・コピー用紙の単価契約、複写サービス、自動車・火災・損害保険について、2 大学共通契約の一本化及び一般競争入札を実施した。	1	Ⅲ		
215② 大学の業務全般についてアウトソーシングの可能性を検討し、人件費の削減を図る。 <b>新規</b> 19年度図書館業務の一部を実施	・統合した新県立大学の事務体制を検証しつつ、大学業務全般についてアウトソーシングの可能性を引き続き検討する。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・警備、清掃、電話交換等6業務については既にアウトソーシングを導入しており、それ以外のアウトソーシングについては、事業予算評価委員会での業務の効率化、合理化に関する意見などを踏まえながら、引き続き必要に応じて検討した。	1	Ⅲ		(前年度評価：Ⅱ)
216③ 計画的かつ効率的な予算執行を行うため、大学、学部等の単位で年度別事業実施計画を立てた上で、資金管理を行う。 <b>新規</b> 19年度～実施	・計画的かつ効率的な予算執行を行うため、大学、学部等の単位で事業実施計画を作成・把握した上で、適切な資金管理を行う。	【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」 ・計画的な予算執行を行うため、大学、所属別単位で配分計画書を作成し、適切な資金管理に努めた。また、効果的な予算執行となるよう、適宜、予算の再配分等で対応した。	1	Ⅲ		
217④ 使用エネルギーの実態を把握するとともに、夏季休暇一斉取得日の設定、冷暖房の適正温度設定等に関する学内の啓発活動を進めるなど、省エネルギー対策を徹底することにより、経費の削減を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・冷暖房の適正温度を設定し、学内の啓発活動を進めるとともに、夏季休暇の一斉取得の実施など、省エネルギー対策を徹底することにより、経費の削減を図る。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・夏季休暇の一斉取得を実施した。 ・「さわやかサマースタイルキャンペーン」の実施期間を定め、軽装・ノーネクタイの励行、適正温度での冷房運転の実施を通知した。また、最大電気使用容量を設定し、省エネルギー対策を実施した。	1	Ⅲ		
218⑤ 業務の集約化、複数年契約の導入、一般競争入札による委託業者の決定などにより、維持管理経費の削減を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・業務の集約化、複数年契約の導入及び一般競争入札を実施し、維持管理経費の削減を図る。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・3キャンパス分の契約一本化など、業務の集約化、火災・損害保険契約の長期化(5年契約)の導入及び一般競争入札を実施し、維持管理経費の削減を図った。	1	Ⅲ		
219⑥ 共通使用物品等について一括購入を原則とし、購入経費の削減を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・共通使用物品等のうち、一品目大量購入の可能な品目やその節減効果について検討し、一括購入の拡充を図る。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・オープンカウンターを試行したが、十分な数量が確保されないため節減効果は見られなかった。また、一品目大量購入が可能な品目を検討したが、節減効果があげられるほどの数量が見込まれるものはコピー用紙に限られた。	1	Ⅲ		

第3 財務内容の改善に関する目標  
3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	常に資産の把握・分析を行い、その自己責任において、厳格な管理と効率的・効果的な運用を図る。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
220① 資金の受入れ及び払出しに際しては、資金計画を作成し、効率的かつ確実な資金運用を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・収入・支出などの資金については、資金計画を作成し、保留資金の確実かつ効率的な運用を図る。	<b>【経理出納課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・収入・支出などの資金については、四半期ごとに資金計画を作成し、保留資金の確実かつ効率的な運用を図った。	1	Ⅲ		
221② 施設・設備等の利用実態を把握し、共同利用の推進等資産の効率的な運用を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・施設・設備等の利用実態を把握し、大学間の共同利用を行い、施設の利用促進を図る。	<b>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・県立2大学教員研究交流会を芸大サテライトギャラリーを活用して実施した。	1	Ⅲ		

第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
1 評価の充実に関する目標

中期目標	教育研究活動及び業務運営の改善に絶えず取り組んでいくため、自己点検・評価を定期的に行う。また、外部機関による評価を受ける。 自己点検・評価及び外部機関による評価の結果については、速やかに教育研究活動及び法人運営の改善に活用するとともに、積極的に公表する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
222① 自己点検・評価を確実に実施し、その結果を大学運営に反映するための全学的な体制を整備する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<b>【2大学共通】</b> ・平成19年度に整備した自己点検・評価に係る体制及び実施状況を検証し、必要に応じて見直しを行う。	<b>「年度計画を十分に実施している」</b> <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・評価委員会を3回開催し、19年度に整備した自己点検・評価に係る体制及び実施状況を検証した。 <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b> ・作業部会で過去の自己点検・評価の結果を踏まえながら、自己評価書を作成し、大学評価・学位授与機構の認証評価や訪問調査に対応した。	1	Ⅲ		
223② 愛知県公立大学法人評価委員会に提出する業務実績報告書を作成するため、平成19年度から必要な自己点検・評価を実施する。 <b>新規</b> 19年度～実施	・中期計画・年度計画に対する自己点検・評価を実施し、業務実績報告書を作成する。	<b>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</b> ・21年度業務実績報告書作成時に自己点検・評価を実施した。また、22年度計画について、自己点検による中間フォローを実施し、計画の進捗管理を行った。	1	Ⅲ		

<p>224③ 自己点検・評価の評価項目・評価基準については、大学ごとに継続的な調査・検討を行い、評価方法の改善を図る。<b>継続</b> 19年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>          ・自己点検・評価の評価項目・評価基準については、大学ごとに継続的な調査・検討を行い、評価方法の改善を図る。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・自己点検・評価に係る相互チェック体制を4項目(教育・研究・学内行政・社会貢献)に拡大し実施した。  <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・自己点検・評価は、大学評価・学位授与機構の基準に基づいて行うこととしており、それに基づいて実施した。</p>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		
<p>225④ 認証評価機関の評価については、芸術大学は平成22年度までに、新県立大学は平成23年度までに、それぞれ受ける必要があることから、各大学において、20年度から認証評価機関の指定する評価基準に基づく自己点検・評価を実施するよう対処していく。<b>新規</b>20年度～実施</p>	<p><b>【2大学共通】</b>          ・認証評価機関の評価基準に基づき、自己点検・評価を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・23年度に認証評価機関による評価を受けるための作業を進めた。  <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・大学評価・学位授与機構の基準に基づき自己評価書を作成し、認証評価機関の評価を受け、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている、という評価を得た。          [参考資料12]</p>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		
<p>226⑤ 評価結果に基づく改善課題に積極的に取り組み、着実に大学運営に反映させる。<b>新規</b> 20年度～実施</p>	<p>・中期計画・年度計画の進行管理を的確に実施し、その着実な推進を図る。          ・愛知県公立大学法人評価委員会の評価結果を踏まえ、問題点の改善を図る。          ・学生による授業評価の結果を踏まえて、教育内容・教育方法の改善に取り組む。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」  <b>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・法人評価委員会の評価結果を踏まえ、課題への対応、改善に努めるとともに、22年度計画について、自己点検による中間フォローを実施し、計画の進捗管理を行った。  <b>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・学生による授業アンケートの結果を踏まえて、教育内容・教育方法の改善に取り組んだ。  <b>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・授業評価アンケートの集計結果を各担当教員へ配布し、授業改善に活用した。</p>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		
<p>227⑥ 評価結果を、ホームページや印刷物により、積極的に公表する。<b>新規</b> 19年度～実施</p>	<p>・「業務実績報告書」及び「業務実績に関する評価結果」を法人本部のホームページにおいて公表する。</p>	<p><b>【経営企画課】「年度計画を十分に実施している」</b>          ・「業務実績報告書」及び「業務実績に関する評価結果」を法人本部のホームページにおいて公表した。</p>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		

第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
2 情報公開等の推進に関する目標

中期目標	広報活動を充実するとともに、法人の業務運営、大学の教育研究の実績等に関する情報を積極的に公表するなど、開かれた大学として県民に対する説明責任を果たす。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
228① 広報活動を充実し、大学における教育・研究や地域連携の状況など、各種情報を提供する刊行物の発行、ホームページの活用など、県民・地域に積極的に発信する。 特に、入学案内、教員の研究に関する情報、公開講座等催事情報など、受験生や県民にとって関心の高い情報については、ホームページを活用し、常に最新で分かりやすい情報提供に努める。 <b>新規</b> 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対外広報誌、学内広報誌、ホームページ、一般広報誌への情報提供、マスコミとの連携等多様なメディアを活用した広報活動の積極的な展開を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝日新聞の企画「東海の大学力 真価の証明」に参加した。また、名古屋大学及び名古屋市立大学との入試の合同説明会を松本市で開催した他、オープンキャンパス、高校訪問、高校での出張授業、予備校等での進学ガイダンスへの参加等、積極的な広報活動を行った。</li> </ul> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学報やPocketMu（演奏会展覧会情報誌）を作成するとともに、ホームページにも催物の年間予定を掲載し、積極的な広報を行った。</li> </ul>	2	Ⅲ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学案内、教員の研究に関する情報、公開講座等催事情報など、受験生や県民にとって関心の高い情報については、ホームページを活用して常に最新で分かりやすい情報提供に努める。</li> </ul>	<p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学報、広報誌（「探県大」）、ホームページによる広報活動を行った。</li> </ul> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験生の関心の高い募集要項をホームページに継続して掲示し、次年度入試の参考にできるようにした。また、常に最新でわかりやすい情報となるよう情報の更新に努めた。</li> </ul>				
229② 愛知県情報公開条例に基づく情報開示請求に迅速に対応できるように、情報の適切な整理と管理に努める。 <b>新規</b> 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県情報公開条例に基づく情報開示請求に迅速に対応できるように、情報の適切な整理と管理に努める。</li> </ul>	<p>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の適切な取り扱い、啓発に努めた。</li> </ul>	1	Ⅲ		
230③ 愛知県個人情報保護条例に基づき、関係規程や管理体制を整備し、適正な個人情報保護を行う。 <b>新規</b> 19年度～実施	<p>&lt;関係規程・管理体制：整備済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な個人情報保護を行う。</li> </ul>	<p>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</p> <p>&lt;関係規程・管理体制：整備済み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規程等に従い、適正に個人情報保護を行った。</li> </ul>	1	Ⅲ		

第5 その他業務運営に関する重要目標  
1 施設・設備の活用等に関する目標

中期目標	大学施設については、利用状況を把握し、有効活用を図るとともに、良好な環境を保つため、施設の機能保全及び維持管理を計画的に実施する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
231① 良好な教育研究環境を確保するため、施設・設備の定期的な点検を行うとともに、適切な管理・保全のため、必要な施設・設備改修計画を策定する。 <b>新規</b> 19年度改修計画策定、 20年度～改修実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な教育研究環境を確保するため、施設・設備の定期的な点検を行うとともに、改修計画に基づき必要な施設・設備の改修を実施する。</li> <li>定員増による食堂の混雑を緩和するため、現食堂の隣にラウンジ棟の整備を進める。</li> </ul>	<p><b>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県大長久手キャンパスにおいて、改修計画に基づき各棟のブラインドの更新を順次行うなど、必要な施設・設備の改修を実施した。また、外部の専門家を交えて、施設・整備検討会を実施し、省エネルギー対策を検討した。</li> <li>県大長久手キャンパスにおいて、食堂ラウンジ棟の増設工事に着手した。</li> <li>芸大の今後のキャンパス整備の基本方針となる施設整備ビジョンを策定し、報告書を取りまとめた。また、施設整備ビジョン検討会の意見や施設整備委員会の調査を踏まえ、新音楽学部校舎の実施設計に関わった。</li> </ul>	1	Ⅲ		
232② 21年度の新県立大学の設置に合わせ、教養教育の充実を図るため、新講義棟を整備する。 <b>新規</b> 19年度実施設計、20年度建設工事	<実施済み>					
233③ 21年度に芸術大学の学生寮及び教職員住宅が廃止されるのに合わせて、優秀な学生・教員を確保するため、新しい学生寮及び教員宿舎を整備する。 芸術大学の土地の一部を民間事業者へ賃貸し、その建設及び運営は、民間事業者が実施し、大学が平成21年度から35年間借り上げる。費用は原則、入寮者等の賃料で賄う。 <b>新規</b> 20年度検討、21年度建設	<実施済み>					

第5 その他業務運営に関する重要目標  
2 安全管理に関する目標

中期目標	安全で安心な教育研究環境を確保するため、事故や犯罪、災害の発生を未然に防止するとともに、事故等が起きた場合においても適切に対処するための危機管理体制を整備する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウ エ イ ト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己 評価	委員会 評価	
234① 安全衛生管理・事故防止に努めるため、管理責任者を配置するなど、総合的な体制を整備する。 <b>新規</b> 19年度～実施	<実施済み>					
235② 化学物質等の適切な管理及び廃棄物の適正な処理を行う。 <b>継続</b> 19年度～実施	・化学物質等の適切な管理及び廃棄物の適正な処理を行う。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・看護学部において、適切な管理が必要な科学物質等について、適切な管理及び適正な廃棄物処理を行った。	1	Ⅲ		
236③ 学生に対する安全教育及び実験補助者を対象とする研修等を定期的に行う。 <b>継続</b> 19年度～実施	【2大学共通】 ・年度始めのガイダンスや実験実習の事前説明会において安全衛生教育を実施する。	「年度計画を十分に実施している」 【県立大学】「年度計画を十分に実施している」 ・看護学部において、安全衛生教育に必要な事項を「実習要領」と「看護学生必携」に記載し、各学年と領域単位でオリエンテーションを行った。 【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」 ・新入生に対する学生生活ガイダンスのほか、自家用車等での通学を希望する学生に対して交通安全に関する講習会を実施した。	1	Ⅲ		
237④ 教職員及び学生の安全確保のため、防災及び防犯対策を確立する。 <b>継続</b> 19年度～実施	・災害、犯罪情報の周知を図るとともに、地域・消防・警察と連携し、防災防犯対策の確立に取り組む。 ・大学敷地内に街路灯を増設する等、防犯対策整備を実施する。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・防災訓練の際に、長久手町の消防本部の協力により防災に対する意識の向上を図った。  ・大学敷地内に街路灯・防犯カメラを増設し、防犯対策整備を実施した。 県大長久手キャンパス：南門付近整備 2大学：入り口付近及び学生寮付近街灯等整備 芸大：防犯カメラ増設	1	Ⅲ		
238⑤ 災害発生時における安全対策マニュアルを作成するとともに、防災訓練等の充実を図る。 <b>新規</b> 19年度～実施	・災害発生時に対応する危機管理マニュアルを状況に合わせて見直しする。  ・計画的に防災訓練を実施する。	「年度計画を十分に実施している」 【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・昨年度マニュアルを作成したので、今後、状況に合わせて見直しを行うこととした。 【県立大学】「年度計画を十分に実施している」 ・災害発生時に対応する危機管理マニュアルと県立大学の現況との照らし合わせを行った。今後、状況の変化に合わせて見直しを行う。 ・教職員により組織した自衛消防隊に対し、防災活動に関する説明会を開催した。また、消火・避難誘導	1	Ⅲ		

		等のシミュレートを含む防災訓練を計画的に実施した。 【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」 ・教職員や学生を対象に、消火活動の実践を含んだ防災訓練を実施した他、職員を対象にAED(自動体外式除細動器)講習会を実施した。				
239⑥ 東海、東南海地震に備え、学生及び教職員の安否確認が行える体制を整備する。【継続】 19年度～実施	・安否確認システムを整備し運用する。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・県大においては、システムを開発・整備した。芸大においては、ポータルサイトを利用した安否確認の体制を整備した。	1	Ⅲ		
240⑦ 事故や災害のリスクを踏まえ、法人の財産や人命等に係る損害保険に加入する。【新規】 19年度～実施	・事故や災害のリスクを踏まえ、法人の財産や人命等に係る損害保険に加入する。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・事故や災害のリスクを踏まえ、法人の財産や人命等に係る長期の火災・損害保険に加入した。	1	Ⅲ		
241⑧ 情報セキュリティ・ポリシーを策定し、学内の情報セキュリティ管理体制の整備と情報管理の適正化を図り、教職員及び学生のセキュリティ意識の向上に努める。【新規】 19年度～実施	・法人全体の情報セキュリティ・ポリシーをもとに、大学法人として情報セキュリティの指針及び遵守事項を職員・学生に明確に示すとともに、その遵守状況の把握とセキュリティ意識の向上に努める。	【総務課】「年度計画を十分に実施している」 ・セキュリティ意識の向上を図るため、啓発を行うとともに遵守状況調査を行った。	1	Ⅲ		

第5 その他業務運営に関する重要目標  
3 社会的責任に関する目標

中期目標	人権の尊重、環境への配慮等、社会的責任に十分留意した教育研究環境を実現するため、教職員及び学生の意識向上を図る。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
242① セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の人権侵害を防止するための体制を整備する。【継続】 19年度～実施	<実施済み>					
243② 教職員及び学生の意識を向上させるため、定期的には人権に関する研修や啓発活動などを実施する。【継続】 19年度～実施	・人権侵害の防止のために、研修会の開催やパンフレット配付など啓発活動を実施する。	「年度計画を十分に実施している」 【人事課】「年度計画を十分に実施している」 ・法人事務職員集中研修(9/27～29)において外部講師による講義などを実施した。 【県立大学】「年度計画を十分に実施している」 ・学生便覧やチラシでのハラスメント防止のための啓発活動を行ったほか、教職員向けにアカデミック・ハラスメントとパワー・ハラスメントに関する啓発研究会を開催した。	1	Ⅲ		

		<p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部が実施したハラスメント、人権、倫理に関する研修に参加した。また、芸大において独自にハラスメント講習会を実施した。</li> </ul>				
244③ 環境負荷の低減や循環型社会の実現に寄与する活動を推進する。 新規 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リデュース・リユース・リサイクルの推進、節水、電力消費の抑制、省エネルギー対策等を徹底する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度策定予定の施設・設備改修計画に省エネルギー対策を盛り込むこととし検討を開始した。</li> </ul> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古紙を回収に出すとともに、廃PCもリサイクルをしたことで、リデュース・リユース・リサイクルを推進した。また、節水や、学内の照明の一部をLED電球に取り替える等、省エネルギー対策を徹底した。</li> </ul> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の照明の一部をLED電球に取り替える等、省エネルギー対策を実施した。</li> </ul>	1	Ⅲ		
245④ 環境法令等を遵守するとともに、環境保全意識を高める活動を推進する。継続 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県環境基本計画に基づく民間団体としての責務を果たすとともに、学生や教職員の環境保全意識の高揚を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【総務課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいちエコモビリティ推進協議会に参加し、環境意識の啓発に努めた。</li> </ul> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東部丘陵地域の生物多様性を保全・再生することを目的とした生態系ネットワーク協議会に参画するとともに、その具体的活動として教員・学生とともに遊歩道の清掃を定期的に行うなど環境保全に努めた。</li> </ul> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複写機を使用する際に印刷枚数を記載させる等、学生や教職員の環境保全意識の高揚を図った。</li> </ul>	1	Ⅲ		
246⑤ 教職員の倫理意識を高めるため、倫理規定を策定するとともに、倫理に関する研修などを実施する。継続 19年度～実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を活用して、教職員の倫理意識の高揚を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>【人事課】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事務職員集中研修(9/27～29)において外部講師による講義などを実施した。</li> </ul> <p>【県立大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止のための教職員研修会を開催するとともに、科学研究費説明会において、研究費の不正使用防止のための研修を行った。</li> </ul> <p>【芸術大学】「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部が実施したハラスメント、人権、倫理に関する研修に参加した。また、芸大において独自にハラスメント講習会を実施した。</li> </ul>	1	Ⅲ		

**第6 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画**

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

**第7 短期借入金の限度額**

中期計画	年度計画	実績
248① 短期借入金の限度額 13億円 ② 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。	① 短期借入金の限度額 13億円 ② 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。	該当なし

**第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画**

中期計画	年度計画	実績
249 予定なし	予定なし	該当なし

**第9 剰余金の使途**

中期計画	年度計画	実績
250 決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・県大・芸大の防犯対策、県大の食堂棟増築に剰余金を充当。

第10 施設・設備に関する計画

中期計画			年度計画			実績		
251			<新県立大学新講義棟整備：実施済み> <芸術大学教員寮解体・造成：実施済み>			<新県立大学新講義棟整備：実施済み> <芸術大学教員寮解体・造成：実施済み>		
施設名	予定額	財源						
新県立大学新講義棟整備 20年度	286,283千円	施設整備費補助金 226,071千円 運営費交付金 60,212千円						
芸術大学教員寮解体・造成 20年度	100,000千円	運営費交付金又は教育研究環境整備等積立金 100,000千円						
注) 金額及び財源については見込である。 注) 芸術大学教員寮の解体・造成は、新しい学生寮及び教員宿舎の整備のために行うものである。 21年度に芸術大学の学生寮及び教職員住宅が廃止されるのに合わせて、優秀な学生・教員を確保するため、新しい学生寮及び教員宿舎を整備する。 芸術大学の土地の一部を民間事業者へ賃貸し、その建設及び運営は民間事業者が実施し、大学が借り上げる。費用は原則、入寮者等の賃料で賄う。								
施設名	予定額	財源	施設名	予定額	財源	施設名	実績額	財源
県大・芸大防犯対策整備 22年度	34,400千円	教育研究環境整備等積立金 34,400千円	新県立大学及び芸術大学防犯対策施設整備	33,700千円	教育研究環境整備等積立金 33,700千円	新県立大学及び芸術大学防犯対策施設整備	27,846千円	教育研究環境整備等積立金 27,846千円
県大食堂棟増築 23年度	253,000千円	教育研究環境整備等積立金 253,000千円	新県立大学食堂棟増築	250,000千円	教育研究環境整備等積立金 250,000千円	新県立大学食堂棟増築	70,922千円	教育研究環境整備等積立金 70,922千円 (22年度決算では建設仮勘定に計上)
注) 金額及び財源については見込である。 注) 県大・芸大の防犯対策整備は、敷地内道路等への街路灯増設などを行うものである。 県大の食堂棟増築は、学生の食事、集い・交流の場の整備のために行うものである。								

第11 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
252 教育研究機能を始めとする大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるための人事制度の整備を進める。 中期目標を達成するための措置に掲げる人事制度の事項について、着実に取組む。(計画策定後記載)	中期計画に掲げる人事制度の事項について、着実に取組む。	「計画の実施状況等」を参照

**第12 積立金の使途**

中期計画	年度計画	実績
253 なし	なし	なし

平成22年度 学部、研究科の定員充足率

大学名	学部の学科、研究科の専攻名		収容定員		収容数		定員充足数		
			(a)	(名)	(b)	(名)	(b)/(a)*100 (%)	(%)	
(旧) 県立大学	昼間主	文学部	365	418	115				
		国文学科	80	103	129				
		英文学科	80	91	114				
		日本文化学科	60	70	117				
		児童教育学科	60	67	112				
		社会福祉学科	85	87	102				
		外国語学部	374	499	133				
		英米学科	80	100	125				
		フランス学科	83	116	140				
		スペイン学科	83	118	142				
		ドイツ学科	63	80	127				
		中国学科	65	85	131				
		夜間主	文学部	183	230	126			
			国文学科	30	40	133			
	英文学科		60	75	125				
	日本文化学科		30	42	140				
	児童教育学科		20	26	130				
	社会福祉学科		43	47	109				
	外国語学部		194	276	142				
	英米学科		60	91	152				
	フランス学科		33	49	148				
	スペイン学科		33	51	155				
	ドイツ学科		33	40	121				
	中国学科		35	45	129				
	昼間主		情報科学部	140	183	131			
			情報システム学科	80	104	130			
		地域情報科学科	60	79	132				
	昼間主計			879	1100	125			
	夜間主計			377	506	134			
	学部計			1256	1606	128			
	国際文化研究科			4	16	400			
		前期	国際文化専攻	-	6	-			
		後期	国際文化専攻	4	10	250			
情報科学研究科			5	9	180				
	前期	情報科学専攻	-	3	-				
	後期	情報科学専攻	5	6	120				
大学院合計			9	25	278				

看護大学	看護学部	看護学科	160	162	101
	看護学研究科	修士課程	-	2	-

大学名	学部の学科、研究科の専攻名		収容定員		収容数		定員充足数	
			(a)	(名)	(b)	(名)	(b)/(a)*100 (%)	(%)
(新) 県立大学	外国語学部		680	738	109			
		英米学科	200	208	104			
		ヨーロッパ学科	300	325	108			
		フランス語圏専攻	100	107	107			
		スペイン語圏専攻	100	109	109			
		ドイツ語圏専攻	100	109	109			
		中国学科	100	121	121			
		国際関係学科	80	84	105			
	日本文化学部		200	221	111			
		国語国文学科	100	114	114			
		歴史文化学科	100	107	107			
	教育福祉学部		180	190	106			
		教育発達学科	80	85	106			
		社会福祉学科	100	105	105			
	看護学部		180	182	101			
		看護学科	180	182	101			
	情報科学部		180	189	105			
		情報科学科	180	189	105			
	学部合計			1,420	1,520	107		
	国際文化研究科			50	47	94		
		博士前期	国際文化専攻	30	27	90		
		博士前期	日本文化専攻	10	12	120		
		博士後期	国際文化専攻	6	6	100		
		博士後期	日本文化専攻	4	2	50		
	人間発達学研究科			14	15	107		
		修士	人間発達学専攻	14	15	107		
	看護学研究科			50	47	94		
		博士前期	看護学専攻	42	38	90		
		博士後期	看護学専攻	8	9	113		
	情報科学研究科			70	61	87		
		博士前期	情報システム専攻	20	29	145		
		博士前期	メディア情報専攻	20	16	80		
		博士前期	システム科学専攻	20	14	70		
	博士後期	情報科学専攻	10	2	20			
大学院合計			184	170	90			

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員	収容数	定員充足数
		(a) (名)	(b) (名)	(b)/(a)*100 (%)
芸術大学	美術学部	380	413	109
	美術科	200	212	106
	日本画専攻	40	43	108
	油画専攻	100	104	104
	彫刻専攻	40	40	100
	芸術学専攻	20	25	125
	デザイン・工芸科	180	201	112
	デザイン専攻	140	159	114
	陶磁専攻	40	42	105
	音楽学部	400	418	105
	音楽科	400	418	105
	作曲専攻	40	40	100
	声楽専攻	120	120	100
	器楽専攻	240	258	108
	学部計	780	831	107
	美術研究科	95	133	140
	前期 美術専攻	80	118	148
	後期 美術専攻	15	15	100
	音楽研究科	69	70	101
	前期 音楽専攻	60	62	103
後期 音楽専攻	9	8	89	
大学院合計	164	203	124	